ISSN 2432-9304

ERINA REPORT

Economic Research Institute for Northeast Asia

PLUS

特集: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)と朝鮮経済

Special Feature: Novel Coronavirus Infection (COVID-19) and the Economy of the Democratic People's Republic of Korea (DPRK)

■経済制裁および新型コロナウイルス発生の下における朝鮮経済の方向性
—「整備・補強戦略」と政策遂行の新たな形　朴在勲
Direction of the DPRK Economy—"strategy for the development and reinforcement of the industrial base" and new ways for implementation of a policy (Summary) PAK Jae Hun

■北朝鮮の新型コロナウイルス感染症の現状と展望　三村光弘
Current Status and Prospects of New Coronavirus Infections in the Democratic People's Republic of Korea (Summary) MIMURA Mitsuhiro

■経済の多角化:モンゴルの事例　ドゥルグーン・ダムディンオド
Economic Diversification: Case Study of Mongolia (Summary) DULGUUN Damdin-Od

■北東アジア経済統合のためのボトムアップ型アプローチ　ニンジン・バター
Bottom-up Approach of Economic Integration in Northeast Asia (Summary) NINJIN Bataa

■中国のTPP加入申請とアジア太平洋　中島朋義
China's Application for TPP and the Asia-Pacific (Summary) NAKAJIMA Tomoyoshi

■中国西部地域のデジタル金融包摂・産業構造のアップグレードと経済の高品質成長についての研究　李聖華、張栄
Study on Digital Financial Inclusion, Upgrading Industrial Structure and High Quality Growth of Economy in the Western Region of China (Summary)
LI Shenghua、ZHANG Rong

2022
AUGUST
No.167

本誌の目指すもの

ERINA REPORTは135号よりERINA REPORT（PLUS）として、現実の経済交流という視点を取り入れた新たな編集形態をとり、多角的視点から北東アジア経済に切り込む総合的な学術雑誌となりました。本誌が目指すのは、北東アジア経済に関する独自性の高い学術論文に加えて、この地域における各国の最新の政策動向、実態に肉薄した現地調査レポートや有識者の視点などを掲載することで、理論と現実を結合させた総合的な情報を提供するとともに、北東アジア研究に質の高い研究素材を提供していくことです。

目　次

特集：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と朝鮮経済

Special Feature: Novel Coronavirus Infection (COVID-19) and the Economy of the Democratic People's Republic of Korea (DPRK)

■特集にあたって …… 1
ERINA 調査研究部主任研究員　三村光弘

On the Special Feature …… 2
MIMURA Mitsuhiro, Senior Research Fellow, Research Division, ERINA

■経済制裁および新型コロナウイルス発生の下における朝鮮経済の方向性
――「整備・補強戦略」と政策遂行の新たな形 …… 3
ERINA 共同研究員　朴在勲

Direction of the DPRK Economy —"strategy for the development and reinforcement of the industrial base" and new ways for implementation of a policy (Summary) …… 14
PAK Jae Hun, Collaborative Researcher, ERINA

■北朝鮮の新型コロナウイルス感染症の現状と展望 …… 15
ERINA 調査研究部主任研究員　三村光弘

Current Status and Prospects of New Coronavirus Infections in the Democratic People's Republic of Korea (Summary) …… 21
MIMURA Mitsuhiro, Senior Research Fellow, Research Division, ERINA

■経済の多角化：モンゴルの事例 …… 22
内陸発展途上国国際シンクタンク所長　ドゥルグーン・ダムディンオド

Economic Diversification: Case Study of Mongolia (Summary) …… 25
DULGUUN Damdin-Od, Executive Director, International Think Tank for Landlocked Developing Countries

■北東アジア経済統合のためのボトムアップ型アプローチ …… 26
モンゴル安全保障戦略研究所研究員　ニンジン・バター

Bottom-up Approach of Economic Integration in Northeast Asia (Summary) …… 28
NINJIN Bataa, Researcher, Mongolian Institute of Northeast Asian Security and Strategy

■中国の TPP 加入申請とアジア太平洋 …… 29
ERINA 調査研究部主任研究員　中島朋義

China's Application for TPP and the Asia-Pacific (Summary) …… 33
NAKAJIMA Tomoyoshi, Senior Research Fellow, Research Division, ERINA

■中国西部地域のデジタル金融包摂・産業構造のアップグレードと経済の高品質成長についての研究 …… 34
延辺大学経済管理学院副教授・ERINA 共同研究員　李聖華
延辺大学経済管理学院修士課程　張栄

Study on Digital Financial Inclusion, Upgrading Industrial Structure and High Quality Growth of Economy in the Western Region of China (Summary) …… 43
LI Shenghua, Associate Professor, School of Economic Management, Yanbian University
Collaborative Researcher, ERINA
ZHANG Rong, Master Course Student, School of Economic Management, Yanbian University

■イベント

◎国際人材フェア･にいがた2023開催報告 …… 44
ERINA 企画･広報部長　新保史恵

■活動報告

◎第7回北東アジアの安全保障に関するウランバートル対話 …… 48
ERINA 調査研究部主任研究員　三村光弘

■北東アジア動向分析 …… 49
■研究所だより …… 63

特集：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と朝鮮経済

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘

今号の特集は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と朝鮮経済と題して、朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮とする）におけるCOVID-19が経済にもたらす影響と、それを含めた北朝鮮経済の方向性についての2本の論文で構成されている。

最初の論文は朴在勲共同研究員による「経済制裁および新型コロナウイルス発生の下における朝鮮経済の方向性―「整備・補強戦略」と政策遂行の新たな形」である。朝鮮労働党第8回大会において策定された「国家経済発展5カ年計画」は、各経済部門間の有機的連携を復旧し経済の自立的基盤を強固にすることで、対外経済関係に左右されずに経済運営を行えるようにする整備・補強戦略が具現化したものであり、「自力更生、自給自足」を基本テーマとしながら進められていると主張している。このような中、2022年5月にCOVID-19患者が発生したことを受けて、朝鮮労働党第8期第5回総会拡大会議では、2022年度上半期の経済政策の執行について、非常事態の下でも安定と発展スピードを堅持していると評価しながら、農業と生活に必要とされる消費財の生産を今年の経済課題の急務であると提起した。この論文は、COVID-19の感染拡大が北朝鮮の今後の経済運営にマイナスの影響を及ぼすことは避けられないと結論づけている。

次の論文は拙稿「北朝鮮の新型コロナウイルス感染症の現状と展望」である。北朝鮮は2022年5月12日に開催された朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者が出たことを初めて認めた。「発熱者」は5月15日をピークに一貫して下がり続けている。中朝貿易は、2020年1月30日の特別防疫体制への移行によって中朝国境が閉鎖されたことにより、2020年は前年に比べて大きく減少した。2022年1月の鉄道輸送の再開により、1月～4月の中国の北朝鮮への輸出が前年比で大幅に増加したが、4月下旬の鉄道輸送の停止にともない、5月には大幅に減少した。中国共産党第20回大会の終了とともに、中国がウィズコロナに本格的に移行するとすれば、北朝鮮も国境の通行再開など、これまでとは異なった対応を取ることが予想されると結論づけている。

自立的民族経済建設路線の下で、自力更生、自給自足を旨としている北朝鮮経済も、中国をはじめとする外国との経済関係なしでは成り立たない。今後の展開を考えるときには、国内の政策決定のみならず、対外的関係の変化の動向にも注意を払う必要があるだろう。

On the Special Feature : Novel Coronavirus Infection (COVID-19) and the Economy of the Democratic People's Republic of Korea (DPRK)

MIMURA Mitsuhiro
Senior Research Fellow, Research Division, ERINA

This issue's special feature, titled "Novel Coronavirus Infection (COVID-19) and the Economy of the Democratic People's Republic of Korea (DPRK)", consists of two papers on the impact of COVID-19 on the economy in the Democratic People's Republic of Korea (hereinafter referred to as the DPRK) and the direction of the DPRK economy, including its impact.

The first article, "Direction of the DPRK Economy— 'strategy for the development and reinforcement of the industrial base' and new ways for implementation of a policy," by Pak Jae Hun. The "Five-Year National Economic Development Plan" formulated at the 8th Congress of the Workers' Party of Korea (WPK) embodies a development and reinforcement strategy to restore organic linkages among economic sectors and strengthen the economy's independent foundation so that the economy can be managed without being influenced by foreign economic relations. It is being carried out under the basic theme of 'self-reliance and self-sufficiency'. The DPRK experienced an outbreak of COVID-19 patients in May 2022. The Expanded Session of the Fifth General Assembly of the Eighth Session of the Workers' Party of Korea assessed the execution of economic policies in the first half of FY2022 as adhering to stability and the speed of development even under the state of emergency. At the same time, it stipulated that agriculture and the production of consumer goods needed for daily life were urgent issues on this year's economic agenda. The paper concluded that COVID-19 will inevitably have a negative impact on future economic management. It also concludes that the future course of the DPRK's party and government will be closely watched.

The following paper is my article, "Current Status and Prospects of New Coronavirus Infections in the Democratic People's Republic of Korea". The DPRK admitted for the first time that it had a case of new-type coronavirus infection (COVID-19) at the 8th meeting of the Political Bureau of the Central Committee of the Workers' Party of Korea held on May 12, 2022. The number of "fever cases" in the DPRK peaked on May 15 and has since been consistently falling. Sino-DPRK trade declined significantly in 2020 compared to the previous year due to the closure of the Sino-DPRK border with the transition to a special quarantine regime on January 30, 2020; with the resumption of railway transport in January 2022, Chinese exports to the DPRK from January to April of the same year increased significantly year-on-year. However, with the suspension of railway transport in late April, they declined significantly in May. The report concludes that if China were to make a full-scale transition to the new normal with COVID-19 with the conclusion of the 20th Congress of the Communist Party of China, North Korea would be expected to take a different approach, such as reopening border crossings.

Even the DPRK economy, which is based on the self-reliance and self-sufficiency of its people, cannot exist without economic relations with China and other foreign countries. When considering future developments, it will be necessary to pay attention not only to domestic policy decisions but also to trends in changes in foreign relations.

経済制裁および新型コロナウイルス発生の下における朝鮮経済の方向性
――「整備・補強戦略」と政策遂行の新たな形

ERINA 共同研究員
朴在勲

要　旨

朝鮮民主主義人民共和国（以下、朝鮮）は、2021年1月に開催された朝鮮労働党第8回大会において、新たな「国家経済発展5カ年計画」（以下、「5カ年計画」）を策定した。これは、国連安保理による経済制裁に加え、新型コロナの影響を抑えるために自らとった全面的な国境封鎖に伴う、対外経済関係の実質的な遮断という厳しい経済環境を前提として策定されたものであった。

「5カ年計画」は、各経済部門間の有機的連携を復旧し経済の自立的基盤を強固にすることで、対外経済関係に左右されずに経済運営を行えるようにする整備・補強戦略が具現化したものであり、「自力更生、自給自足」を基本テーマとしながら進められている。

これは、朝鮮が建国以来堅持している自立的民族経済建設路線を再確認するものであり、自ら置かれた現実的状況の困難さを、それによって突破していくのだという、党と国家の強い意志を再確認したものだと言えよう。

孤立無援とも言える厳しい環境の中でも、あくまでも伝統的な路線を貫く姿を見せる一方で、これまでの経済運営システムに大胆にメスを入れ、絶えず改善を求めるとともに、党幹部や経済官僚の世代交代の促進、実力主義の徹底など、実利的なアプローチを並行して行う国家運営スタイルは、それが単なる教条主義や過去への回帰ではないことを示していると評価できよう。

2016年から5年間行われた「国家経済発展5カ年戦略」を厳しく総括したうえで策定された「5カ年計画」は、初年度から、単なる経済計画の枠を超え、党及び内閣による党運営、国家運営全般までを巻き込む形で推進されてきた。経済主体である企業や協同農場の運営におけるシステムの改善だけではなく、それを政治的に担保する党組織や党幹部、国家経済を統括する経済官僚の責任についても厳しく追及されたことも特徴的である。

この間、科学技術の発展を軸として、自然エネルギーの積極的な利用や再資源化などを積極的に進めることで、エネルギーや原材料の輸入代替を進める方向性を打ち出す一方、食糧問題の解決のために伝統的なトウモロコシ栽培から小麦、大麦栽培への転換を促す方針を提示するとともに、農村地域の開発を進めて都市と地方の格差を解消し、均衡的な開発を進める方向性も打ち出されている。

このように始まった「5カ年計画」は2年目に入った。ところが、2022年5月、朝鮮国内で初のコロナ感染者が確認されたことで、1月より緩和された中国との陸路の貿易が再び縮小され、地域でのロックダウンによる国内での経済活動も制限されるという状況に直面することになった。

そのような状況の下で開催された朝鮮労働党第8期第5回総会拡大会議では、2022年度上半期の経済政策の執行について、非常事態の下でも安定と発展スピードを堅持していると評価しながら、農業と生活に必要とされる消費財の生産を今年の経済課題の急務であると提起した。

しかし、国内におけるコロナ感染者の発生という新たな状況は、今後の経済運営にマイナスの影響を及ぼすことは避けられないと思われる。今後のかじ取りが注目される。

キーワード：経済政策、経済改革、経済制裁、COVID-19
JEL Classification Codes: P21

1. はじめに

朝鮮民主主義人民共和国（以下、朝鮮）の経済は、金正恩時代に入り、大きな変貌を示している。

2011年12月末、金正日朝鮮労働党総書記の急逝により後継者の地位に就いた金正恩朝鮮労働党総書記（当時は、朝鮮労働党中央軍事委員会副委員長）が最初に手掛けたのは、経済の管理運営についての改革であった[1]。

これは、「政治思想強国」、「軍事強国」に次いで「経済強国」の課題を成し遂げることで「強盛大国」を建設するという金正日総書記の遺訓を継承し、朝鮮経済を復興・発展させることを、自らの一義的課題とした決意の表れであった。

「『朝鮮式経済管理方法』[2]の確立」と呼ばれる経済改革措置は、社会主義計画経済体制を維持するという大原則の下で、経済運営全般の枠組みに大胆に切り込むものであった。

朝鮮式経済管理方法は①国の経済全般に対する国家の統一的指導と戦略的管理を正しく実施する、②工場、企業所、協同団体で社会主義企業責任管理制を正しく実施する、③経済活動に対する党の指導を保障し、政治宣伝活動を先行させる、という3つの内容で構成されていた（リ・ヨンミン2014 pp.39-41）。言い換えると、①国家経済に対する国家（内閣）による指導と管理方法の革新、②企業や協同農場の経営権の拡大、③（執権党である）朝鮮労働党による経済問題に関する政治的舵取りの保障となろう。

この間、各々の内容に即して、①行政改革を伴った経済活動全般の掌握、指導および国家的な長期経済計画の策定・推進、②「企業所法」、「農場法」などの法改正を伴った企業、協同農場の経営権の拡大（社会主義企業責任管理制）、③党活動の正常化、党幹部の精鋭化、反官僚主義の動きなどが、具体的に実行されている。

一部では、このような経済改革の動きが近年になって滞っている、あるいは後退したという見方を示す向きもあるが、これは正しくないと思われる。

金正恩時代に入り、企業の経営権拡大などの経済改革措置が大々的に行われていたが近年になってそれは尻すぼみになり、逆に国家や党による統制が強化されている、というような見方は、朝鮮における経済改革措置は、企業活動の改革だけでなく、国家、党を含む三つの分野における改革がセットになったものだということについて正しく理解していないことからくる誤解であるといえよう。

確かに、朝鮮における経済改革措置の実行を時系列的に見ると、企業の経営権拡大（社会主義企業責任管理制）が先行的に行われ、国家、党における改革措置はそれを後追いする形で実施されている。しかしそれは経済から政治への関心の変移＝経済改革の停滞や後退ではなく、経済改革を行う上での重点の変移であり、それはすべて「朝鮮式経済管理方法」の確立に向けた動きの中にあるということを押さえておく必要がある。

つまり、朝鮮式経済管理方法の確立は、先行して行われた、法整備を伴った企業、協同農場の経営権拡大（社会主義企業責任管理制）を前提としたうえで、その合理的、効率的な運営のための行政機構やシステム整理・効率化、経済活性化のための党活動の革新など、（狭義の）経済問題にとどまらず、朝鮮社会システム全体の変容を伴う形で現在も進められている。

さて、このような経済改革措置は、経済の復興・発展を目的として行われるものであるが、朝鮮経済を取り巻く外部的環境は最悪の状況にある。

2017年12月に採択された国連安保理決議第2397号による、経済封鎖と呼べるような経済制裁に加え、新型コロナウイルスの流入を防ぐ目的で2020年から実施された、政府による全面的な国境封鎖により、制裁対象外の貿易まで制限がかかったことで、朝鮮は事実上の鎖国状態にある。

このような厳しい環境の中で、開催されたのが朝鮮労働党第8回大会（2021年1月5～12日、以下、第8回党大会）であった。

同大会では、今後5年間の経済戦略とそれに基づいた「国家経済発展5カ年計画」（以下、「5カ年計画」）が提示された。そこには、未だかつてない逆境の中で、経済の復興・発展を、何に重点を置き、どのように進めて行こうとしているのかが示されている。

本稿では、第8回党大会および、それ以降開催された党・国家の主要会議の内容をもとに、経済制裁および新型コロナ対応という厳しい環境の下で行われている、朝鮮の経済復興・発展に向けた政策とその特徴について概観する。

2. 第8回党大会において示された当面5年の経済戦略と「5カ年計画」

朝鮮は、2021年1月5～12日までの8日間にわたり、朝鮮労働党第8回大会を開催した。金正恩総書記は大会で、2016年からの過去5年間にわたる党の活動総括と、今後5年間の活動方針についての活動報告を行った[3]。

報告では、前回大会で策定された「国家経済発展5カ年戦略」（以下、「5カ年戦略」）について、「過酷な内外情勢が持続し、予想外の挑戦が重なったことに応じて経済事業を革命的に改善できなかったことから、国家経済の成長目標は遠く及ばず、人民生活の向上で明確な進展を遂げられなかった」と総括し、そのような結果をもたらした原因について、「アメリカと敵対勢力の制裁」、「ひどい自然災害」、

[1] 筆者が2013年9月16日に朝鮮社会科学院を訪問して行ったインタビューにおいて同院経済研究所の李基成教授は、金正日総書記の永訣式が行われた2011年12月28日に金正恩総書記がこの問題に関する自身の考えを側近たちに述べたことを明らかにした。ちなみに、朝鮮では「改革」という言葉を使わず「経済管理方法の改善」と表現するが、内容的には改革といえるものであることから、本稿ではそのように記す。

[2] 朝鮮語を直訳すると「われわれ式経済管理方法」（우리 식 경제관리방법）となる。

[3] 金正恩委員長（当時）が行った朝鮮労働党中央委員会事業報告の本文は公開されておらず、その内容については「朝鮮式社会主義の建設を新たな勝利へと導く偉大な闘争綱領 - 朝鮮労働党第8回大会で行った金正恩委員長の報告について」（『労働新聞』2021年1月9日付）報道記事による。

「世界的な保健危機（新型コロナの世界的蔓延）の長期化」を挙げ、これらの外部的要因により、主要経済部門を対象とした国家的投資が実行されなかったとした。

しかしその一方で、「客観的（外部的）条件にかこつければ何事もできず、…不利な外的要因がなくならない限り、革命闘争と建設事業を推し進めることができない」として、「5カ年戦略」の遂行が未達成となった主たる原因を自らの問題点に求めた。

報告では、①国家経済発展5カ年戦略が科学的な見積もりと根拠に基づいてしっかりと策定されなかった、②科学技術が実際に国の経済活動を牽引する役割を果たせなかった、③不合理な経済運営システム[4]と秩序を整備、補強するための活動がまともに推進されなかったと厳しい自己批判が行われた。

第8回党大会では、経済分野における過去5年間の自己批判を踏まえた上で、今後5年間の経済戦略および新しい「国家経済発展5カ年計画」が示された。

報告では、今後5年間（2021～26年）の経済分野における闘争戦略について、①経済活動体系と部門間の有機的連携を復旧、整備し、②経済の自立的土台を打ち固めることで、③外部要因に左右されない経済を構築することを目的とした、「整備戦略、補強戦略」（以下、「整備・補強戦略」）であるとした。

この「整備・補強戦略」に基づき、それを具現化するものとして、「国家経済発展5カ年計画」が提示された。

報告では、「5カ年計画」の「総体的方向は、経済発展のキーポイントに力を集中して人民経済の全般を活性化し、人民の生活を向上させうる強固な土台を築く」ことであるした。そのうえで、①金属工業と化学工業をキーポイントとしてとらえ投資を集中し、人民経済の各部門で生産を正常化する、②農業部門の物質的・技術的土台を強固にする、③軽工業部門に原料、資材を円滑に保障して一般消費財の生産を増やすことを「5カ年計画」の中心課題として提示した。

ここで押さえておかなければならないことは、「整備・補強戦略」および「5カ年計画」は、経済制裁および新型コロナへの対応による国境封鎖という、厳しい状況を前提とし、また、そのような外部環境は大きく変化しないであろうという、厳しい現状認識に基づいて策定されたということである。

ゆえに報告では、「新たな5カ年計画は、現実的可能性を考慮して国家経済の自立的構造を完備し、輸入依存度を下げる」ことを反映しているとしながら、「新たな国家経済発展5カ年計画の基本種子、テーマは、依然として自力更生、自給自足である」とされた。

このような認識は、2019年2月ハノイでの朝米首脳会談の決裂後に開かれた朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会（2019年12月28～31日）において提示された、「正面突破戦」[5]の延長線上にあるものだといえよう。

第8回党大会で示された、今後5年間の経済戦略および「5カ年計画」は、経済封鎖レベルの経済制裁だけでなく、新型コロナに対応するためも自ら進んで対外経済関係を縮小することはあっても、困難な環境を口実にして経済復興・発展のための取り組みを後退させたり、縮小させたりするのではなく、よりいっそう強力に推し進めるのだという強い意志を示したものであった。

3.「整備・補強戦略」の内容と内閣の強化

1）「整備・補強戦略」の内容

経済制裁および、新型コロナへの対応による国境封鎖という、厳しい状況を前提として、2021から2026年までの5年間の経済戦略として示された「整備・補強戦略」とはどういうものなのであろうか？

「整備・補強戦略」は言葉通り、大きく整備戦略と補強戦略に分けることができる[6]。

まず、整備戦略は、①経済運営システムの復旧・整備と②経済部門間の有機的連携の復旧・整備をその内容とするものである。

経済運営システムの復旧・整備とは即ち、経済活動に対する国家の統一的指導と戦略的管理を円滑に実現し、経済管理を合理的に改善するということを意味する。ここで朝鮮が最も重要にみなしているのは、内閣責任制、内閣中心制[7]を強化して経済活動に対する国家の統一的指導を実現するための規律を確立することである。

これは、内閣が国家経済全般について統一的に掌握し指揮する秩序が、うまく働いていない現状を反映したものであろう。つまり、先の「5カ年戦略」が科学的な見積もりと根拠に基づいて策定されなかった原因は、内閣が、国家経済の現状について正確に掌握できず、よって、正しい計画の策定も、経済運営もうまく行うことができなかったという厳しい反省である。

ゆえにここでは、中央統計機関を中枢として、国家のすべての経済部門と単位を網羅した一元化された統計体系をしっかりと確立すること、また、経済計画策定の体系を改善すること、財政と金融、価格をはじめとする経済原理をうまく利用して経済運営に適用する方法論を研究、実施すること、企業や協同農場などに付与した経営権の内容を適宜ブラッシュアップして

[4] 原文を直訳すると「経済事業体系」となり、朝鮮中央通信の日本語訳では、「経済活動体系」と訳されるが、その意味する内容がうまく伝わりづらいことから、本稿では「経済運営システム」という訳語をあてる。

[5] 朝鮮労働党中央委員会第7期第5回総会について報じた『労働新聞』によると、金正恩総書記は会議の報告において、「われわれにとって経済建設に有利な対外的環境が切実に必要であることは確かであるが、決して華麗な変身を願って、これまで生命のように守ってきた尊厳を売り渡すことはできません。」としながら、「敵対勢力の制裁と圧迫を無力化し、社会主義建設の新たな活路を切り開くための正面突破戦を強行」するとして、現在の情勢と発展する革命の要求に即して正面突破戦を展開するという革命的路線を示したとされる（「朝鮮労働党中央委第7期第5回総会に関する報道」『労働新聞』2020年1月1日）。

[6]「整備・補強戦略」に関しては、キム・ミョングク2021、およびシン・ミョンドク2021を参考にまとめた。

[7] ここで、内閣責任制、内閣中心制とは、「内閣が国の全般的経済活動を直接責任をもって掌握し、経済活動で提起されるすべての問題を内閣に集中させて、内閣の統一的指導のもとに解決していく国家的経済指導管理制度」（ソン・ヒョンチョル 2020 pp.40-41）とされる。

いくことなど、内閣が主導して経済改革をより一層進めることが、その重要な内容として強調された。

一方、部門間の有機的連携の復旧・整備とは、経済の各部門と経済部門別の構造を合理的に再整備するということを意味する。

ここで重要なことは、輸入原料と燃料を用いていた部門を、国内原料と燃料を用いる部門へと転換させて、現存の経済部門の生産要素と工程が正常に稼働するように整理することである。

それとともに、国家的な生産力配置の原則にのっとって、非合理的な工場や工程を整理することである。

次に補強戦略とは、経済の自立的基盤を打ち固めるための取り組みを行うということであり、①現存する経済部門と工程を補充・造成すること、②国家的な経済事業を策定・手配することをその内容とするものである。

経済の自立的基盤を強固にするために重要なことはまず、現存する経済部門と工程が自らの能力をすべて発揮できるように、欠けている工程を補充することであり、科学的な見積もりに基づいて新たな能力をさらに造成することである。

一方、国のすべての資源と潜在力を効果的に動員して利用するための国家的な経済事業を策定し手配することも重要である。これは、計画経済体制である以上、どんなに経済運営システムや経済構造を再整備しても、国家が主導となり、経済復興・発展のための経済計画を立てて、正しく実行することで、経済基盤が強固になるということである。

これらを整理すると図1のようにまとめることができる。

このようにみるとこの「整備・補強戦略」は、経済の外縁を拡げ、規模を拡大していくのではなく、去る5年間（2016～20年）の経済運営の過程で露呈した問題点に向き合い、それを解決することで、朝鮮経済の内実を拡充していく戦略だと言える。これは、対外経済関係が極度に制限されている現在の状況の下での現実的な取り組みであるといえるだろう。

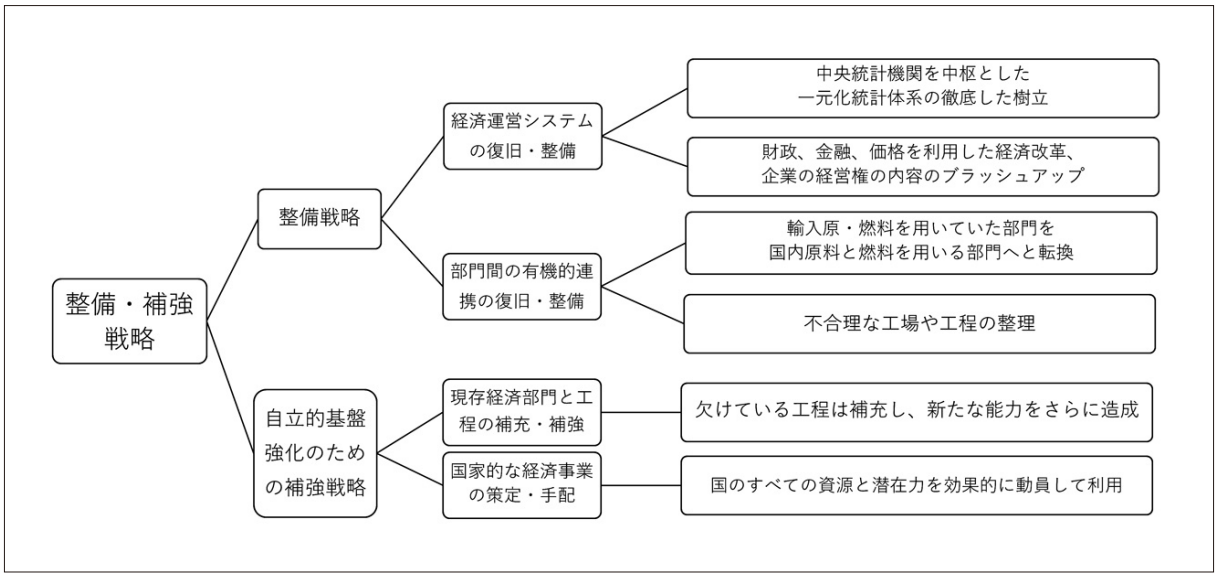
「整備・補強戦略」において先行されるのは、内閣が、経済を指導し管理する経済司令部としての役割をしっかりと果たすようにするところにある。

限られたリソースを有効に利用して、国の全般的経済を盛り立てるためには、国家経済全般を司る位置にある内閣の役割を強化することが必須だという指導部の考えを反映したものだといえよう。経済司令部と呼ばれる内閣が、国の経済全般をしっかりと掌握し、長期的な眼目をもって国の産業構造や経済運営システムについてのグランドデザインを描き、その実行のためのリソースを効果的に配分し、うまくコントロールする役割を十分に果たすようにする体系を作り上げることが、経済の復興・発展に向けた最初のステップであるとの認識があると思われる。

ところでこれは、朝鮮式経済管理方法を構成する3本柱のひとつである、国の経済全般に対する国家の統一的指導と戦略的管理を正しく実施するということの延長線上にあるものであることがわかる。つまり、「整備・補強戦略」で示されている内容は、現在のような厳しい経済制裁や新型コロナへの対応による対外経済関係の極度の縮小への対応から、まったく新しく示されたものではなく、従来より朝鮮経済が抱えていた問題点を解決するためのものであった。そしてそれは、2013年から始まった経済改革の動きの中で、なかなか成果が上がらなかった問題でもあった。

第8回党大会において「整備・補強戦略」を今後5年間の経済戦略と提示したのは、これまで大きな成果が上がらなかった問題にいよいよ本格的に取り組む時であるという判断、また、そうしなければ経済改革をこれ以上進められないという判断でもあったといえよう。そして、「自力更生・自給自足」するしかない客観的な状況を原動力にして、みずからの改革課題を大きく進めるのだという、指導部の強い意志を反映したものであった。

図1　「整備・補強戦略」概念図



出所：筆者作成

2）内閣強化への取り組み

「整備・補強戦略」における先行課題である内閣強化の動きは、第8回党大会およびその直後に行われた最高人民会議の人事で具体化された。

第8回党大会では、前回大会以降とられていた、内閣総理が党の最高指導グループである政治局常務委員のメンバーの一員となる体制がそのまま維持され、金徳訓内閣総理に政治的な権威と信任を与えた。また、新任の副総理2名が党政治局委員候補、新任副総理4名を含む内閣の相（大臣）11名は党中央委員、15名は中央委員候補となっており、これも内閣の政治的な位置づけを高めるものであった。

第8回党大会の直後に開催された最高人民会議第14期第4回では、大幅な内閣刷新が行われた。

特に党中央委員会内に新たに設置された経済政策室チョン・ヒョンチョル室長を内閣副総理に任命したことが目を引いた。これは、党と内閣のポストを兼任[8]させることで、党と内閣間の経済問題に関する政策調整を行う役割を与えるとともに、内閣が行う活動に対して党としての権威を与えるもう一つの制度的な枠組みを作ったものと評価される。

内閣を構成する各省の担当相（大臣）の顔ぶれも一新された。内閣を構成する副首相および相48名のうちの半数以上の26名が今回新たに任命された人物であったが、その大部分が4～50代の若手テクノクラートで占められていた。

新内閣には、「5カ年戦略」の教訓を生かし、内閣責任制、内閣中心制を強化して「5カ年計画」を滞りなく実施するために年次別計画を策定するとともに、社会主義企業責任管理制をいっそう活性化させるための制度的整備を行うことが求められた。

最高人民会議第14期第4回会議（2021年1月17日）では、金徳訓内閣総理が行った活動報告「朝鮮労働党第8回大会が提示した国家経済発展5カ年計画を徹底的に遂行することについて」が最高人民会議法令として、また、「2020年の国家予算執行の決算承認」、「2021年国家予算」[9]が各々最高人民会議決定として採択された。こうして「5カ年計画」はスタートを切った。

しかしその直後、スタートしたばかりの「2021年度計画について審議し、決定するために」（同総会招集に関する『労働新聞』報道文、2021年2月9日）、朝鮮労働党中央委員会第8期第2回総会（2021年2月8～11日）が招集された。

通常1年に1度程度の頻度[10]で開かれていた党中央委員会総会が、党大会が閉幕して1カ月、最高人民会議が閉幕してから20日しか経っていないタイミングで招集されるのは異例のことであった。

会議では5つの議案[11]が論議されたが、主要内容は、第1議案である、第8回党大会で提示された「5カ年計画」の初年度の課題を遂行する問題についてであった。これは、先の最高人民会議で内閣によって策定された5カ年計画の初年度計画が、求められた水準で策定されていないという判断が下されたことを示すものであった。

金正恩国務委員会委員長は第1議案についての報告を3日間にわたって行った。

金委員長は、内閣が作成した今年の人民経済計画がこれまでと大きく変わらず、党大会の思想と方針が正確に反映されていないとしながら、主要経済部門の計画を作成する上で内閣が主導的な役割を果たさず、各省が起案した数字をほとんど機械的にまとめただけであるとして、各国家経済指導機関が同年の闘争目標を立てる過程に発露した消極的かつ保身主義的な傾向について辛らつに指摘した。そして内閣が自らの役割を正しく果たせなかった結果、生産計画を年末に批判を受けない程度に低く起案したり、それとは逆に、条件が不利で国家的に資材を充分保障することができない状況であるにもかかわらず、生産目標を主観的に高く立てるなどの欠点をはらんだ計画が策定されたとした。

総会では、金委員長が報告で具体的に言及した2021年度の経済課題に基づき、工業、農業、軽工業、建設の部門に分かれ分科別協議会が開かれ、当該年の事業計画を立てるための具体的な討議が行われた。総会には、党中央委委員および委員候補とともに、党中央委員会の当該部署の副部長と委員会、省、中央機関の党、行政責任活動家、道級指導的機関の責任活動家、市・郡党責任書記のほか、重要工場、企業の党、行政責任活動家が、オブザーバーとして参加したとされるが、彼らも協議会に参加したと思われる。

分科別の各協議会では、「真摯な思索と努力により、新たな予備と可能性が積極的に探究され、創造的かつ建設的な意見が提起された」ことで、初期に提出された目標が全般的に更新され、「第8回党大会が示した5カ年計画の初年の課題を貫徹することについて」という決定書が採択された[12]。

一方総会では、今回露わになった問題点を解決するために早急に解決すべき課題として、内閣と国家計画委員会が国家経済を調整する自らの機能を復元することが提起された。

報告では国家経済指導機関に対し、権限や条件のせいにして無為無策でいた古い惰性から脱し、経済的難関と困難を克服するための活動を積極的に展開すべきであるとした。これは、内閣が経済司令

[8] 内閣副総理として任命された後、党経済政策室室長としての肩書でメディアに登場していないことから、兼任であることを客観的に確認することはできない。しかし、副総理の任命が党大会で経済政策室長に任命（2021年1月10日）された1週間後に開かれた最高人民会議第14期第4回会議（同年1月17日）で行われたことなどから兼任であると判断した。なお、チョン・ヒョンチョル氏は、2022年6月8～10日に開催された党中央委員会第8期第5回総会拡大会議にて、朝鮮労働党書記兼経済部長に任命された。これにより、内閣副総理の職との兼任は解かれたと推測される。

[9] 正式には「朝鮮民主主義人民共和国チュチェ109（2020）年国家予算執行の決算を承認することについて」および「朝鮮民主主義人民共和国チュチェ110（2021）年国家予算について」。

[10] 第7期（2016～20年）には5年間で6回開催された。しかし、党大会開催時に人事のために開かれる第1回会議を除くと、実質的には、1年に1回となる。

[11] 5つの議案は次の通り。1. 第8回党大会が示した5カ年計画の初年の課題を貫徹することについて、2. 全社会的に反社会主義、非社会主義との闘いをより度合い強く繰り広げることについて、3. 党中央委員会のスローガン集を修正することについて、4.「朝鮮労働党規約解説」の審議について、5. 組織（人事）問題。

[12] 朝鮮労働党中央委員会第8期第2回総会の内容については、「朝鮮労働党中央委員会第8期第2回総会に関する報道」『労働新聞』2021年2月12日付による。

部としての役割を果たすための権限や条件が十分に整っていないという朝鮮の現状を表すものだといえる。

報告では、「非常設経済発展委員会」が役割を強化して、経済発展を妨げる障害を取り除き、経済が円滑に運営されるようにすることが、問題解決のための施策として示された[13]。

ところで、内閣が国家経済を調整する経済司令部としての機能・役割を果たすために克服しなければならない問題として、総会において大きく取り上げられたのが、「単位特殊化」、「本位主義」との戦いであった。

1995年からの「苦難の行軍」時期に、党や軍などの一部の機関は、各自生き残りのためにその傘下に経済活動を行う単位を置き、各々が独自に経済活動を行った。このような経済活動単位を特殊単位と呼んだ。このような経済組織は、誕生した歴史的背景や経緯から国家の経済運営とは別個の枠組みで活動する「特殊」な単位であった。そのような事から、自らを「特殊」な単位として、国家的な経済システムの枠の外で経済活動を行うことを「単位特殊化」という。

一方本位主義とは、「…集団や国家、社会の全般的利益は考えず、個人や、地方、機関、部署などの利益だけを推しながら、すべてをそこに従わせる古い思想や態度」（『朝鮮語大辞典』社会科学出版社1992年）を指す。これも、非常事態の下で、とにかく自分だけでも生き残ってみようという、いわゆる「自力更生」的な発想から生まれたものであった。

厳しい経済難の中で、経済秩序が大きく混乱した「苦難の行軍」時に誕生した単位特殊化や本位主義は、経済が正常化するに従い、社会主義経済秩序、法秩序に基づいて整理されるべきものであったが、現実はそうではなかった。これまでの慣例などを口実に、あるいは何らかの「権威」を笠に着て、国家的なコントロールの枠の外で、これまで享受してきた経済的な利益をどうにか維持しようとする「抵抗」は思いのほか根強いものであったと思われる。

これら単位特殊化、本位主義は、国家経済全般を内閣が統一的に掌握しコントロールするという、内閣責任制、内閣中心制と全面的に対置するものであったが、未解決の問題として残っていたのである。これは、朝鮮経済が抱えている「負の遺産」であった。

金正恩総書記は同総会の報告でこの問題を正面から取り上げ非常に強い表現を使って非難し、問題をただす決意を表明した。

報告では、単位特殊化と本位主義について、それは反党的、反国家的、反人民的行為であると規定し、党権、法権、軍権を発動して断固打撃を加えなければならないとした。その上で、単位特殊化と本位主義を革命の敵、国家の敵とみなして、全面的な戦争を繰り広げることを宣布したのである。

これはまさに、数十年にわたり積み重なり常態化していた弊害を清算し、新たな経済秩序を構築する闘いののろし、内なる敵に対する宣戦布告であったといえよう。

このように、内閣の役割強化への取り組みは、「整備・補強戦略」を成功させるための基礎的条件を整えるものとして、何よりも先行しなければならず、何よりも強力に進めなければいけない事業として、最高指導者の直接的かつ強力なイニシアチブの下で、総力を挙げて進められたのである。

4．計画実行の新たな形

「整備・補強戦略」および「5カ年計画」は、朝鮮労働党中央委員会第8期第2回総会を契機として、朝鮮労働党中央委員会による強力なイニシアチブの下で進められており、2022年で2年目に入った。

この間、党中央委員会総会は半年に1度のペースで開かれ、その主な議題として、「整備・補強戦略」および「5カ年計画」を実行するための年間経済計画の総括が行われるようになった。

一方、この間行われた党中央および国家の重要会議では、現行の経済計画に対する総括や新年度の経済計画策定のための課題の提示とは別に、より長期的展望に基づいた課題なども提示されており注目される。

1）党重要会議を通じた現行経済計画の総括および再手配の定例化

朝鮮労働党第8回大会以降、本稿執筆時点である2022年6月まで行われた、経済問題を取り扱った党の重要会議をまとめると表1の通りである。

以下、党中央委員会第8期第2回総会以降、開催された党中央員会の各総会で行われた2021年度経済計画の総括および2022年度経済計画について概観する[14]。

（1）朝鮮労働党中央委員会第8期第3回総会（2021年6月15～18日）[15]

朝鮮労働党中央委員会第8期第3回総会は、第8期第2回総会が手配した「2021年度の党と国家の主要政策の実行状況を中間総括し、経済活動と人民生活の切実な懸案に対する解決対策を講じ、現在の情勢に合わせて国家的な重大事業を強力かつ正確に推し進める問題を討議、決定するために」開催された。

総会は①主要国家政策の上半期総括と対策だけでなく、②今年の営農に力を総集中する問題、③人民生活を安定向上させる問題など、経済問題を含む8つの議案が上程された。

総会では、「今年に入り、主体的・客観的条件と環境はより困難になったが、上半期に工業総生産額の計画を144%、昨年

[13] この「非常設経済発展委員会」については、設置時期や所属、組織の構成、具体的な活動内容について明らかになっていない。しかし、国家経済指導機関の活動を報じた『労働新聞』の報道で同委員会の活動が取り上げられていることから、内閣および国家計画委員会と並んで国家機関として活動しており、「経済事業に関する国家の統一的指導と戦略的管理を実現するための活動体系と秩序を確立する活動」を行っていることがわかる（「党の整備戦略、補強戦略実現のための経済手配と指揮強化」『労働新聞』2021年4月23日付）。

[14] 経済計画に関する総括、策定と直接関係のない議案などについては、経済関連問題であっても割愛することがあることに留意。

[15] 朝鮮労働党中央委員会第8期第3回総会の内容については、『労働新聞』2021年6月16～19日付け報道による。

表1　党および国家重要会議（2021～22年6月）

	開催日	会　議	内容（経済関連）
2021年	1/5～12	第8回党大会	第7期総括、第8期目標/課題策定
	1/10	党中央委第8期第1回総会	人事
	2/8～11	党中央委第8期第2回総会	5カ年計画初年度計画修正策定
	6/4	党中央委第8期第1回政治局会議	第3回総会招集問題
	6/7	党中央委と道党委員会責任幹部の協議会	地方の実態把握
	6/15～18	党中央委第8期第3回総会	2021年度課題実行状況確認、再策定、営農状況確認
	6/29	党中央委第8期第2回政治局拡大会議	一部責任幹部の職務怠慢行為叱責
	9/2	党中央委第8期第3回政治局拡大会議	国土管理、軽工業、農業部門対策
	9/28～29	最高人民会議第14期第5回会議	施政演説、市･郡発展法等法採択･改正
	11/18	第5回3大革命先駆者大会（参加者宛の書簡）	3大革命の範囲道･市･郡に拡大
	12/1	党中央委第8期第5回政治局会議	第4回総会招集問題
	12/27～31	党中央委第8期第4回総会	2021年度計画総括及び2022年度課題提示
2022年	5/12	党中央委第8期第8回政治局会議	第5回総会招集問題
	5/21	党中央委政治局協議会	実務指導グループ各道派遣
	5/29	党中央委政治局協議会	実務指導グループ活動状況通報
	6/8～10	党中央委第8期第5回総会拡大会議	2022年度中間総括

出所：『労働新聞』から筆者作成

同期比125%に超過遂行し、現物量的にも多く成長しているのをはじめ、国の経済が全般的に起き上がっている」と総括された。その一方で、国家計画と政策的課題を遂行する過程で生じた一連の欠点についても指摘された。

金属、化学、電力、石炭、建設･建材部門をはじめとする基幹工業部門と軽工業、水産、都市経営、国土環境保護部門など、各部門で達成した成果と経験は拡大し、現れた偏向と欠点は克服しながら、経済の作戦と指揮を責任をもってよく行い、先進科学技術に徹底的に頼って今年の経済計画を無条件に完遂することが求められた。

続いて総会では、年間計画の中間総括とは別途に単独の議案として、営農に力を総集中する問題について論議された。

総会では、昨年の教訓と今年の不利な条件から、全党的、全国家的な力を農業に総集中するのが切実であることが強調され、自然災害を最小限にとどめるための対策を講じ、各部門でこの事業を強力に支援することが課題として提示された。

総会では、上半期の活動の総括に基づき、金属･鉄道運輸分科、化学工業分科、電気･石炭･機械工業分科、建設･建材分科、軽工業分科、農業分科、非常防疫分科をはじめとする9つの部門別分科に分かれて協議会が行われた。ここでは、下半期の課題実行のための具体的な研究討議が2日間にわたって行われ、2021年の政策課題実行のための追加的な対策的を反映した決定書と、穀物生産計画を完遂することに関する決定書が採択された。

（2）朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会（2021年12月27～31日）[16]

朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会は、「2021年度の主要党および国家政策の実行状況を総括し、社会主義建設の新しい発展期を開くための朝鮮労働党と人民の闘争を勝利の次の段階へ力強く導く戦略的･戦術的方針と実践行動課題を討議、決定」（『労働新聞』2021年12月28付け）する目的で開かれた。

総会では①2021年度の主要党と国家政策の執行状況の総括と2022年度の活動計画について、②2021年度の国家予算執行状況と2022年度の国家予算案について、③わが国の社会主義農村問題の正しい解決のための当面の課題について、をはじめとする6つの議案が上程され議論された。ここでも主要な内容は2021年度の経済計画課題についての総括および2022年度の課題策定であった。

総会では、金徳訓内閣総理による2021年度総括および2020年度計画についての報告を受け、金正恩総書記が「2022年度の党と国家の活動方向について」という結語を述べた。

金総書記は結語で、「2021年は厳しい難関の中で社会主義建設の全面的発展への壮大な変化の序幕を開いた偉大な勝利の年であるというのが党中央委員会が下した総評である」とし、「党が最も重視する農業部門で評価できる成果、自信を持てるようにするはっきりした新たな前進が遂げられた」と評価した。

その上で、注目される成果として、松新･松花地区の1万世帯建設、三池淵市建設の第3段階工事の完了、検徳地区5000世帯住宅の建設の成功裏の進捗と咸鏡南道と咸鏡北道の水害復旧など、建設部門における成果をあげた。

また、電力、石炭工業部門が生産運動を力強く展開して経済全般を活気に満ちて牽引し、建材工業部門と機械、採取、林業、陸･海運、鉄道運輸部門で国家的建設と生産的高揚を裏付けたことをはじめ、今年の計画遂行で新たな前進の改善と実績がもたらされたとし、経済部門で計画規律が確立し、経済幹部の活動気風が著しく改善されたことも成果とした。

内閣をはじめ経済指導機関で経済活動に対する国家の統一的指導と統制を強化し、経済管理方法を改善するための試みが積極化された事も成果として指摘された。

一方、活動における欠点と重要な教訓、その解決方策についても詳細に言及された。

総会では、5カ年計画遂行の確固たる保証を構築し、国家の発展と人民の生活ではっきりした改変を成し遂げることを2022年の基本課題として提起した。

そのためには、現行の生産を活性化しながら整備･補強をより力強く推し進めて経

[16] 朝鮮労働党中央委員会第8期第4回総会の内容については、『労働新聞』2021年12月28～2022年1月1日付け報道による。

済を成長の軌道に乗せ、人民に安定して向上した生活を提供することに総集中することが提起され、部門別の課題が提示された。

総会では、上記総括に基づき、部門別分科が設けられ、3日間にわたって研究および協議が行われた。決定書の草案作成グループがまとめた意見を最終審議し、決定書「第8回党大会が示した5カ年計画の2022年度課題を貫徹するために」を採択した。

以上のように総会は、紆余曲折を経て策定された「5カ年計画」の初年度である2021年計画課題について、困難な状況が続く中でも一定の成果をあげたと評価した。

金総書記は総会で2021年を振り返りながら、「今年の闘争をつうじてわれわれは、現在われわれが向きあっており、また今後直面することになる、革命の主体的・客観的条件と環境をより鮮明に予測できるようになったし、われわれができることをよく知り、われわれの可能性と自信をいっそう明確に持つことになった」と評した。

この発言は、「5カ年計画も初年の計画がしっかりと立てられ、きちんと執行されてこそ、最終目標の達成へと確信をもって進むことができる」（党中央委員会第8期第2回総会での発言）として、2021年度計画を再策定し実行してきた経緯と併せて考える必要があろう。

朝鮮にとって2021年の経済計画の成否は、単に当該年度の経済計画である以前に、「5カ年計画」そして「整備・補強戦略」の成否を占うことになる非常に重要なものであった。

そのような観点で見ると金総書記の発言には、経済制裁と新型コロナ防疫対応という困難な状況が続く中で進められた2021年計画の成功裏の実行は、国を取り巻く外部環境が不変であっても、自ら立てた中長期目標を達成することは不可能ではないのだという、自信感、手ごたえのようなものが感じられる。

なお、総会ではこの他、当面の農村問題解決の課題が重要な議案として上程され、決定書が採択されたが、この件については後述する。

（3）朝鮮労働党中央委員会第8期第5回総会拡大会議（2022年6月8~10日）[17]

2022年5月12日未明、朝鮮労働党中央委第8期第8回政治局会議が開催され、国内で初めての新型コロナ感染者の発生が明らかになった。これは、国家非常防疫体制がとられた2020年3月以来、2年3カ月ぶりに発生したものであった。

会議では、全国的な拡散状況が通報され、緊急対策が審議された。

現状況に対処して国家防疫体制を最大非常防疫体制に移行することが決定された。

それに即して、全国の全ての市、郡で地域封鎖が行われ、職場や家庭での隔絶措置がとられた。

このような国家的な非常事態に対する対策が取られる一方、同会議では、2022年度の党および国家政策の実行状況に対する中間総括を行い、一連の重要問題を討議、決定するために、6月上旬に党中央委員会第8期第5回総会を招集することが決定された。

今回の総会は、周到な準備に基づいて行われた。

政治局会議が行われた後、朝鮮労働党中央委員会政治局協議会が開催（5月21日）され、総会準備の一環として、2022年上半期の政策実行状況を調査するために、実務指導グループを派遣する事を決定した。実務指導グループは、政治局常務委員会委員と党中央委員会の書記を基本として、内閣などの人員を含むメンバーで構成するようにし、非常防疫体制の稼動状況とともに、主要な政策課題を実行するための工業部門の生産と農業部門の営農工程別実態を正確に調べて掌握し、適時の対策を講じることを指示された。

続いて行われた朝鮮労働党中央委員会政治局協議会では、実務指導グループの活動状況についての報告があり、それに基づき総会の準備に関連する重要問題が討議された。

このような準備の下で開催された朝鮮労働党第8期第5回総会拡大会議では、2022年度の主要党および国家政策実行状況の中間総括と対策について、現在の非常防疫状況の管理と国家防疫能力建設のための課題についてなど、4つの議案が上程され論議された。

金総書記は、「2022年度の党と国家の政策実行のための上半期の闘いで収められた肯定的な成果を奨励、拡大し、欠点を克服し、今年に掲げた膨大な課題を完結するための科学的な実行の保証を適時に補強するとともに、全党と全人民を今一度自覚させ、決起させる」ところに今回の総会の目的があると強調した。

総会では、2022年度の党の経済政策における成果と欠点について金徳訓内閣総理が報告し、現行の農業の実態について李哲萬党農業部長が報告を行った。

金正恩総書記は、当該議案に対する結語で、経済の多くの部門が生産を成長させ、経済全般の上昇推移を維持していると総評したうえで、突発的な非常防疫事態の中で安定と発展速度を堅持していることを国家経済政策の実行における重要な成果として評価した。また、最大非常防疫体制が稼働して1カ月の期間に、危機対応能力をいっそう培い、用意周到な作戦指導能力を高める重要な体験期、鍛練期を経て、貴重な経験を積み、教訓を得たとして、今後の政策遂行についても自信感をあらわした。

金委員長は、経済政策の実行においてあらわれた欠点と原因について指摘したうえで、総会を契機に経済指導管理において新しい変針点をもたらすことが緊要であるとしながら、下半期の党と国家の経済政策を徹底的に実行するための課題を提示した。

金総書記は、金属、化学、電力、石炭工業をはじめとする基幹工業部門の下半期の闘争方向と実行対策を具体的に示すとともに、特に、農業と消費財の生産を今年の経済課題の中の急務として提起した。また、現在行われている平壌市の1万世帯住宅建設や咸鏡北道で行われている野菜温室農場の建設などの、大規模

[17] 朝鮮労働党中央委員会第8期第5回総会の内容については、『労働新聞』2022年6月11日付け報道による。

の建設事業を中断することなく推し進めるように指示した。

金総書記の結語を受け、2022年度の闘争課題を徹底的に実行するための科学的な対策案を練るため、9つの分科に分かれ分科別研究および協議会が行われた。協議会で提起された対策案に基づき決定書草案が作成され、審議を経て決定書「2022年度の主要党および国家政策課題を一部調整することについて」が採択された。

総会開催以降、『労働新聞』をはじめとしたメディアでは、「防疫大戦」を繰り広げる一方、2022年度下半期の経済課題を滞りなく進め、特に営農をしっかりと行い生産財の品質向上と生産増大に拍車をかけることで、人民生活の向上で明確な改善をもたらすことを促している。

2）計画実行の新たな形

以上みてきたように、この間、朝鮮労働党は、半年に1度のペースで党中央委員会は総会を開き、「5カ年計画」遂行のために策定された単年度計画の進捗状況を確認し、その総括と再手配、新たな年度計画の策定を行った。もちろん、総会の議案は経済問題だけでなく、党活動および国家社会全般に関するものであるが、主な議題が経済計画の実行に関するものであることは間違いない。

ここで注目されるのは、「5カ年計画」及びその実現のための単年度経済計画についてまで、党中央委員会が直接掌握して遂行する形式をとっていることであり、特には、それが、計画に関する大きな方向性を示したり、成果や問題点についての政治的評価を下すのにとどまらず、経済部門別の個別具体的な内容まで踏み込んだものになっているという点である。

それは、党総会における経済計画の実行に関する総括および再手配、計画策定のプロセスとして表れている。

これまで開催された各総会をなぞってみると、経済計画課題の実行状況に関する報告を党中央委員会政治局常務委員である金徳訓内閣総理が行い、金正恩総書記がその問題に関する結論（結語）を行うという形で総括が行われている[18]。そして重要なのは、そこで指摘された問題点や課題がそのまま党による結論、課題とされるのではなく、経済部門別に設けられた分科会で充分に討論を重ねるというプロセスを経るということである。

分科別協議では、内閣総理の報告と総書記の結語に基づき、関連部門別の各々部門の責任者、実務者が集まり数日間にわたって政策的、実務的な討論を行い、関連部門別の具体的対策を策定する。そのように出された部門別対策は総合されて決定草案として総会に提出され、党総会の決定として採択されるのである。これは、これまでになかった計画策定、総括の新しい形である。

このような党中央委員会総会での分科別協議における関連部門による討議と対策の講究は、実際には、内閣及び最高人民会議のレベルで行われなければならないものであろう。

しかしこれまで内閣に任せていた、そして内閣が主導して行うべき年次計画および部門別の目標設定および実行が、数年来実質的な成果を上げられなかったという現状は、朝鮮労働党中央委員会にして、自らの権威の下で計画の策定、実行、総括、再手配を行い、自らが目指す国家経済管理運営の一連の流れを実際に作りあげるかたちを作るようにしたのだと思われる。

これは、内閣が国家経済全般について掌握しコントロールする上で懸案となっている諸問題を、党中央の力で短期間のうちに解消して内閣の権威を復元させることで、経済司令部として独り立ちできるような諸条件を構築するための、現実的で積極的な対策であったといえよう。

金委員長は、「5カ年計画」の初年度であり、それゆえ最も重要な年として位置付けていた2021年を総括しながら、「現在と今後の条件と環境を予測できるようになり、自分ができること、可能性について理解し自信を持つことになった」としたが、これは、コロナ感染者の発生という「建国以来の大動乱」の中でも、経済活動において上昇の推移を維持しているという2022年上半期の総括での自信へとつながっているようだ。

朝鮮労働党第8回大会及び、朝鮮労働党中央委員会第8期第2回総会を契機にとられた計画実行のための新たな措置は、一定の成果を上げていると評価されているようである。

5．むすびに変えて――朝鮮経済の長期ビジョン「社会主義の全面的発展」

朝鮮は、2021年に開催された朝鮮労働党第8回大会において、当面5年間の経済戦略として「整備・補強戦略」を提示した。しかしその直後から、そのようなタイムスパンとは違う次元での骨太の政策が並行して提示されており、その裏には、より長期的なビジョンが見え隠れしている。

金正恩総書記によって長期的展望の一端が最初に示されたのは、第8回党大会に続く形で開催された金日成―金正日主義青年同盟（当時。現在は、社会主義愛国青年同盟）第10回大会（2021年4月29日）に宛てた書簡であった。

金総書記は書簡で、「わが党は今後の5年を…大変革の5年にしようと作戦」しており、「次の段階の闘争を連続的に展開し今後15年前後で全人民が幸せを享受する…社会主義強国をうちたてようと思います」としたのである。また、続いて開催された朝鮮職業総同盟第8回大会（同年5月25日）に宛てた書簡では、「今後の5カ年計画期間に人民経済全般を活性化し、…5年を周期に今一度大きく飛躍することで、近い将来に…社会主義強国を建設しなければなりません」との展望を示した。これは、党第8回大会で提示され、実行されている5年間の経済戦略およびその具現化である「5カ年計画」が、より大きなビジョンの最初の段階として位置づけられ実行されているいることを示唆するものであったが、依然としてその全体像や具体的な内容については詳らかになってはいない。

[18] これは、金徳訓総理が国家経済全般の司令塔である内閣総理でありながらも党の最高指導部である政治局常務委員であるということで可能であることに留意。党中央委員会で経済問題を扱うにしても、実務的な経済政策の実行については、内閣総理がその総指揮者であることを示すものである。

しかし、このような15年あるいはそれ以上のスパンに立った長期ビジョンを読み解くためのキーワードとして注目されるのが「社会主義の全面的発展」（もしくは「社会主義建設の新たな発展」）[19]である。

「社会主義の全面的発展」とは、「社会主義建設の全ての分野と国家の全ての地域、人民経済の全ての部門の同時的で均衡的な発展を成し遂げるということ」（「社会主義の全面的発展に関する思想の本質」『労働新聞』2021年11月30日付け）であるとされる。つまり、人民経済の部門間、単位間に存在する不均衡と非対称性を解消し、地域間の格差を縮めることが、経済における「社会主義の全面的発展」の内容だといえる。

そのような観点から、第8回党大会以降示されている政策的課題を見ると、朝鮮が目指す長期的展望の一端が見えてくるように思える。

その最も特徴的な政策が、党中央委員会第8期第4回総会で単独議案として上程された、農村問題解決のための政策である。

同総会で金正恩総書記が行った報告、「朝鮮式社会主義農村発展の偉大な新時代を開いていこう」は、現地で「新たな農村建設綱領」と呼ばれ、朝鮮における農村問題解決のバイブルである故金日成主席による「社会主義農村テーゼ」の深化・発展であると評されている。つまり21世紀の農村問題を解決する基本となる指針であるということだ。

報告の内容についてはその原文が公開されておらず、詳細な内容についてはわからないことが多い。しかし、当面の農業生産をどのように増大するのかという、喫緊の課題が提起されている状況のもとで、農業生産量をいかに上げるのかという短期的な観点ではなく、そこに暮らす人々の生活を改善し、農村地域（地方）を持続的に発展させるという観点に立った「農村」問題の解決のための総合的な方向性を提示していることがわかる。

これは、朝鮮において農村が相対的に立ち遅れた地域であるという現実に基づいて打ち出された政策であろう。

表2　豊かさ指標（Wealth Index、%）

	下位20%	中位40%	上位40%
都市	6.4	33.5	60
農村	41.2	50	8.8
両江道	63.2	18.9	17.8
咸鏡北道	17.3	41.3	41.4
咸鏡南道	28.9	39.4	31.7
江原道	21.8	39.1	39.1
慈江道	32	37.9	30.1
平安北道	15.6	44	40.4
平安南道	9.7	55.7	34.6
黄海北道	9.3	58.9	31.8
黄海南道	47.7	31.1	21.2
平壌	0.4	13.4	86.2

出所：“DPR Korea Multiple Indicator Cluster Survey 2017, Survey Findings Report”, CBS and UNICEF 2018. 文浩一2022より引用

国連児童基金（UNICEF）や国連人口基金（UNFPA）などのデータをもとに朝鮮における農村の経済状況についてまとめた文浩一の論考（文、2022、pp.20-27）によると、朝鮮における農村と都市の経済的格差が少なくないことがわかる。

論考では、それをあらわすものとして、資産状況や、上下水道の整備などのインフラの整備状況などの指標が示されているが、それを端的に表すものとしてここではUNICEFの2017年複数指標調査で示された「豊かさ指標（Wealth Index）」を紹介する。

この指標は、各世帯の電気の利用可能状況や炊事燃料、インターネット接続状況、住居の構造、間取りなどを指標化し、上位40%、中位40%、下位20%の3段階で評価するというものであるとされる。表を見ると分かるように、都市は60%が上位40%グループに属するのに対し、農村の上位40%の割合はわずか8.8%である。一方で農村は41.2%が下位20%に属しており、都市は6.4%と相対的にみて著しく少ないことがわかる。

このように見ると、「新たな農村建設綱領」は、「社会主義の全面的発展」の観点から、都市と農村間に存在する格差を積極的に解消することを目的として、そのためのグランドデザインを示したものだと捉えることができる。

また、同時期には「市・郡発展法」が採択（2021年9月30日最高人民会議第14期第5回会議にて採択）されたが、これも地方間、地域間の不均衡な発展状況を解消するために国家的な投資や支援を行なう枠組みを提供するなどの方策を含む指針として設けられたものだといえよう。

「社会主義の全面的発展」として表現されるこのような長期ビジョンは現在、「党中央は今後20～30年を期限として全国の人民たちの生活環境を根本的に改変し、わが国を世界が羨望する社会主義理想国に…建設するための壮大な設計図を開いた」（『労働新聞』2022年7月14日）として報じられるようになった。

経済制裁による外からの経済封鎖と新型コロナによる内からの経済封鎖という、究極の環境の下で行われている朝鮮経済復興・発展への歩みは、その厳しい外部環境の中で、これまでにない方法論を積極的に取り入れることで、自らの問題点に向き合い、それを解消していく朝鮮式経済改革を進めているようである。

一連の政策遂行過程は、大きな困難を伴いながらも一定の成果を上げているように思え、それは朝鮮の政策担当者にとって大きな自信となっていると思われる。

その自信感が、喫緊の経済対策に追われる状況を脱し、20～30年スパンでの「社会主義の全面的発展」という長期的

[19]「社会主義建設の新たな発展」という表現は、最高人民会議第14期第5回会議で行われた金正恩総書記の施政演説「社会主義建設の新たな発展のための当面の闘争方向について」（2021年9月30日）で使われたものである。ところがこの施政演説の内容について解説した『労働新聞』論説（2021年10月30日付け）は、「社会主義建設において全面的発展を成し遂げることは、施政演説の種子（核心的内容）である」として、「社会主義建設の新たな発展」＝「社会主義の全面的発展」であると解説した。そこで、本稿ではこれらを同じ内容を指す異なった表現とみなすことにする。

展望に基づいた政策提示という形で出てきたとの解釈も可能であろう。

ただし、経済制裁や新型コロナ感染状況、そして異常気象による災害など、自らがコントロールし得ない、あるいはコントロールが困難な外部環境が、経済発展にとっての大きなハードルであり、不安定要因であることには変わりがない。

依然として続く厳しい状況の中で、朝鮮経済がどのような動きを見せるのか、よりいっそう注目したい。

＜参考文献＞

日本語文献
姜日天（2022）「5カ年計画初年度の実績と今後の見通し」『季刊　朝鮮経済資料』第10巻第1号
文浩一（2022）「〔資料〕農村の定義と生活水準に関するデータ」『季刊　朝鮮経済資料』第10巻第1号

朝鮮語文献
キム・ミョングク（2021）「現段階におけるわが党の経済戦略」『民主朝鮮』2021年3/12日付
リ・ヨンミン（2014）「朝鮮式経済管理方法を確立することは経済強国建設の重要な要求」『勤労者』2014年9号
ソン・ヒョンチョル（2020）「内閣責任制、内閣中心制は国家経済事業体系の中核」『社会科学院学報』2020年4号
シン・ミョンドク（2021）「現段階におけるわが党の経済戦略」『民主朝鮮』2021年9/21日付『労働新聞』

Direction of the DPRK Economy — "strategy for the development and reinforcement of the industrial base" and new ways for implementation of a policy (Summary)

PAK Jae Hun
Collaborative Researcher, ERINA

The Democratic People's Republic of Korea (hereafter DPRK) formulated a new Five-Year National Economic Development Plan (hereafter "Five-Year Plan") at the 8th Congress of the Workers' Party of Korea (WPK) held in January 2021. This plan was formulated on the premise of a difficult economic environment, with economic sanctions imposed by UN Security Council resolutions, as well as a substantial cutoff of external economic relations due to the total blockade of its own borders to limit the impact of COVID-19.

The goal of the Five-Year Plan is to ensure that economic management is independent of external economic relations. To achieve this, the plan emphasizes restoring organic linkages among the economic sectors to which the planned economy applies and strengthening the independent foundation of the economy. To this end, a strategy for the development and reinforcement of the industrial base will be realized. This plan is being carried out with the basic theme of "self-reliance and self-sufficiency".

This methodology reaffirms the line of building an independent national economy that the DRPK has maintained since its establishment. The WPK and the DPRK governments have a strong will to break through the difficulties of the real situation they find themselves in by taking an independent line.

The DPRK is showing that it will not abandon its traditional line and will stick to it even in the midst of a harsh, isolated environment. At the same time, it is boldly taking a scalpel to its traditional economic management system and constantly pursuing improvements in economic management. Simultaneously, it is promoting a generational change in party cadres and economic bureaucrats plus thoroughly pursuing a meritocracy. The fact that it adheres to a pragmatic approach in the management of the state shows that its current policies are not mere dogmatism or a return to the past.

The Five-Year Plan, formulated after a rigorous review of the Five-Year Strategy for the Development of the National Economy, which was carried out for five years starting in 2016, has been promoted since its first year in a manner that goes beyond mere economic planning and mobilizes the entire management of the WPK and the Cabinet. While improving the system in the operation of enterprises and cooperative farms, which are the main economic actors, the plan has also strictly pursued the responsibilities of the WPK organization, which politically guarantees economic policy, the WPK executives, and the economic bureaucrats who are in charge of the national economy.

During this period, the committee set forth a direction to promote the substitution of imports of energy and raw materials by actively promoting the active use of natural energy and recycling of resources, centered on the development of science and technology. At the same time, to solve the food problem, the policy to encourage a shift from traditional corn cultivation to wheat and barley cultivation was presented. It also proposed a direction to promote development in rural areas to eliminate the disparity between urban and rural areas and to promote balanced development.

The Five-Year Plan, which began in this manner, is now in its second year. However, in May 2022, the first case of COVID-19 infection was confirmed in the DPRK. The DPRK faced the constraint of reduced economic activity due to the lockdown in various regions of the country.

Under these circumstances, the Fifth Enlarged Plenary Meeting of Eighth WPK Central Committee assessed that the execution of economic policies in the first half of FY2022 was stable and maintained a steady pace of development even under the emergency situation. The meeting then highlighted agriculture and the production of consumer goods needed for daily life as urgent tasks on this year's economic agenda.

However, the new situation of the COVID-19 outbreak in the DPRK will inevitably have a negative impact on the future management of the economy, and it remains to be seen how the WPK and the DPRK governments will manage the economy from this point forward.

Keywords: Economic policy, economic reform, economic sanction, COVID-19
JEL Classification Codes：P21

北朝鮮の新型コロナウイルス感染症の現状と展望

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘

要　旨

2022年5月12日に開催された朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者が出たことを初めて認めた。「発熱者」は5月15日をピークに一貫して下がり続けている。中朝貿易は、2020年1月30日の特別防疫体制への移行によって中朝国境が閉鎖されたことにより、2020年は前年に比べて大きく減少した。2022年1月の鉄道輸送の再開により、1月～4月の中国の北朝鮮への輸出が前年比で大幅に増加したが、4月下旬の鉄道輸送の停止にともない、5月には大幅に減少した。中国共産党第20回大会の終了とともに、中国がウィズコロナに本格的に移行するとすれば、北朝鮮も国境の通行再開など、これまでとは異なった対応を取ることが予想される。

キーワード：新型コロナウイルス感染症、国境封鎖、防疫
JEL Classification Codes: I18, O53, P20

はじめに

本誌154号16～19頁では、拙稿「北朝鮮の新型コロナウイルス感染症への対応」で朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮とする）の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への初期の対応について検討した。ここで筆者は「報道を見る限り、2020年6月上旬現状では封じ込めに成功したとみられる。しかし、ウイルスの世界的流行が続く限り、防疫のための「鎖国」状態をかなり長期に続けざるを得ない状況になる可能性がある」と指摘した。

2022年1月17日に中国外交部は記者会見で、北朝鮮との協議を経て、遼寧省丹東と北朝鮮北西部の新義州を結ぶ貨物列車の運行が再開したと発表した[1]。その後、中国外交部は同年4月29日、記者会見で中国側でのCOVID-19の感染拡大の影響で一時停止することになったと発表した[2]。その後、北朝鮮でのCOVID-19感染が拡大したことから、中国側は貨物列車の運行再開に慎重になっているとの報道がある[3]。鉄道輸送によるCOVID-19の伝播は因果関係がはっきりしないが、中国側、特に地方政府がそれだけ神経質になっていることの証左であり、中朝国境交通の通行再開は、北朝鮮だけで決められる問題ではないことを示している。

本稿では、2022年5月に入ってからの北朝鮮におけるCOVID-19の感染拡大の現状と、それが北朝鮮経済に与える影響、今後のあり得る展望を示すことを目的とする。

1．朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議と感染拡大の「認知」

2022年5月12日付『労働新聞』によれば、同日朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議が招集され、金正恩総書記の司会の下、6月上旬に党中央委員会第8期第5回総会を招集することと、「防疫危機状況に対処するための問題」が討議された。この場で、政治局は「去る5月8日、首都のある団体の複数の有熱者から採集した検体に対する厳格な遺伝子配列分析の結果を審議し、最近、世界的に急速に拡散しているオミクロン変異株「BA.2」と一致すると結論した」とCOVID-19患者が出たことを初めて認めた。そして、国家防疫活動を最大非常防疫体系へと移行することに関する朝鮮労働党中央委員会政治局決定書が採択された。

具体的には「全国のすべての市、郡で、自分の地域を徹底的に封鎖し、事業単位、生産単位、生活単位別に隔離した状態で事業と生産活動を組織して、悪性ウイルスの拡散空間を隙間なく完璧に遮断する」ことが決定された。金正恩総書記は「今われわれにとって悪性ウイルスより更に危険な敵は、非科学的な恐怖と信念不足、意志薄弱である」とし、断固たる措置をとることにより、社会の混乱を抑えるようにすることを強調した。この会議は未明に行われ、同日付の新聞で報道されるなど、朝鮮労働党が危機に対して緊張感を持って臨んでいることを感じさせるものであった。

翌13日付『労働新聞』は、金正恩総書記が12日に国家非常防疫司令部を訪問したことを報道しており、ここで初めて「有熱者」という表現でCOVID-19に罹患した可能性のある人々の数が報道された。北朝鮮ではPCR検査を今のところ積極的には行っておらず、4月末からの死者6名のうち、確定診断が出たのは1名としている。

同月14日付『労働新聞』によれば、朝鮮

[1]『日本経済新聞』2022年1月18日付。
[2]『日本経済新聞』2022年5月2日付。
[3]「北朝鮮、物資不足緩和へ中国に列車再開を要望」『日本経済新聞』オンライン版2022年7月19日
https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGM29AFN0Z20C22A6000000/（最終アクセス2022年7月20日）

労働党中央委員会政治局は最大非常防疫体系の稼動実態を点検し、政治実務的対策を補強するために、同日、党中央委員会本部庁舎で協議会を招集した。この協議会は、同月15日、21日、29日にもそれぞれ開かれており[4]、COVID-19の拡散状況を中心に国政の重要議題について状況の把握と意見交換が行われた。

2．北朝鮮における新型コロナウイルス感染症の現状

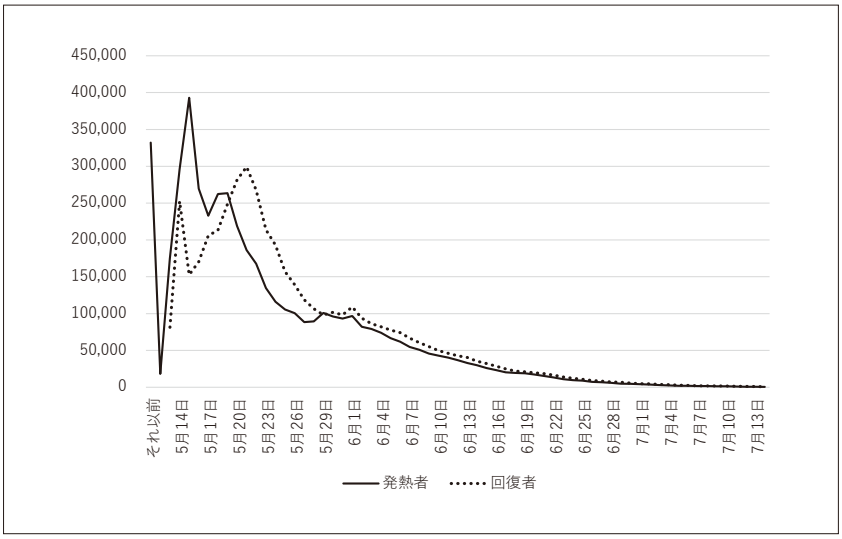
感染状況は朝鮮労働党機関紙『労働新聞』や政府機関紙『民主朝鮮』に「有熱者」「全快者」「死者」「治療を受けている人」の数が指標としてそれぞれ報告されている。

図1を見ると「発熱者」は5月15日をピークに一貫して下がり続けている。発表を開始したのが5月12日であったことを勘案すると、国民向けに公表したのは発熱者のピークアウトの可能性が高くなってきた後、ということになるだろう。韓国の感染者数が2022年3月17日に62万人[5]を超えてからは減少したのと同じようなカーブをこの頃に描いていたのではないかと想像する[6]。

北朝鮮では、今年3月末まで『労働新聞』で韓国のCOVID-19感染状況を毎日つぶさに報道していたが、4月に入り報道の頻度が落ちた。北朝鮮の人々は韓国で1日60万人以上の人々が確診者となった状況を国内報道を通じて知っているので、それほどのパニックには陥っていないものと思われる。

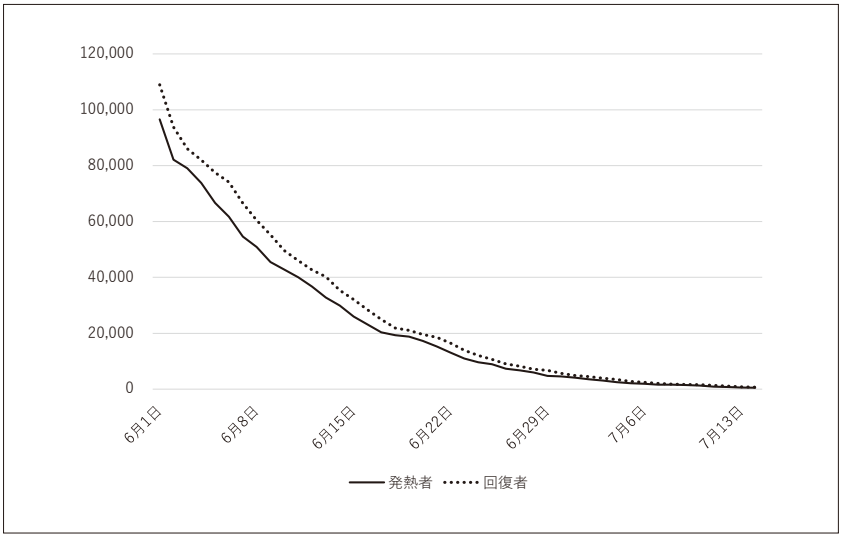
図2のように、6月に入ると発熱者よりも回復者の方が多い状況が続き、7月15日現在、ほぼ第1波は収束したように見える。今後、Ba.4やBa.5の変異種が中国経由で流入することも予想されるが、国民はCOVID-19が基本的に克服可能な病気であることを認識しており、死者数も公式には74名[7]のため、大きな社会的不安にはならない可能性が高い。ただし、5月12日から1週間ほどの報道には、やみくもに薬を服用することを諫める記事もあり、経済的に余裕のある層を中心に一定の混乱があったことを示唆している[8]。

図1　北朝鮮の発熱者と回復者の推移（全期間）（単位：人）



出所：『労働新聞』報道の数値より筆者作成

図2　北朝鮮の発熱者と回復者の推移（6月以降）（単位：人）



出所：『労働新聞』報道の数値より筆者作成

[4] 2022年5月16日、21日、29日付『労働新聞』に協議会の様子が報道されている。

[5] 金明中「韓国で1日あたりの新規感染者数が60万人を超えた理由」『Newsweek日本語版』2022年3月29日 https://www.newsweekjapan.jp/kim_m/2022/03/60.php（最終アクセス2022年7月5日）

[6] ただし韓国における感染者数の減少は、検査を受けて感染が確定した人に対する経済的インセンティブが減少したことも一因であるとされており、社会的な要因も考慮する必要があるだろう。

[7] 死者数が発表されたのは5月12日分からであり、5月11日以前の「それ以前」の数値には死者数は含まれていない。5月11日以前には死者数を正確に把握できていなかった可能性もある。7月15日現在の累計死者数は74人となっているが、実際にはこれよりも死者が多かった可能性は否定できない。

[8] また、医薬品も不足しているようで、5月17日付の韓国『聯合ニュース』は、北朝鮮の高麗航空の飛行機3機が瀋陽空港に到着し、医薬品を積んで北朝鮮に戻ったことを伝えている。この程度の輸送量であれば、アセトアミノフェンやイブプロフェンといった解熱剤を数億錠持ち帰ることができたはずであり、とりあえず平壌市内を中心に国内で基本的な医薬品を供給するめどは立ったものと考えられる。

3．中朝貿易の現状

中朝貿易は、2020年1月30日の特別防疫体制への移行によって中朝国境が閉鎖されたことにより、図3のように2020年は前年に比べて大きく減少した。

中国の北朝鮮からの輸入は、元々金額的にそれほど大きくはないため、減少は少なく見えるが、20年にはどの月も前年同月の実績を下回っている。中国の北朝鮮への輸出は、20年の5月～7月に若干回復したものの、大幅減となっている。

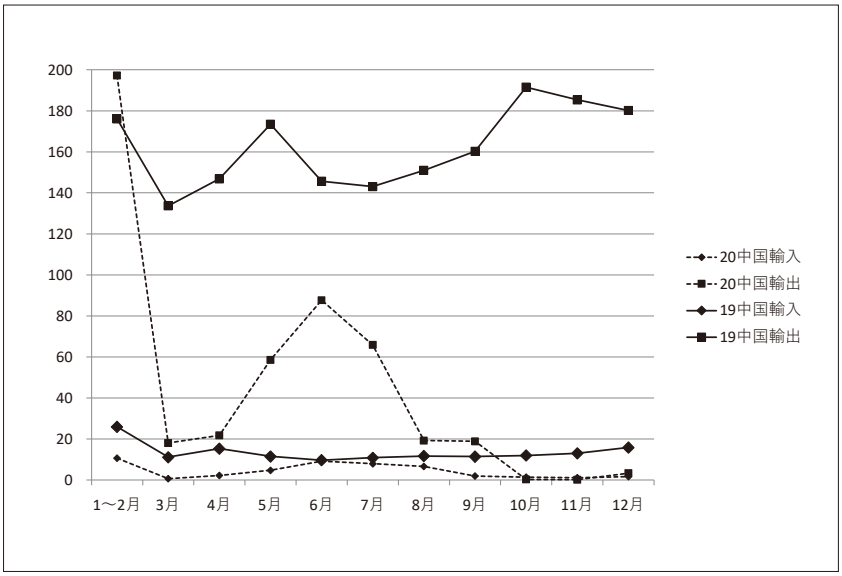
2021年と22年を比較すると、22年1月の鉄道輸送の再開により、1月～4月の中国の北朝鮮への輸出が前年比で大幅に増加している。しかし、4月下旬の鉄道輸送の停止にともない、5月には中国の北朝鮮への輸出が大幅に減少しているのが見て取れる。

品目別の統計をみると、2021年の中国の対北朝鮮輸入はフェロシリコン、電力、アナログ電気式ウォッチムーブメント、生糸、馬鈴薯の粉（でんぷん）の順で、2022年1月～5月のそれは、電力、フェロシリコン、生糸、タングステン鉱およびその精鉱、モリブデン鉱およびその精鉱となっており、鉱物の輸出が増加していることが見て取れる。

中国の対北朝鮮輸出品目をみると、2021年にはタバコが1位となっており、その次にリン酸肥料原料、タイヤ、医薬品、尿素（肥料）となっている。22年には、大豆油、ポリエチレンシート、一般医薬品、砂糖、小麦粉がトップ5品目となっており、食料品や包装材料など、国民生活に関係の深いものが多く含まれている。これらの輸入を増やし、軽工業工場をフル稼働させ、生活必需品を生産していくことが、ウィズコロナで需要が増加する北朝鮮においてはインフレの防止と国民の支持を確保するために重要になるだろう。

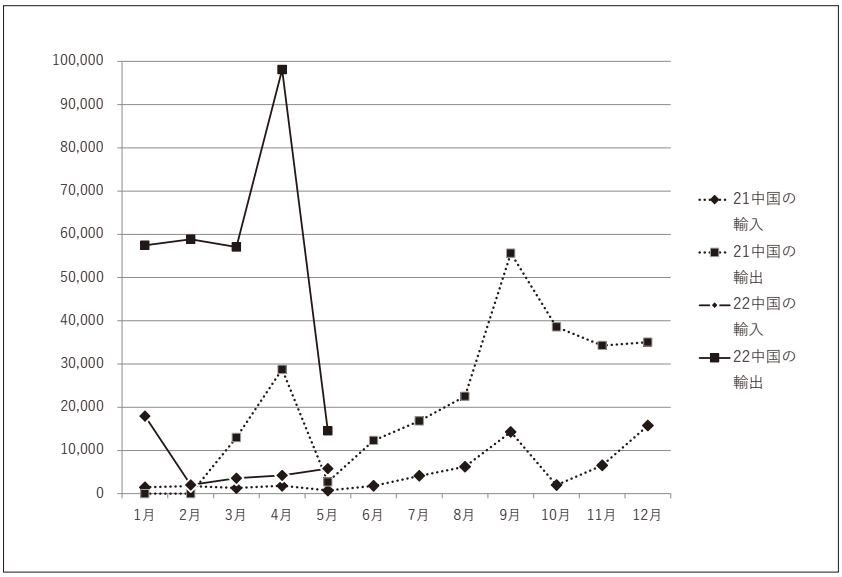
今後北朝鮮は、中国のウィズコロナへの移行にあわせて中国との経済交流を回復させるだろう。まずはトラックによる物流の復活、その次に人的交流の回復を目指すのではないか。同時に、ハサン～羅津港鉄道輸送の回復や豆満江を渡る橋の建設などを通じて、ロシアとの経済交流を拡大させようとするのではないかと考えられる。

図3　2019年と20年の中朝貿易額（単位：100万米ドル）



出所：中国海関総署

図4　2021年と22年の中朝貿易額（単位：1000米ドル）



出所：中国海関総署

表1　中国の対北朝鮮輸入品目トップ15（2021年）

順位	HSコード	品名	数量	単位	数量	単位	金額（米ドル）
1	72022100	フェロシリコン（けい素の含有量が全重量の55％を超える）	37093289	キロ	0	—	26,816,053
2	27160000	電力	412987046	kWh	0	—	16,941,553
3	91081100	アナログ電気式ウオッチムーブメント	35873000	個	36826	キロ	3,600,568
4	50020019	生糸	265590	キロ	0	—	2,719,985
5	11051000	ばれいしょの粉及びミール	4195875	キロ	0	—	2,517,525
6	31043000	硫酸カリウム	5080000	キロ	0	—	1,778,000
7	28492000	ケイ素炭化物	2320225	キロ	0	—	1,082,382
8	50030099	絹のくず	237345	キロ	0	—	1,028,292
9	26110000	タングステン鉱およびその精鉱	100000	キロ	0	—	604,133
10	92059020	アコーディオンその他これに類する楽器	1372	個	11087	キロ	441,324
11	67042000	人髪製のかつら、付けひげ、付け眉毛、付けまつげ、かもじその他これらに類する物品	1900	キロ	0	—	355,602
12	22030000	ビール	300004	リットル	303608	キロ	66,834
13	22089020	焼酎	6019	リットル	5594	キロ	48,456
14	69091100	磁器製の理化学用その他の技術的用途に供する物品	10	キロ	0	—	44,961
15	98050000	個人のeコマース商品	56	キロ	292	個	23,784

出所：中国海関総署

表2　中国の対北朝鮮輸入品目トップ20（2022年1月～5月）

順位	ＨＳコード	商品名	第１数量	第１単位	第２数量	第２単位	米ドル
1	27160000	電力	196426595	kWh	0	—	8,065,405
2	72022100	フェロシリコン（けい素の含有量が全重量の55％を超える）	5855146	キロ	0	—	4,957,357
3	50020019	生糸	476140	キロ	0	—	4,931,831
4	26110000	タングステン鉱およびその精鉱	429800	キロ	0	—	4,361,918
5	26139000	モリブデン鉱およびその精鉱	294753	キロ	0	—	2,544,435
6	91081100	アナログ電気式ウオッチムーブメント	12290000	個	13479	キロ	1,788,561
7	50030099	絹のくず	372615	キロ	0	—	1,638,886
8	28492000	ケイ素炭化物	2978751	キロ	0	—	1,397,217
9	70052900	フロート板ガラス及び磨き板ガラス（色つきでないもの）	4851000	キロ	646794	平方米	1,285,515
10	72061000	鉄又は非合金鋼のインゴット（炭素の含有量が全重量の0.6％未満のもの）	1868700	キロ	0	—	790,662
11	86072100	鉄道および軌道用エアブレーキ及びその部分品	75125	キロ	0	—	504,000
12	67042000	人髪製のかつら、付けひげ、付け眉毛、付けまつげ、かもじその他これらに類する物品	1656	キロ	0	—	394,128
13	31043000	硫酸カリウム	945000	キロ	0	—	330,750
14	92059020	アコーディオンその他これに類する楽器	2951	個	22272	キロ	162,620
15	31059090	その他肥料（肥料成分のうち二以上を含有する）	15000	キロ	0	—	69,000
16	95066210	サッカーボール、バスケットボール、バレーボール	90300	個	12270	キロ	65,874
17	38021090	活性炭	300000	キロ	0	—	54,000
18	33012999	精油（かんきつ類の果実のものを除く。）	3000	キロ	0	—	49,877
19	95030021	動物の形をしたおもちゃ	193500	個	14970	キロ	48,375
20	67021000	プラスチック製の人造の花	4700	キロ	0	—	32,938

出所：中国海関総署

表3　中国の対北朝鮮輸出品目トップ20（2021年）

順位	HSコード	品名	数量	単位	数量	単位	金額（米ドル）
1	24031900	喫煙用たばこ	2357510	キロ	0	—	16,446,187
2	31053000	オルトりん酸水素二アンモニウム	25884580	キロ	0	—	13,025,333
3	40112000	バスまたはトラック用タイヤ.	6592305	キロ	101355	本	12,424,437
4	30049090	一般医薬品	1861086	キロ	0	—	11,512,070
5	31021000	尿素	32000000	キロ	0	—	11,167,000
6	40012100	生ゴム（スモークドシート）	4811229	キロ	0	—	9,816,122
7	28362000	炭酸二ナトリウム	27638250	キロ	0	—	8,123,998
8	39201090	ポリプロピレンシート	4802726	キロ	0	—	6,087,988
9	12019010	黄白色系の大豆（種用ではない）	6490808	キロ	0	—	5,903,798
10	15079000	大豆油	4560202	キロ	0	—	5,803,682
11	39011000	比重が0.94未満のポリエチレン	3867100	キロ	0	—	5,673,778
12	55032000	ポリエステル短繊維	6197400	キロ	0	—	5,547,052
13	17019910	砂糖	11433900	キロ	0	—	4,686,756
14	24012090	タバコ（骨を一部または全部のぞいたもの）	1058135	キロ	0	—	4,475,550
15	34012000	石けん	4568000	キロ	0	—	4,435,401
16	4021000	粉乳（脂肪分1.5％以下）	1510470	キロ	0	—	4,396,544
17	15119090	パーム油	5521294	キロ	0	—	4,155,828
18	27132000	石油アスファルト	7326224	キロ	0	—	3,910,285
19	39021000	ポリプロピレン	2469780	キロ	0	—	3,455,567
20	55021010	アセテートのトウ（タバコのフィルタ）	861586	キロ	0	—	3,410,974

出所：中国海関総署

表4　中国の対北朝鮮輸出品目トップ25（2022年1月～5月）

順位	ＨＳコード	商品名	第１数量	第１単位	第２数量	第２単位	米ドル
1	15079000	大豆油	12352323	キロ	0	—	19,334,033
2	39201090	ポリエチレンシート	9019999	キロ	0	—	13,098,108
3	30049090	一般医薬品	5191766	キロ	0	—	9,064,104
4	17019910	砂糖	19965800	キロ	0	—	9,061,903
5	11010000	小麦粉及びメスリン粉	26369475	キロ	0	—	8,839,957
6	55032000	ポリエステル短繊維	6714920	キロ	0	—	7,275,117
7	40112000	バスまたはトラック用タイヤ	3294293	キロ	66537	本	6,805,339
8	29224220	グルタミン酸ナトリウム（味の素）	5323000	キロ	0	—	6,529,923
9	24031900	喫煙用たばこ	1119840	キロ	0	—	6,404,846
10	28362000	炭酸二ナトリウム	14944580	キロ	0	—	5,571,164
11	39181090	塩化ビニル製フローリング材	3217733	キロ	0	—	5,188,849
12	15119090	パーム油	5214760	キロ	0	—	4,950,133
13	39011000	比重が0.94未満のポリエチレン	2842900	キロ	0	—	4,694,358
14	38089319	除草剤、発芽抑制剤及び植物生長調整剤	954500	キロ	0	—	4,558,355
15	34025010	合成洗剤（消費者向けパック）	5903768	キロ	0	—	4,221,360
16	34012000	石けん	3633700	キロ	0	—	3,753,022
17	54076900	その他の織物（ポリエステル長繊維が85％以上）	3353297	メートル	617979	キロ	3,605,338
18	39202090	その他の織物（ポリエステル長繊維が85％以上）	1827939	キロ	0	—	3,565,408
19	12019011	遺伝子非組み換え黄白色系大豆	4244006	キロ	0	—	3,469,882
20	24012090	タバコ（骨を一部または全部のぞいたもの）	763320	キロ	0	—	3,443,184
21	34029000	その他の界面活性剤（洗剤）	6716400	キロ	0	—	3,368,460
22	40012100	生ゴム（スモークドシート）	1587224	キロ	0	—	3,208,872
23	39012000	比重が0.94以上のポリエチレンの一次品	2290950	キロ	0	—	2,783,495
24	23040090	大豆油かす	5096613	キロ	0	—	2,775,319
25	31021000	尿素	5000000	キロ	0	—	2,756,688

出所：中国海関総署

4．今後の展望

2021年後半より金正恩総書記が両江道三池淵市を訪れるなど地方出張が復活しており、COVID-19に対する警戒感は実際には以前より緩んできていると思われていたが、厳しい防疫体制には変化はなく、ウィズコロナへの移行は当分先であると感じられた。しかし、前述したように、韓国を含めた世界のCOVID-19感染状況の報道も4月からは量的にかなり減少し、隣国である中国でも、上海などで厳格なロックダウンを行いながらも、昨年末頃より、ゼロコロナ政策を解除する方法とそれがもたらす社会的影響についての試論が発表されるなど、ウィズコロナ、アフターコロナに向けた検討が行われ始めている。

今回、朝鮮労働党中央委員会政治局が新型コロナウイルス感染症の国内感染者を認めたことは、北朝鮮がコロナ禍に見舞われ、大混乱に陥ったことを認めたというよりは、世界的なウィズコロナ、アフターコロナの趨勢に合わせて、出口戦略として、国民に新型コロナウイルス感染症がそれほど恐ろしくないことを知らせるための宣伝の一貫であると判断できる。

したがって、国民を管理する次元で積極的にCOVID-19を利用することがあったとしても、受け身になる可能性は今のところ低い。中国は2022年6月28日から中国国外からの渡航者を対象とした隔離期間の短縮（14日間の隔離施設における集中隔離+7日または14日間の自宅健康観察から、7日間の隔離施設における集中隔離+3日間の自宅健康観察への変更）を行っており、7月1日からは日本におけるMビザ（短期商用）取得の際に必要であった、中国の省政府クラスの商務庁または人民政府外事弁公室が発行したバーコードつき招聘状が不要になるなど、ゼロコロナ政策継続の報道の裏で、ゆっくりかつ確実にウィズコロナへの準備を進めている。この秋に予定されている中国共産党第20回大会までは、社会の安定を重視することから現行の厳しいコロナ対策が継続するであろう。しかし、党大会後には、オミクロン株の変異種（Ba.4、Ba.5）などの感染状況や重症化の度合いなどを勘案しながらウィズコロナへの対応をゆっくりと進めていくことになるであろう。

北朝鮮の今般のCOVID-19感染拡大の認知は、中国の共産党大会後と思われる外国との交流再開に合わせて、国境封鎖を解き、物流を正常化するなどして、経済交流をコロナ前の状況に戻していくことを考えている可能性が高いのではないか。

中国がウィズコロナに移行するということは、中朝間のトラックによる物流やビジネスパーソンの人的交流が再開できるようになるということでもある。今年後半にこのような状況に移行するとすれば、不足している生活必需品の原材料や完成品が中国からより多く輸入されるようになるはずである。このような状況が北朝鮮の5月からのコロナ対応にも反映されていると見てよいだろう。

2022年6月11日付『労働新聞』によれば、同月8日～10日に開催された朝鮮労働党中央委員会第8期第5回総会は、拡大会議という形で「党中央委員会各部署の活動家と省、中央機関、道級指導的機関と市・郡、重要工場、企業の責任活動家が傍聴」するなかで行われた。近年、中央委員会総会を拡大会議で行ったことはなく、中央党と内閣の経済関連幹部だけでなく、道や市・郡といった地方の幹部や企業の幹部までを網羅している。同総会では、農業と軽工業を2022年の重要な課題とした。

同月13日付『労働新聞』に掲載された「党中央委員会総会拡大会議は消費財生産を今年の経済的課題の中の急務のひとつと設定した」という記事では、「消費物生産において、地方工業が自らの役割を果たすことが重要である。」「大規模の中央工業と共に中小規模の地方工業も同時に発展させて、消費財生産を増やすというのは、わが党が終始一貫堅持している政策である。」とし、地方工業の重要性を説いている。しかし、それが上手くいっていないことを同記事では「自らの地域の自然的・地理的利点を正しく利用することは考えず、条件ばかり並べ立てて他人の顔色ばかりうかがうような活動家がいる所では、いつまでたっても人民生活が向上せず、わが党の人民愛の政治が立派に具現されない」などと批判している。

2022年6月19日付『民主朝鮮』が「今年の経済的課題の急務は、農業と消費品生産である」という記事を載せていることからも、同総会のポイントは人事とともに、国民が実生活の中で感じられる「進展」をどのようにもたらすかということにあり、実際にそれを担当する党と政府、企業の関係者が集められたということであろう。

あくまで筆者の推測ではあるが、北朝鮮の指導部は対外経済関係が年末から来年にかけて好転するという見通しを立てつつ、化学肥料や農薬、農業用ビニールの供給が来年には復活の兆しを見せるため、独力でやらざるを得ない今年に関しては特に努力をするように促したとも言えよう。また、ロシアのウクライナへの侵攻にともなう西側諸国や日本の経済制裁は、中国やインド、ブラジル、イラン、サウジアラビア、トルコなどの国々の西側諸国や日本への信頼を失わせ、独自の経済圏構築の必要性を感じさせている。北朝鮮にとって、このような経済圏が誕生することは、願ったり叶ったりで、北朝鮮の指導部は、中ロを中心とした国々との対外経済関係が拡大する可能性を感じており、今後の北朝鮮の対外経済関係は徐々に回復していく方向の楽観的な予測をしているのではないかと考える。

おわりに

2022年5月に入ってからの北朝鮮におけるCOVID-19の感染拡大は、当初は相当数の「発熱者」が発表されたことで、北朝鮮が極めて困難な状況に陥ることを予感させたが、その後の発表をみると、事態はコントロールできるとのメッセージを感じさせるものであった。他方、中朝貿易の現状を見ると、2019年以前の貿易量には回復しておらず、国民生活は依然として困難な状況にあることを示唆している。6月の朝鮮労働党中央委員会第8期第5回総会で、農業と軽工業の振興を今年の課題としたことは、このような状況を認めたものと見ることもできるし、ウィズコロナ、ポストコロナへの移行により、需要が増加することを見越した準備と見ることもできる。

中国共産党第20回大会の終了とともに、中国がウィズコロナに本格的に移行するとすれば、北朝鮮も国境の通行再開など、これまでとは異なった対応を取ることが予想される。

Current Status and Prospects of New Coronavirus Infections in the Democratic People's Republic of Korea (Summary)

MIMURA Mitsuhiro
Senior Research Fellow, Research Division, ERINA

The 8th Political Bureau meeting of the 8th Central Committee of the Workers' Party of Korea (WPK), held on May 12, 2022, recognized the pandemic of a new type of coronavirus infection (COVID-19) in the Democratic People's Republic of Korea. The number of "fever cases" peaked on May 15 and has been consistently dropping ever since.

Sino-DPRK trade declined significantly in 2020 compared to the previous year due to the closure of the Sino-DPRK border with the transition to a special quarantine regime on January 30, 2020. The resumption of railway transport in January 2022 led to a significant year-to-year increase in Chinese exports to the DPRK from January to April. However, due to the suspension of railway transport in late April, Chinese exports to the DPRK declined significantly in May. If China makes a full-fledged transition to the new normal with COVID-19 with the conclusion of the 20th Congress of the Communist Party of China, the DPRK is expected to take a different approach, such as the reopening of border traffic with China.

Keywords: COVID-19, border closure, epidemic prevention
JEL Classification Codes : I18, O53, P20

経済の多角化:モンゴルの事例

内陸発展途上国国際シンクタンク所長
ドゥルグーン・ダムディンオド

要　旨

多角化が進み、強靭かつ適応力のある経済(国々)は、多くの部門を持ち、幅広い貿易関係を長年にわたって構築してきた。これらの国々は、経済思想や発展モデルに関する見解に多大な影響を与えることが多い。また、こうした国々のデータは、多角化の度合いについての世界的な評価や比較の際の基準にもなる。当然ながら、こうした分析や関連調査では、たいていの発展途上国、特に規模の小さな国々は多様性に非常に乏しいという結論が出されている。

本稿のモンゴルの事例では、経済の多角化の5つの側面である輸出製品、輸出市場、FDI の流入源、生産部門を超えた多角化、生産部門内の多角化について探る。

先進経済圏への広範な輸出拡大がとりわけ難しい小規模な発展途上国にとっては、南南の結びつきや貿易を急拡大することで自国の輸出実績を改善できるはずである。しかし、これによって貿易相手国の幅が広がる可能性がある一方で、特に物理的に接続が難しい内陸国にとっては、製品の多角化は依然として実現しにくいと考えられる。おそらく、製品を大幅に多角化する取り組みを進める代わりに、サービス分野への拡大、特に潜在的な顧客層が明確なサービスへと拡大することが政策目標となるであろう。財の貿易と同様にサービス部門にもチャンスはある。例えば、観光や業務サービスは、世界的に貿易環境が激動したにもかかわらず、過去10年間の大半を通じて実績が良かった適応力のある産業である。

モンゴルの多角化に関する分析結果には、中国寄りにならざるを得ない同国の状況や、燃料・鉱物の貿易が活発となっていることが影響しており、従来の指標によれば、集中度が増している。また、燃料・鉱物の盛り上がりと同時に、モンゴルはヤギの生産性も上げており、ヨーロッパを含めたさらに広域な市場に向けてカシミアを輸出している。

キーワード：経済発展、多角化、内陸発展途上国
JEL Classification Codes: O57

1. はじめに

モンゴルはロシアと中国に挟まれていることから、当然この2カ国がモンゴルの経済、貿易、投資の発展に重要な役割を果たしてきた。過去20年にわたり支配的影響力を及ぼしているのは中国で、モンゴルの輸出の80～90%程度、輸入の約3分の1を占めている。また、モンゴルは海路とその先の海外市場への接続を主に中国に頼っている。とはいえ、モンゴルの輸入のほぼ4分の1は依然としてロシアが供給している。

実際に、内陸国であること以外の様々な地理的要因(例えば、極端な山岳地帯、政治的課題のある国境など)によって、インフラ開発、ビジネス、貿易の可能性が制限される可能性はある。接続条件が悪いことや、所要時間、高い輸送費が、特に物品貿易や大衆向けサービスなど、多くの発展の機会を妨げてしまう。そのため、専門性の高いサービスや軽工業にさらに力をいれていくことになる。

モンゴルの広大な国土は、銅、金、ウラン、原料炭、一般炭などの鉱物資源を豊富に有している。1990年代後半に政府が鉱業や投資に関する条件の良い法律を採択し、海外の鉱物資源開発探査企業がたいへん興味を示したことで新たな技術が効率的に導入され、採掘・採石部門の生産量が急増した。

モンゴルは特殊な農産物(主にヤギの生産拡大に伴うカシミア)の輸出も拡大させており、これらは輸送の難しい商品よりもさらに広域な市場に容易に売り込むことができている。

2. 課題、機会、政策に関する提案

自国で解決できない外部課題として、海外市場への接続を隣国の2カ国へ依存していることや、低人口、厳しい気候条件などがある。それにもかかわらず、モンゴルは自国が持つ天然資源を背景に高成長率を維持している。

モンゴルは採掘・採石部門に依存し続けており、当面はこうした実情が続くであろう。このような特定の部門に集中した成長がもたらす不均衡は、適切な政策策定と効率的な政策実施によって緩和することができる。目標とすべきは、鉱物資源使用料からの収益によって資本を蓄え、それを経済の多角化、人的資本の強化、そして商品(コモディティ)輸出への経済依存を緩和させる産業の発展に効率的に割り当てることである。積極的な政策によって非採取部門の事業成長を育むべきである。

多角化は採取部門を犠牲にしてまで求めるべきではない。鉱業品は世界でこれからも必要とされており、モンゴルが鉱物資源国であることや、隣国が世界最大の消費市場であるという地理的条件は強い競争力であり、これを無駄にしてはならな

い。代わりに、モンゴルは持続可能な鉱業の発展を模索すべきである。

こうした難題を緩和し、チャンスを活かすため、モンゴルは交通・エネルギーインフラの整備と並行して、持続可能な鉱業の開発、採取部門の犠牲を伴わずに行う経済の多角化、業務手続きの近代化、汚職撲滅、説明責任の強化を目指す政策やイニシアティブを検討できるであろう。

2-1. 持続可能な鉱業産業の開発

国連の環境と開発に関する世界委員会が定めたとおり、持続可能な開発とは、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」である。その意味では、経済・社会・環境への影響を慎重に評価しなければならない。また、埋蔵・天然資源に対しても探査への民間・公共投資を通じて継続的に補っていく必要がある。以下を実施することで持続性がありバランスが取れるようになるであろう。

- 国連や世界銀行のような国際機関や開発組織との、政策や国際協調全般に関する協議
- 責任説明を果たす方策として、グリーンピース、トランスパランシー・インターナショナル、世界自然保護基金などの NGO との協力
- 採取産業透明性イニシアティブ（モンゴルは既に加盟）をはじめとする国際規格への加盟
- 国内機関や規制当局による、環境・社会的影響に関するベストプラクティスおよび標準の段階的・継続的導入
- ステークホルダーとして、国際金融公社（IFC）、欧州復興開発銀行（EBRD）、アジア開発銀行（ADB）などの多国間国際機関への積極的な参加
- 広域地質図作成事業への公共投資

モンゴルは基幹である採掘・採石部門のさらなる開発に向けた公正かつ安定した条件をつくる必要がある。国際機関を大規模な投資契約の交渉に巻き込むことで、モンゴル側の交渉能力が強化され、透明性が確保されると考えられる。幅広く支持され、透明性のある十分な議論を経た合意であれば、かつて大規模事業を長引かせてきたポピュリストの度重なる修正の犠牲となる可能性は低いだろう。

2-2. 鉱物資源事業への近視眼的な株式保有の回避

国有企業（SOE）のモデルは、組織能力や関係機関の独立性が不足していたり、全般的なマネジメントや技術的専門知識が不足していたことで、これまでうまく機能してこなかった。中期的なプロジェクトに関しては、モンゴルは累進型の鉱山使用料や税の仕組みを導入するための交渉を模索すべきである。これによって政治目的での阻害は起こりにくくなり、透明性は高まり、より予測可能な信頼できる収入源の確保が可能になるであろう。同国の政治体制がより成熟し、民間や公共部門における国内の技術的・経営能力が発展した際は、この部門への国家資本投入や「国内王者」育成の再考もあり得るであろう。

2-3. 経済の多角化の促進

採取産業を発展・強化させる一方で、モンゴルはよりバランスの取れた経済をつくるため、資本を蓄積・配分するための政策実施を模索すべきである。モンゴル経済の多角化を促進する手がかりとなる政策は主に以下の各分野にわたる。

- 全体的に条件の良いマクロ経済状況の創出
- 組織能力の強化
- インフラの整備
- 民間部門の成長促進
- 資本市場の整備
- ニッチ産業の発掘と発展
- 包括的な国家ブランド戦略の策定

鉱山使用料を蓄えるための既存のメカニズムは、以下の目的に沿って再検討・再構築するべきである。

- 政治的干渉の最小化
- マネジメントの専門化
- 政府系の利益追求型独立機関としての運営

モンゴルの安定化基金は、商品価格の上昇時に積み立てる必要がある。これには財政規律の他に最低限の基金拠出を命ずる法律が必要となる。組織能力の全体強化を優先させるべきで、まずは、モンゴル開発銀行のような機関が政治的干渉を受けずに運営にあたるべきである。プロ経営陣の任命と、各省庁と政治家がこれらの機関とどのように関わり合い、影響を与え合うのかを決めるため、厳格な規定を定める必要がある。

2-4. 特定の部門の民営化、汚職の撲滅、責任説明の強化

特定の部門や国有企業の一部もしくは全てを民営化することは、説明責任を強化することにつながる。モンゴル国有鉱山企業のエルデネス MGL は、汚職や非効率的な運営といった非難を受けている。未開発の戦略的鉱床のポートフォリオについては、開発・利用に向けた前進が全く見られていない。モンゴルは過去にエルデネス MGL に対して株式上場を求めたことがある。商品市場がまだ力強いうちはそれが筋である。株主名簿に海外投資家を加えることで、経営規律や説明責任の強化ができるであろう。

2-5. 道路インフラへのさらなる投資

過去10年において、モンゴルは道路インフラの開発にある程度は成功している。しかし、投資が「配当」を生み続けるためには、メンテナンス資金を十分に割り当てる必要がある。石炭や鉄鉱石などのバルク商品の輸出では、鉄道輸送能力の不足や国境渋滞の課題がある。この先10年、モンゴルはこれまで行ってきた道路開発と同じペースでの鉄道輸送の発展を模索すべきである。主要な人口中心地かつ経済拠点として、ウランバートル市には多くの投資が必要となる。エネルギー、上下水道、公共交通輸送を整備することで、公害や生産性の低下に伴う費用を削減することができるであろう。

2-6. 業務手順の合理化と近代化

時代遅れの法的要件や複数機関による許認可制度の削減のため、国をあげて包括的な見直しを行うべきである。モンゴル商工会議所や、モンゴルビジネス協議会のようなビジネス団体に相談し、規制承認プロセスの合理化について提言してもらう必要がある。物理的な書類や過剰な公

証の要求を削減・廃止し、電子ファイルや電子署名を導入して、官僚制度全体を近代化すべきである。

ベンチャー企業をはじめとするモンゴルの企業は、手ごろな資金の獲得に苦しんでいる。同国には16の銀行があるものの、金融機関の競争はごく限られている。金利は引き続き非常に高く、最も信用の高い企業でさえも年20%以上を支払っている。銀行は預金と貸付の金利の間で4%以上の利益を得ることができている。金融業界は海外の競争相手から非常にうまく身を守り続けてきた。モンゴルの大手銀行は、同国の経済において支配的な組織となり、もはや保身の必要はなくなった。例えば、国内最大の金融機関であるモンゴル貿易開発銀行を後ろ盾とするあるグループは、透明性に欠ける状況の中、同国の戦略的企業であるエルデネト鉱山会社のロシア側保有株の買収の後押しをしていた。モンゴルは、信頼できる主体に新たな金融業許可証を発行するだけでなく、この部門を国際競争にさらすことも検討すべきである。

2-7. 中小企業への支援強化

政府系ファンド（SWF）に蓄積された資金の一部は、国内のベンチャーキャピタルへの投資に割り当てるべきである。特に、テクノロジー、バイオテクノロジー、再生エネルギー、知的財産の発展の可能性がある知識集約型分野における起業家精神は、政策方針として支援すべきである。また、モンゴルは高級ファッション、装飾美術、宝飾品などの職人産業を国内で発展させることが可能であろう。

2-8. 海外市場を勝ち取るための「有機」農法の資本化

経済規模では農業は採掘・採石部門に次いで2番目に大きな部門で、国内最大の就職先となっている。国内の膨大な家畜数は、輸出を中心とした有機食肉・酪農に向けてさらに展開していくことができる。モンゴルの伝統的な畜産方法は、最近トレンドとなっている放し飼いの牧草有機飼育をした食肉や乳製品にとても適している。うまくブランド化して管理すれば、これらの製品は海外市場で効果的に競い合うことができる。国内において、政府は全国的な獣医学基準や厳しい認証制度の導入に向けた政策に力を入れるべきである。

2-9. 食の安全のための登録・電子情報システムの統合

モンゴル政府の2016～2020年の行動計画には、食の安全のための登録・電子情報統合システムの構築が掲げられている。加工、保管、輸送にはさらなるインフラ投資が必要となるため、政府は民間部門の投資を奨励する具体策を模索すべきである。国際的には、モンゴルは引き続き二国間貿易協定を締結し、相互認証制度を取り入れるべきである。同国の商標・地理的表示法は2003年から施行されている。現在、これは羊毛、ヤク乳チーズ、ラクダ乳チーズ、西部地域のシーバックソーンのわずか4製品にのみ適用されているが、さらに多くの種類の食肉、乳製品、オーガニック製品にまでリストを拡大することができる。ただし、モンゴルの地理的・人口面での制約を考えると、費用や数量面での競争は模索すべきではない。モンゴルの国家的なブランド戦略は、内モンゴル産製品を中国でのマーケティングで効果的に活用しているように、本来の環境や遊牧民の伝統的な畜産の信頼性から強みを引き出していくべきである。

2-10. 市場占有率を上げるための再ブランド化

低人口の後発開発途上国として、モンゴルは大幅な差別化や、高い競争優位性が持てる分野で生産を発展させていくことを模索すべきである。食肉と乳製品以外のオーガニック製品については、一つの共通ブランド戦略から大きな利益を得ることができる。これにはアルコールやノンアルコール飲料からオーガニック化粧品まで、幅広く含まれる。南の隣国である中国は、引き続きモンゴルの主な輸出市場となるであろう。しかし、オーガニック製品などの付加価値のある輸出品の発展にあたっては、さらに多角的な市場を創設するという目標も同時に持つべきである。海外市場からの協力と投資が、モンゴルの土台となる「第3の隣国」に対する外交政策の経済的柱として機能するであろう。2つの隣国と友好的かつ戦略的な関係を維持することで、後発開発途上国が抱えるいくつかの課題解決へと繋がるであろう。

2-11. 初期産業の促進と開発

モンゴルは経済規模が小さいことや地理的に僻地であることから、海外ブランドからは見過ごされることが多い。つまり、大企業は技術移管を目的として同国の市場に参入してくることはない。しかし、同時に国内の起業家が激しい競争圧力を受けずに、革新的ソリューションを見つけたり、新しいテクノロジーを導入したりする機会をつくり出している。これについても、初期産業が発展しやすい条件の整った環境をつくるためには、政策立案者による素早い行動が必要になる。例えば、配車サービス企業のウーバーが国内市場に参入していないことから、似たようなソリューションをつくった国内企業がある。しかし、左ハンドル車両に関する既存のタクシー・リムジンの法規は、日本から輸入された右ハンドル車両が車道の大半を占めているという現実と矛盾している。規制当局は現実を考慮し、国内産業の勃興を促進するためにはある程度の柔軟性を示し、実利を優先するべきである。

2-12. 積極的な政策立案

モンゴルにとって、過去25年間にわたって変化・適応能力を発揮してきたダイナミックな政治・社会制度は大きな強みである。このように、モンゴルは法規面でも敏捷性を発揮し、対応型というよりもむしろ積極的な政策立案を行う政治的文化を育むよう模索すべきである。

テクノロジーが勃興しやすい条件の良い環境づくりに関する評価や施策は、行政機関だけで実施するのではなく、国会内の作業部会の設置を通じて実施する優先事項とするべきである。ブロックチェーンや仮想通貨は、多くの先進経済圏がこれまでの法的基準による規制やその適用で苦労している新たな変革技術の例である。モンゴルは時代に沿った規定の導入という面で最先端に立つことが可能で、こうした新たなテクノロジーに対する独自の法的手段を持つことで、どのような利益を得ることができるかを真剣に検討すべきである。

3. 結　論

広範な経済活動や貿易関係を基本とする経済圏は、トレンドの変化や特異的なショックに対してより適応力があるという考え方が一般的である。発展途上（または制約のある）経済にはこれから多角化していく可能性が残されており、これによって経済的リスクは下がるであろう。たしかに、ビジネス、輸送ルート、貿易関係をさらに構築することで、製品や市場への依存はいく分か減り、これによって国内外の潜在的な環境変化に対する国の適応力はさらに高められる。

また、モンゴルの多角化に関する分析結果には、中国寄りにならざるを得ない状況や、燃料・鉱物の貿易の活発化が影響を及ぼしており、従来型の指標によれば、集中度が高まっている。また、燃料・鉱物の盛り上がりと同時に、モンゴルは家畜ヤギの生産性も上げており、ヨーロッパを含めたさらに広域な市場に向けてカシミアを輸出している。

内陸国は（香港やシンガポールのように）主要な航路での中心的な港としての働きは不可能だが、隣国である大国や国内外の富裕層にサービスを提供する高度なビジネス拠点の構築を検討することはできる。ビジネス拠点が効果的に機能するには、立地、輸送、製造コストよりも、政権の安定、強力な法制度、スキルの方がさらに重要な要素となる。場合によっては、航空・鉄道・道路輸送の拠点や保管・地域配送センターとしての役割を果たす可能性もありうるし、おそらく、これはモンゴルで実現可能である。

モンゴルは（鉱物やカシミアなど）海外市場でよく売れる製品、もしくは国内の潜在顧客や隣国の発展途上国、または毎年訪れる観光客に比較的容易に売れる製品を基にビジネスを構築することができる。初期段階では、従来の多角化指標を引き上げる効果は弱いか、もしくは逆効果かもしれないが、徐々に新たな市場や製品に拡大していくにつれて新しいニッチを発展させていく機会ができ、長期的に多角化は確実に拡大していくであろう。

［英語原稿をERINAにて翻訳］

＜参考文献＞

International Think Tank for Landlocked Developing Countries: *Economic Diversification of Landlocked Developing Countries*, 2018, pp.31-61

Economic Diversification: Case Study of Mongolia (Summary)

DULGUUN Damdin-Od
Executive Director, International Think Tank for Landlocked Developing Countries

The well diversified, robust and resilient economies have built up a rich sectoral representation and widespread trade relations over many years. These countries tend to have a significant impact on economic thinking and opinion regarding development models. Their data also set a benchmark in global assessments and comparisons of rates of diversification: such statistics and related studies unsurprisingly conclude that most developing countries, especially very small states, are very poorly diversified.

Five dimensions of economic diversification – export products, export markets, origin of FDI inflow stocks, diversification across production sectors and diversification within production sectors – are explored in the present paper in the case of Mongolia.

For those small developing countries that find it particularly hard to achieve export growth across a wide range of advanced economies, more rapid growth in South-South connectivity and trade should allow them to improve their export performance. However, while this might increase their range of trade partners, diversification in the range of products offered might remain difficult to achieve, especially for landlocked countries with physical accessibility problems. Arguably, instead of promoting efforts to greatly diversify goods, an alternative policy goal might be to expand into services, especially those that might clearly appeal to a well-identified target group of potential clients. There are opportunities in services as well as goods trade – tourism and business services are resilient industries that have performed well throughout most of the last decade, in spite of the turbulent global trade environment.

Diversification analysis for Mongolia is impacted by its inevitable tilt towards China and the boom in fuels and minerals trade: on the conventional measure, concentration is increasing. At the same time, however, Mongolia has been increasing productivity in goat herding and thus exports of cashmere have achieved a wider market, including Europe.

Keywords: Economic Development, Diversification, Landlocked Developing Country
JEL Classification Codes : O57

北東アジア経済統合のためのボトムアップ型アプローチ

モンゴル安全保障戦略研究所研究員
ニンジン・バター

要　旨

国際関係において、経済統合は極めて重要な一端を担っている。通常、政策方針は国家機関を通じて中央政府によって決定される。北東アジア地域も例外ではない。そこで、各国の地方都市が中央政府の介入を受けずに経済統合を図ることができるボトムアップ型アプローチの可能性を提示する。

キーワード：経済統合、北東アジア、地域間協力
JEL Classification Codes: F02, H77

1．はじめに

経済統合とは、国家間の障壁を撤廃し貿易を促進させる経済政策統一化のプロセスのことで、消費者と生産者双方のコスト削減と、協定加盟国間の貿易拡大を目指している。経済統合の実現に使われる最も一般的なツールとして、政府間組織、対話、自由貿易協定（FTA）がある。政府間組織や対話は政策立案の段階で主に使われるツールである一方、自由貿易協定や地域経済自由化協定は実務レベルで機能する。しかし、国際関係の分野では、このメカニズムの各要素を個別に切り離して理解することは不可能である。

北東アジアの経済統合には独自の特徴がある。北東アジア諸国、特に韓国、日本、中国はいずれも外向的で、自国の成長を他国との経済関係に依存している[1]。しかし、この見解は世界の大半の国に対しても当てはまる。違いがあるとすれば、依存相手国がそれぞれ異なることくらいである。

本稿では北東アジア地域経済統合のための既存のツールを分析し、このメカニズムにおける問題領域を明らかにする。また、既存のメカニズムをさらに推し進めるため、経済統合のボトムアップ型アプローチを提示する。このボトムアップ型アプローチについてはモンゴルの事例で説明するが、その際、経済統合の推進が見込まれる国際協力の分野を中心に取り上げる。

2．域内経済統合の分析による課題の明確化

北東アジア地域の経済統合を促進する現行のメカニズムは、大図們江イニシアチブ（GTI）などの政府間組織、政府間対話、そして様々な自由貿易協定を中心としている。

現在の域内経済統合の中心的メカニズムは、悪評高きGTIである。GTIは域内政府間協力の典型例であり、多くの国が調和的な経済政策の形成を目指している。GTIが対象とする経済統合部門には、運輸、貿易、投資、観光、エネルギー、農業、環境が挙げられる。この協力メカニズムの良いところは、加盟国の経済政策の水準を統一させるために幅広い調査研究プロジェクトを行っていることにある。さらに、GTIは加盟国が強みとしている分野での連携を目指している。例えば、モンゴルであれば農業や鉱業がそうした部門にあたる。

ところが、GTIは開始当初は有望視されていたプロジェクトであったにもかかわらず、様々な理由で停滞したままになっている。理由の一部には、国家間・地方間における行政の調整不足、経済活動にとってインフラや接続性が不十分であること、組織能力の不足などがある。また、もちろん朝鮮半島の微妙な問題もある。そのため、こうした状況がGTIの効果的な機能や計画達成を阻む要因となっている。

政府間経済統合を円滑に進める2つ目のメカニズムは、貿易・投資協定である。一般的に、自由貿易協定や投資保護協定は、国家間の経済協力の主なツールとして提示される。FTAによって、加盟国域内で特恵関税待遇を受け、かつ財やサービスの流れを妨げかねない面倒な行政手続きをできるだけ避け、自由にビジネスができるようになる。実際、FTAは加盟国でのビジネスが円滑に進められるよう門戸を開いてくれる。

FTAやその他の貿易促進協定は1990年代に盛んになってきた。最近では、FTAは二国間、地域内、多国間という3つの層になっている。北東アジア地域の現行のFTAについてはこれらの層の枠組みで見ていくことができる。既存のFTAで現在有効なのは、アジア太平洋貿易協定（APTA）、中国・韓国FTA、日本・モンゴル経済連携協定（EPA）である。地域包括的経済連携（RCEP）は、地域自由貿易協定の区分では別格である。RCEPはアジア太平洋の15カ国が加盟する世界最大の経済連携となった。中国、韓国、日本をはじめとする北東アジアの主要経済国もRCEPの加盟国である。また、事実上

[1] Kar-yiu Wong, Economic Integration in Northeast Asia: Challenges and Strategies for South Korea. Korea Economic Institute of America. New Paradigms for Transpacific Collaboration. 2011.

RCEPは日韓初の自由貿易協定である。

その他、まだ発効していないFTA案には、中日韓自由貿易協定（CKJFTA）、北東アジア自由貿易協定（NEA FTA）、北東アジアプラス地域包括経済連携（NEAプラスRCEP）および北東アジアプラスユーラシア経済連合自由貿易協定（NEAプラスEAEU FTA）がある。しかし、こうした国家間メガ協定のほとんどはまだ交渉段階であり、交渉完了とそれに続く批准に至るまでには何年もかかる。さらに、北東アジア地域の経済統合を完全に行うには、有効な自由貿易協定の数が不十分だと思われる。前述したとおり、事実上初の中日韓自由貿易協定は、二国間または三国間協定なのではなく、地域メガ協定である。また、数多くの歴史的・政治的状況が重くのしかかっている。

経済連携を推進する3つ目のメカニズムは政府間対話である。相互の問題を持続的かつ包括的に解決するため、政府高官の対話を利用するというのはよくあるやり方である。ある意味、政府間対話というのは、どの国家間協力においても初期段階にあたる。経済には関係ないが、例えばモンゴルが主導した対話で、朝鮮半島の問題に関する開かれた対話を進めるための「北東アジアの安全保障に関するウランバートル対話」がある。

しかし、これらのメカニズムはいずれも実現までの期間が非常に長く、効果が発揮されていないと思われる。対話の対象となる事案は軽く受け止められるような内容ではないため、上記のメカニズムの実現にはさらに長い期間が必要である。さらに、これらのメカニズムは政治的・経済的に厳しく精査され、潜在能力を十分に発揮することができない。

3．解決策──地域間協力

このように現行のメカニズムが期待に沿った働きをしていない場合、革新的なアプローチが必要となる。このような革新的アプローチの可能性の一つとして、北東アジアの「ボトムアップ型」経済統合がある。本稿で取り上げるボトムアップ型アプローチとは、地域間協力のことを指し、これによって既存の政府間メカニズムの隔たりが埋められ、統合が持つ潜在能力が最大限に引き出されるであろう。ボトムアップ型アプローチは、異なる国家に属する行政単位の間でのあらゆる連携のことを表している。

通常、協力イニシアティブは、国家機関によって政府間レベルで始まり、地域や地方の行政機関は中央政府がつくった道を辿っていく。しかしボトムアップ型アプローチは、地域の行政機関同士が協力し合うことを想定している。たいていの国際協力は中央政府レベルで実施され、大半の国の行政階層組織は別のやり方で動くことを認めていないため、これは容易ではない。一方、地域の行政機関にとっては、国内レベルに限らず国際レベルでもより積極的に意思決定を行うということは、革新的なことである。

経済統合のためのボトムアップ型アプローチは真新しい発想ではない。アジア開発銀行（ADB）と環日本海経済研究所（ERINA）の両者が域内での地域協力を提案していた。例えば、内モンゴル自治区のヒンガン盟地域とモンゴルのドルノド、ヘンティー、スフバートルの東部地方の間の協力についてのADBの報告資料[2]がある。このことは、つまり、さまざまな国の行政組織の協力には大きな可能性があるはずだという考え方を支持するものである。また、これによって政府間協力が廃止されるということもない。ボトムアップ型アプローチの目標は、政府間統合における潜在的な隔たりを埋めることである。

4．モンゴルの事例

モンゴルはボトムアップ型の経済アプローチに関する調査研究を説明するのに適している。まず、モンゴルは北東アジア諸国と国境紛争が無い。2つ目は、モンゴルが他国と協力しても、政治的・歴史的に深刻な影響を及ぼさない。そのため、モンゴルや北東アジア諸国にとって、さまざまなプロジェクトを通じて地方間経済連携を実現することは非常に好ましい。

モンゴル東部に位置するドルノド、ヘンティー、スフバートルの3県は北東アジア地域に最も近い。2019年には、第7回大図們江イニシアチブ北東アジア地方間協力委員会（LCC）会合、第5回地方間協力委員会ロジスティクス小委員会（LSC）会合、第6回地方発展フォーラムなど、数多くのフォーラムがモンゴルのヘンティー県で開催された。このことは地方（地域）連携の道筋がつくられたということを示している。

モンゴルの場合、連携の可能性がある部門としては、観光、鉱業、農業などが挙げられる。モンゴルでは、馬、牛、ラクダ、羊、山羊など6700万頭を使った豊かな伝統的農業が構築されており、国内で大きな役割を果たしている。また、東部には多種多様な鉱物資源がある。現在、そして将来的に最も開発の見込みがあるのは、石炭、亜鉛、石油、ウラン、金、化学工業向け原料塩、および建設資材[3]である。さらに、最東部のドルノド県（県庁所在地：チョイバルサン市）は、発電所や豊富な石油資源を有し、戦略的な役割を果たしている。石油輸出の実現性については、モンゴルとロシア政府間の対話の結果、ロシアの沿海地方に焦点を絞ることもできた。このように、モンゴル東部地域は、農業や鉱業部門でさらに連携していく可能性がますます広がっている。

連携の可能性がある次の部門は、地方間観光である。目に見えて分かる協力の事例としては、ロシア・中国・モンゴルの古代茶街道を観光経路に想定したロ中モ間の「グレート・ティー・ロード」イニシアティブがある[4]。このイニシアティブはボトムアップ型アプローチの考え方に沿って、観光部門における地方間協力を統合している。

2018年のデータによると、パンデミック前にモンゴルを訪れた観光客の数は年間60

[2] Strategic development outline for economic cooperation between the People's Republic of China and Mongolia. Project area: Xinganmeng Prefecture in the Inner Mongolia Autonomous Region of the PCR and the provinces of Dornod, Hentiy, Suhbaatar of Mongolia. Asian Development Bank, 2002.

[3] Erdenechimeg, E., Asralt B., Khurelbaatar, G. Distribution of Mongolian Mineral Resources, Transportation and Logistics Analysis.

[4] V. Mitypov. The Great Tea Road: Problems of Transborder Cooperation. In Tulsiram and Ajay Patnaik, Eurasian Politics. Ideas, Institutions and External Relations. 2013.

万人にのぼる[5]。観光客の国籍の上位は、中国、ロシア、韓国、日本、アメリカ、カザフスタンである。東部地方の観光はハルヒン・ゴル（ハルハ河）やチンギス・ハーンの生誕地であるヘンティー県が中心となっている。ハルヒン・ゴル地区は1939年に戦場となり、旧日本兵やその子孫たちが日本から追悼に訪れている。国境付近にも広大な草原、川、湖などの歴史的な大自然の魅力があり、アンテロープの大群の大移動などが見られる自然豊かな環境となっている。ヘンティー県は北側が山脈に囲まれ、森林におおわれた県で、チンギス・ハーンがこの地で誕生し埋葬されたと信じられている。

かつては、モンゴルへの旅行は、交通手段が限られ、道路インフラも不十分だったため大変であった。しかし、モンゴルの観光インフラはこの10年ではるかに改善された。特に東部では、ドルノド県に稼働中の空港があり、モンゴルの地方都市間をアスファルトの道路が結んでいる。

5. 結　論

北東アジアの政治的・経済的な複雑さから生じる課題は、短期的にはほとんど変わることはない。そのため、現状においても将来的な計画においても、実現可能な短期計画に移行するのが望ましい。

北東アジアの地方間経済回廊は政府間協力の新たな支えとなる可能性がある。各国の地方都市を中心とした経済統合、いわゆるボトムアップ型アプローチは、中央政府が設定した地域の経済発展を促進する方法にもなり得る。また、開発途上国のソフト外交の実例と見なすこともできる。

ボトムアップ型アプローチは、経済統合の既存のメカニズムに存在する隔たりを埋めるための解決策を探るものである。これには地方行政からの経済連携イニシアティブへの積極的な関与が求められる。また、中央政府のサポートが必要であることも否めない。しかし、パンデミックの不安定な状況の中、財源に限りがある国にとって、民間部門からのサポートが大きな役割を果たすだろう。

［英語原稿を ERINA にて翻訳］

[5] Number of inbound passengers in Mongolia. Mongolian National Statistical Committee. 2021. Cit.23/02/2022. Retrieved from: https://metadata.1212.mn/indicatordata.aspx?id=D9Aq3rXR0cWhlm6LKxRrl/uxAzGZGK8/dCyDvGpPO8g=.

＜参考文献＞

Asian Development Bank (2002) *Strategic development outline for economic cooperation between the People's Republic of China and Mongolia. (Project area: Xinganmeng Prefecture in the Inner Mongolia Autonomous Region of the PCR and the provinces of Dornod, Hentiy, Suhbaatar of Mongolia.)*

Asian Development Bank (2018) *Asian Economic Integration Report 2018, Asian Economic Integration Monitor series.*

Erdenechimeg, E., Asralt B., Khurelbaatar, G. "Distribution of Mongolian Mineral Resources, Transportation and Logistics Analysis."

Kar-yiu Wong (2011) "Economic Integration in Northeast Asia: Challenges and Strategies for South Korea. Korea Economic Institute of America," *New Paradigms for Transpacific Collaboration.*

Li Tie (Ed.) (2015) "History and Progress of Tumen River International Cooperation (1995-2015)," Changchun: Jilin Publication Group.

Mitypov, V. (2013) "The Great Tea Road: Problems of Transborder Cooperation," In Tulsiram and Ajay Patnaik, Eurasian Politics. Ideas, Institutions and External Relations.

Mongolian National Statistical Committee (2021) *Number of inbound passengers in Mongolia*. Cit.23/02/2022. Retrieved from: https://metadata.1212.mn/indicatordata.aspx?id=D9Aq3rXR0cWhlm6LKxRrl/uxAzGZGK8/dCyDvGpPO8g=.

Tsuji, Hisako (2004) "The Tumen River Area Development Programme: Its History and Current Status as of 2004," *ERINA Discussion Paper*, No.0404e. Cit.10/02/2022. Retrieved from https://www.erina.or.jp/wp- content/uploads/2014/09/0404e.pdf.

Bottom-up Approach of Economic Integration in Northeast Asia (Summary)

NINJIN Bataa

Researcher, Mongolian Institute of Northeast Asian Security and Strategy (MINASS)

Economic integration is one of the crucial cogs in international relations. Policy pathways are typically shaped by the centralized power through state agencies. And the Northeast Asian region is no exception. Therefore, the bottom-up approach makes real the possibility for provinces of different countries to engage in economic integration without the central power's navigation.

Keywords: economic integration, Northeast Asia, interprovincial cooperation

JEL Classification Codes : F02, H77

中国のTPP加入申請とアジア太平洋

ERINA 調査研究部主任研究員
中島朋義

要　旨

本稿は2021年9月に中国が行った環太平洋経済連携協定（TPP）に対する加入申請について、それに至る経緯とその影響を整理したものである。

TPP は中国の政治、経済両面での台頭の中で、米国のオバマ政権がそれに対応して、アジア太平洋の貿易投資の自由化のルール作りの枠組みとして推進してきたものであった。2017年のトランプ政権の登場によって米国はその枠組みから退出し、日本を中心とする残されたメンバーが再交渉を行い、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）として2018年に発効させた。

米中の対立がさらに深刻化する状況で行われた中国の TPP（CPTPP）に対する加入申請は、単なる米国に対する牽制のみならず、中国が国際的な経済ルールの形成に関与する意図の現れと考えられる。

一方の米国は、国内の保護貿易主義的な政治勢力の台頭で、関税撤廃を含む FTA を政策のツールとして活用することが困難な状況となった。そこで、中国の動きに対抗して2022年にインド太平洋経済枠組み（IPEF）という関税撤廃を伴わない枠組みを提示してきた。

本稿ではこうした現状を踏まえ、米中の対立の狭間にあって、TPP の主導的立場に立つ日本にとり、望ましい選択を展望する。

キーワード：米中対立、TPP、デカップリング、サプライチェーン
JEL Classification Codes: F13, F15

1. TPPの経緯と中国の加入申請

（1）TPP の締結

1997年のアジア通貨危機を経た21世紀初頭、アジア太平洋地域ではASEANを核とする広域の制度的経済統合の構想が議論されていた。その一つはASEAN10カ国に日本、中国、韓国の北東アジア3カ国を加えた東アジア自由貿易協定（EAFTA）であり、もう一つはその13カ国に豪州、ニュージーランド、インドを加えた16カ国による東アジア包括的経済連携（CEPEA）であった。こうした状況で、アジア太平洋おける一方の主要貿易国である米国は、これらに対抗する対東アジア政策を打ち出してきた。それがすなわち環太平洋経済連携協定（TPP）の構想である。

2008年9月、当時のブッシュ政権はシンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイの4カ国による FTA である環太平洋戦略的経済連携協定（Trans-Pacific Strategic Economic Partnership: P4、後の TPP）に参加することを表明した。その後、オバマ政権への移行に伴い、米国の TPP の協議への参加は当初の予定より遅れたが、2010年3月に協議が開始された。その後、2013年8月には日本も交渉に参加し、合計12カ国による交渉が進められた。

2016年2月、参加12カ国によって TPP が調印され、各国の批准を待って発効する段階に至った。しかし、2017年1月、米国大統領に就任したドナルド・トランプは TPP からの離脱を正式に表明した。これによって12カ国による当初の TPP は発効の可能性が無くなった。米国を除く TPP 参加11カ国は11カ国による FTA の発効を目指して協議を開始した。この結果、一部の内容を改定した協定が、2018年3月に環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP または TPP11）として調印された。この協定は同年12月に発効した。

（2）CPTPP 発効後の動き

通商政策上は関税連合である欧州連合（EU）を離脱した英国が、2021年2月に TPP への加入を申請した。英国の加盟交渉はその後順調に進み、2022年2月時点でルール分野の審査完了に目途がついたとの報道がなされている。

一方、2021年9月には中国と台湾がほぼ同時に加入を申請している。このうち、世界第二位の経済規模で、かつ TPP の当初のリーダーであった米国と政治経済的対立関係にある中国の申請は、TPP の現加盟国のみならず、世界に衝撃を与えた。

（3）TPP の特徴と期待される役割

他の FTA と比べた TPP の特徴としては、下記の3点が上げられる。

①物財の貿易の関税撤廃率が既存の FTA に比べて極めて高い。
②国有企業、電子商取引、知的財産権など多くの既存の FTA が含んでいない分野をカバーしている（表2参照）。
③世界第一位（米国）と世界第三位（日本）の経済がメンバーとなるメガ FTA である（12カ国による調印時点では世界 GDP の4割を占めた）。

表1　TPP に関する動き

年	月	事　　項
2010年	3月	P4（シンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイ）に米国、オーストラリア、ペルーが加わった TPP の第一回交渉が開始
	10月	マレーシアが TPP 交渉に参加
	11月	横浜で開催された第18回 APEC 首脳会議において、FTAAP の実現に向け具体的な手段をとることで合意、⑴ EAFTA（ASEAN+3）、⑵ CEPEA（ASEAN+6）、⑶ TPP をそれぞれ FTAAP への道筋として例示
	12月	ベトナムが TPP 交渉に参加
2012年	11月	カナダ及びメキシコが TPP 交渉に参加
2013年	8月	日本が TPP 交渉に参加
2016年	2月	12カ国による TPP 調印
2017年	1月	トランプ米大統領就任、TPP からの離脱を表明
2018年	3月	米国を除く11カ国が「環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）」に調印
	12月	CPTPP 発効
2021年	2月	英国が加入を申請
	6月	英国の加入交渉開始を決定
	9月	中国、台湾が加入を申請
	12月	韓国が加入の意向を表明 エクアドルが加入を申請
2022年	2月	英国のルール分野の審査完了にめど
	6月	コスタリカが加入の意向を表明

出所：各種資料より筆者作成

表2　TPP の構成

第1章. 冒頭規定・一般的定義	第16章. 競争政策
第2章. 内国民待遇及び物品の市場アクセス	第17章. 国有企業及び指定独占企業
第3章. 原産地規則及び原産地手続	第18章. 知的財産
第4章. 繊維及び繊維製品	第19章. 労働
第5章. 税関当局及び貿易円滑化	第20章. 環境
第6章. 貿易救済	第21章. 協力及び能力開発
第7章. 衛生植物検疫（SPS）措置	第22章. 競争力及びビジネスの円滑化
第8章. 貿易の技術的障害（TBT）	第23章. 開発
第9章. 投資	第24章. 中小企業
第10章. 国境を越えるサービスの貿易	第25章. 規制の整合性
第11章. 金融サービス	第26章. 透明性及び腐敗行為の防止
第12章. ビジネス関係者の一時的な入国	第27章. 運用及び制度に関する規定
第13章. 電気通信	第28章. 紛争解決
第14章. 電子商取引	第29章. 例外
第15章. 政府調達	第30章. 最終規定

また、TPP に期待された役割としては以下の2点が上げられる。

一つはアジア太平洋の経済発展の推進力としての役割である。TPP はアジア太平洋経済協力（APEC）において、ASEAN +5（当初はインドを含む ASEAN+6）の FTA である RCEP（地域的な包括的経済連携）と並んで、APEC 全体をカバーする FTA であるアジア太平洋自由貿易圏（FTAAP）を形成する経路の一つと位置づけられている（表1参照）。

もう一つは新たなルール形成の場としての役割である。ドーハ・ラウンドの破綻によって、WTO の貿易・投資の自由化における機能不全が明らかとなった。TPP はこれに代わって新しい分野における自由化のルール作りの場となることが期待されていた。

（4）米中の経済対立と TPP

米中間の経済的対立は、関税引き上げ競争を典型として、トランプ政権下で惹起あるいは深刻化したように理解される場合があるが、経済的なルール形成を巡る争いとしてはそれよりも早い段階で始まっていた。ブッシュ政権以降の米国による TPP の推進は、その対立が米国主導によるアジア太平洋地域の FTA の形成という形で顕在化したものともいえる[1]。

その文脈で言えば、オバマ政権における TPP 合意の達成は、その米国の対中戦略の中間的な到達点であった。その意図は2016年2月の TPP 調印に関するオバマ大統領の声明にも見ることができる。声明には以下の文章が含まれ、アジア太平洋における新たな経済のルール作りについて TPP の場を利用し、中国を排除し自国の主導によって進めようとする米国の意思が明確に表明されていた。

“TPP allows America – and not countries like China – to write the rules of the road in the 21st century, which is especially important in a region as dynamic as the Asia-Pacific.”[2]

（日本語訳）TPP により、中国のような国ではなく、米国が21世紀の道筋のルールを作成できるようになる。これは、アジア太平洋のようにダイナミックな地域においては、特に重要なことである。

2. 中国の TPP 加入への条件

上記のような紆余曲折を経て、米国を除くTPP（CPTPP）は2018年に発効し、2021年に中国が加入申請を行ったわけである。

しかし、様々な分野の自由化において高度な内容を含む TPP に、中国は対応可能なのか疑問が呈されている。以下では、川瀬（2021）、渡邉他（2021）などをもとに、電子商取引、政府調達、国有企業、知的財産権、労働の5つの分野について、中国の TPP 加入に関する障害について整理した。

[1] 中島（2019）を参照。
[2] https://obamawhitehouse.archives.gov/the-press-office/2016/02/03/statement-president-signing-trans-pacific-partnership

(1) 電子商取引

TPP においては電子商取引に関する以下の3つの自由を規定している。

①情報の越境移動の自由
②データの保存されたサーバーの自国内設置強制の禁止
③ソースコード開示要求の禁止

これに対して中国の現行法制は①と②を満たしていない。また③についても開示を要求した事例が報告されている。また、中国が加入しているメガ FTA である RCEP においても、①と②は安全保障理由で自由化の例外とされている。したがって、この分野で中国が TPP の規定を満たすには国内制度の改正が必要とされよう。

(2) 政府調達

TPP は WTO ルールに準じて、中央政府、地方政府、公共企業体等の調達の自由化を義務付けている。しかし中国は WTO の政府調達協定に未加入である。また RCEP でも政府調達の開放は規定されていない。

さらに、2021年5月には医療機器など315品目の政府調達について、国産品の優先を指示している。

したがってこの分野においても、現行の制度のままでは、中国が TPP に加入することは困難と思われる。

(3) 国有企業

TPP はその先進的な特徴の一つとして、国有企業について独立した章を設けている。政府による優遇禁止を明記し、外国企業、民間企業との競争の公平性を維持することを義務付けている。

社会主義計画経済から出発した中国の国有企業の経済全体に占める割合は大きい。業種で見ても製鉄、石油化学、金融など主要産業を網羅し、世界的な大企業も多く含まれる。また、政府の経営への影響力、保護の度合いは大きい。こうした状況を解消し TPP の基準を満たすには多大な努力が必要と予想される。

さらに残る問題としては、共産党の政治的指導が高い優先順位を持つ中国において、企業内の共産党組織の影響力は政府と企業の関係に影響を与えると考えられる。また、中国では、中央政府の支配下にある国有企業の他に、地方政府系の企業も多く存在している。これらも加入交渉の過程で問題視される可能性はある。

(4) 知的財産

TPP は WTO を上回る知的財産保護の内容を持っている。その具体的な内容としては下記の諸点が上げられる。

①音声、ホログラムなどの新たな種類の商標保護
②医薬品の試験データ、生物製剤特許などの保護
③特許権、著作権の期間延長

一方で中国は WTO における合意内容についても実際の執行に問題を指摘されている。この分野での TPP への対応は困難が予想される。

(5) 労働

TPP では団体交渉権を保証し、強制労働、児童労働を禁止しているが、中国は団体交渉権及び強制労働に関する ILO 条約に批准していない。中国では共産党の指導下にある労働組合のみが許可されており、組合結成の自由が認められていない。

また、中国は西側諸国から新疆ウイグル自治区の強制労働問題などで批判を浴びている。従って、労働分野における中国の TPP への対応は著しく困難とみられる。

以上、取り上げた五つの分野においていずれも、中国が TPP 加入に向けて克服しなければならない課題はかなり大きいと言える。

3. 中国の TPP 加入申請の目的

前述のように計画経済の残滓を残す中国は、現行制度のままでは多くの分野で TPP 加入の条件を満たすことが困難と見られている。しかし一方で、中国政府は以前から対外的に TPP 加入に積極的な姿勢を見せてきた。渡邉他（2021）によると、2020年5月29日 、李 克 強 は2020年度全国人民代表大会の政府工作報告のあとの総理記者会見において、朝日新聞の質問に対して、「中国は、CPTPP 参加に関してオープンで積極的な態度を維持している」と回答している。また、2020年11月20日、アジア太平洋経済協力（APEC）首脳会議の席上で習近平が「CPTPP への加入を積極的に考慮する」と述べ、関心を示している。

なぜ中国はこうした姿勢を取り続け、最終的に2021年というタイミングで加入申請を行ったのであろうか。中国の加入申請が真摯に TPP を目指したものであるか否かによって、その理由は異なってくると考えられる。

中国の加入申請が TPP への加入を真摯に目指したものである場合、加入の理由は以下の2つに整理されよう。

①貿易・投資の自由化による国内経済改革の推進
②国際的な経済取引のルール作りへの関与、それによる国際的影響力の拡大

①は TPP 加入を契機として国有企業改革等の国内経済改革を実現しようとする考え方であり、FTA が本来持つ経済的機能に着目したものと言える。中国政府の中で市場経済を志向した経済改革に積極的な勢力が、こうした政策を選択することは、ある程度合理性を持って説明できるだろう。②については後述する。

次に、中国が必ずしも最終的な TPP 加入を目指していない場合、申請の理由は下記のようなものが考えられる。

③日米など中国に対抗する経済ブロックの形成の阻止
④ほぼ同時に申請を行った台湾の TPP 加入の阻止

③は仮に最終的な加入が実現しなくても、現在の TPP で中心的な枠割を担っている米国の同盟国である日本に対して圧力を加え、TPP の外にいる米国の影響力をけん制しようというものである。④は文字通り台湾が TPP に加入して経済的な利益を得ること、また国際的な認知度を高めることを妨害するために、自国も加入申請を行ったとするものである。即ちこの両

方の場合は、中国は必ずしも真摯に TPP への加入を望んではおらず、日米や台湾の意図を挫く目的で加入申請を行っているという説明である。米中の政治経済両面での激しい対立を背景として、日本のメディアではこうした説明が散見された[3]。

一方、②に考え方を支持する分析もある。その代表的なものが渡邉他（2021）である。渡邉他（2021）は上記した中国政府首脳の TPP 加入への積極的な姿勢の背景には、中国の対外政策における「制度性話語権」という概念の登場があるとしている。「制度性話語権」とは中国政府による英訳では「Institutional Discourse Power」とされ、さらに渡邉他（2021）では「制度に埋め込まれたディスコースパワー」と日本語に置き換えられている。その意味するところは、国際的な政治経済のルール形成、制度形成に関与することによって得られる発言力となろう。

渡邉他（2021）によれば、「制度性話語権」が中国政府の公式文書で確認できるのは、2015年11月の『国民経済と国民社会発展第13次五カ年計画の建議』が最初で、「グローバルな経済ガバナンスと公共財供給に積極的に参加し、グローバル経済ガバナンスにおけるわが国の「制度に埋め込まれたディスコースパワー」を高め、幅広い利益共同体を構築する」と記されている。こうした概念は、アジアインフラ投資銀行（AIIB）などの中国主導の国際機関の設立・運営や、WTO におけるルール形成への積極的関与などの形で中国の対外政策に影響を与えており、TPP への加入申請もその一環と考えられるとしている。

この見方に妥当性があるとすれば、中国の TPP 加入申請は理由の③に代表されるような、単純な米国への対抗意識の産物ではなく、中国の中長期的な世界戦略の中で、合理性、整合性を備えた選択と位置付けられよう。

4. バイデン政権のアジア太平洋通商政策

米国では2021年1月に TPP から脱退したトランプ政権に代わり、民主党のオバマ政権の副大統領であったバイデン大統領の政権が発足した。しかしオバマ政権期に比べ保護主義的な民主党左派の影響力は高まっており、新政権は TPP への復帰の選択を否定した。さらに、同年7月には、米国の制度において、議会から行政府に委任される、FTA の締結に必要な貿易交渉権限（TPA）が失効した。しかしバイデン政権は、議会に対しこれを再度発出する働きかけを行っていない。保護主義派の反対で難航が予想される政治事項に、限られた政治リソースを割く意思はないものと見られる。こうした中、同年9月に中国の TPP 加入申請が行われたわけである。

この中国の動きに対応する形で、同年10月、バイデン大統領は東アジアサミットにおいて、米国のアジア太平洋での経済外交の新たな手段となるインド太平洋経済枠組み（IPEF）に言及した。2022年2月には安全保障分野を含む外交の指針として「インド太平洋戦略」を発表、その中で IPEF の立ち上げを表明した。

同年2月24日にはロシアによるウクライナ侵攻が開始され、ロシアに対する経済制裁を実行する米国、EUなどの西側諸国と、ロシアを支持する中国との間で緊張が高まった。

こうした中、同年5月の米 ASEAN 首脳会議、さらに米韓、日米の首脳会談を経て IPEF の発足が発表された。その内容は（表3）のとおりとなっている。

組織の性格としては、TPP、RCEP などアジア太平洋地域のメガ FTA に入らない米国が、中国への経済上の対抗の為に各国に呼び掛けた枠組みということになる。IPEF は FTA ではなく関税撤廃による貿易自由化を含んでいない。

2022年5月現在の参加国は、米国、インド、日本、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、韓国、タイ、フィリピン、フィジーの14カ国で、当初の参加国数では予想を上回ったとされている。また、インドネシア、タイなど TPP に非加盟の ASEAN 主要国も参加しており、この点は東南アジアに対する米国の経済外交の努力の結果という見方も出ている。

しかしその内容では、貿易、供給網、インフラ・脱炭素、税・反汚職の4本柱についてルール作り、協力を行っていくとしているが、発展途上国の視点から見れば米国市場での関税撤廃等のメリットがない中で、どれだけ実効性のあるルール作りが可能かは疑問が残る。

表3　インド太平洋経済枠組み（IPEF）の概要

参加国	米国、インド、日本、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア、韓国、タイ、フィリピン、フィジーの14カ国（2022年5月現在）	
枠組みの性格	TPP、RCEP などアジア太平洋地域のメガ FTA に入らない米国が、中国への経済上の対抗の為に各国に呼び掛けた枠組み FTA ではなく関税撤廃による貿易自由化を含んでいない	
内容（4本柱）	貿易	デジタル貿易、労働者・環境保護のルール作り
	供給網	在庫や生産能力など情報を共有 有事に協力して対処
	インフラ・脱炭素	新興国のインフラ開発に低利融資 温暖化ガス排出削減への技術開発
	税・反汚職	税逃れや汚職を防ぐためのルール作り

出所：各種資料より筆者作成

[3]「中国が放ったくせ球　TPP加盟申請、日米分断の思惑も」日本経済新聞電子版、2021年9月17日、https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA1765G0X-10C21A9000000/

5. TPP に関する日本の望ましい選択

以下では本稿で紹介した中国の TPP 加入申請を巡る動きを前提に、TPP の今後に日本の望ましい選択について整理したい。

まず根本として、WTO の機能不全の中で、TPP は引き続きアジア太平洋地域、さらには世界全体の貿易・投資の自由化の今後の方向性を指し示す FTA であり、その水準を下げてはならないと考える。

米国の TPP 復帰は望ましいが、米国の国内事情は当面それを許さないと考え、慎重に行動すべきであろう。貿易投資の自由化としては不十分な内容ではあるが米国が進める IPEF への協力などを通じて、米国の TPP 復帰への環境を整備していくべきであろう。一方で、英国のように高水準の自由化を目指すパートナー（台湾、韓国等が考えられる）は積極的に迎え入れ TPP の拡大を図るべきであろう。

中国の加入交渉については、中国が現在の TPP の水準を満たし真摯に自由化を推進するのであれば、他の加入希望国と同様に取り扱うべきである。仮に、中国の加入希望が現在の TPP の水準を満たすつもりのない、形式的なものであるならば、条件を満たさないことをもって粛々と加入を拒否または棚上げすれば良いと考える。

中国が TPP 加入にあたって自由化を約束しても、これを実行しない可能性を懸念する意見もある。これに対しては TPP に合意の履行を義務付ける新たなルールを加えることも考えられる。

また関連して、本稿で紹介したように、中国が TPP 加入を通じて、国際的な経済ルール形成に参画する意図があるとしても、目指す方向性が TPP の理念と合致するものであれば、中国を排除する理由にはならないと考える。

＜参考文献＞

川瀬剛志（2021）「「ルール」から見た中台のTPP加入へのハードル」東洋経済ONLINE 、2021/09/30、https://toyokeizai.net/articles/-/459107
中島朋義（2019）「米中経済摩擦とTPP」『ERINA REPORT（PLUS）』151号、環日本海経済研究所
渡邉真理子・加茂具樹・川島富士雄・川瀬剛志（2021）「中国のCPTPP参加意思表明の背景に関する考察」RIETI Policy Discussion Paper Series 21-P-016、経済産業研究所

China's Application for TPP and the Asia-Pacific (Summary)

NAKAJIMA Tomoyoshi
Senior Research Fellow, Research Division, ERINA

This paper summarizes the circumstances and impacts of China's application for membership in the Trans-Pacific Partnership (TPP) in September 2021.

The TPP was promoted by the Obama administration in the United States as a framework for creating rules for liberalization of trade and investment in the Asia-Pacific in response to the China's political and economic rise. With the advent of the Trump administration in 2017, the United States left the framework, with the remaining members centered around Japan renegotiating and entering into force in 2018 as the Comprehensive and Progressive Agreement for Trans-Pacific Partnership (CPTPP).

China's application for TPP (CPTPP), which was made in a situation where the conflict between the United States and China had become more serious, is not merely a check on the United States, but China intends to be involved in the formation of international economic rules.

On the other hand, the rise of domestic protectionist political forces in the United States has made it difficult to utilize FTAs, including tariff elimination, as a policy tool. Therefore, in 2022, the United States has proposed the Indo-Pacific Economic Framework (IPEF), a framework that does not involve the elimination of tariffs, in response to China's move.

Based on this situation, this paper looks at a desirable choice for Japan, which is in the leading position of the TPP in the midst of the conflict between the United States and China.

Keywords: US-China conflict, TPP, decoupling, supply chain
JEL Classification Codes： F13, F15

中国西部地域のデジタル金融包摂・産業構造のアップグレードと経済の高品質成長についての研究

延辺大学経済管理学院副教授・ERINA 共同研究員　**李聖華**
延辺大学経済管理学院修士課程　**張栄**

要　旨

中国経済は、ニューノーマルに入り、経済の成長速度を重視する時代から、その質を重視する時代へと移り変わりつつある。中国共産党第19期中央委員会第6回全体会議では、(1) 中国経済の成長の速度がシフトチェンジの時期にあたり、(2) 構造調整が困難な時期であり、(3) 初期の刺激政策が効を奏していない時期であるという「三つの時期が重なっている」複雑な状況に直面していると指摘した。そして、同会議では、伝統的な成長モデルの継続が難しいなか、経済の高品質な成長を推進し、現代的な産業システムの発展を加速化し、実体経済を盛り上げて、デジタル経済を発展させる必要があると指摘された。

現代の情報技術と伝統的な金融包摂が合体したデジタル金融包摂は、その広範囲なサービスと豊富な取引形式により、金融サービスの効率と公平性のレベルを上げ、科学技術のイノベーション推進と住民の消費を推進するなどの面で重要な役割を果たしている。これまでの研究によれば、デジタル金融包摂は技術革新によって産業構造のアップグレードと経済成長を加速化し、全要素生産性を上げられることが明らかになっている。しかし、研究ではまた、各地の産業構造、公共インフラや資源賦存の優位性などの差により、デジタル金融包摂がそれぞれの地域の経済成長の質に与える促進作用に差があるということも明らかにしている。

本研究は、全体的に経済が相対的に遅れている西部地域において、デジタル金融包摂はその経済の高品質な成長を推進することができるかどうか、各地域間に差異性はあるのかを明らかにすることを目的とした。本研究では先行研究を参考に、産業構造のアップグレードを媒介変数とし、西部の86カ所の地級市を選んで実証的にデジタル金融包摂、産業構造のアップグレード、経済の高品質な成長の関係について分析した。

その結果得られた結論は、第一に、西部地域のデジタル金融包摂は経済の高品質な成長に有意に正の効果があり、さらに、デジタル金融包摂は産業構造の高度化を媒介変数として西部地域の経済成長を強化する役割を果たしている。第二に、西部地域は他地域と産業構造の基礎が異なり、デジタル金融包摂の経済成長への促進作用にも差異があった。第三に、本稿ではパネルで閾値回帰モデルを用いて、デジタル金融包摂を閾値変数として、両者のあいだの非線形的関係を検討した。その結果、デジタル金融包摂の発展レベルが高ければ高いほど、デジタル金融包括が西部地域の経済成長を促進する作用が顕著である。

以上の実証研究の結論にもとづき、本稿では以下の提言をする。

(1) 伝統的な金融機関のデジタル化を推進し、デジタル金融包摂のシステムを整備する必要がある。(2) デジタル金融包摂が産業構造のアップグレードのなかでより大きな役割を果たせるようにするために、新興産業、小型・零細企業、国家が重点的に支援する産業を重点的に支援すべきである。(3) 西部地域間の産業は構造的に均衡を欠いているので、資源の合理的な流動と最適な配置を促進し、産業構造の高度化を促進する必要がある。

キーワード：デジタル金融包摂、産業構造、地方経済、西部地域
JEL Classification Codes: G20, O18, P25

1. はじめに

経済成長がニューノーマルに入り、「カーボンピークアウト」や「カーボンニュートラル」の目標を実現するため、経済は高速成長から高品質な成長の段階に転換している。第十九期六中全会では、成長の速度がシフトチェンジ時期、構造調整が困難な時期、そして初期の刺激政策が効を奏していない時期という「三つの時期が重なっている」複雑な状況に直面しており、伝統的な成長モデルの継続が難しく、経済の高品質な成長を推進し、現代的な産業システムの発展を加速化し、実体経済を盛り上げて、デジタル経済を発展させる必要があると指摘された。現代の情報技術と伝統的な金融包摂が合体したデジタル金融包摂は、その広範囲なサービスと豊富な取引形式により、金融サービスの効率と公平性のレベルを上げ、科学技術のイノベーション推進と住民の消費を推進するなどの面で重要な役割を果たしている。ビッグデータ、人工知能やクラウドコンピューティングなどの新興技術に基づいたデジタル金

融包摂は、資産配分を最適化することにより、産業構造の調整を進め、経済の高品質な成長を推進している[1]。これまでの研究によれば、デジタル金融包摂は技術革新によって産業構造のアップグレードと経済成長を加速化し、全要素生産性を上げられることが明らかになっている。しかし、研究ではまた、各地の産業構造、公共インフラやもとからある資源の優位性などの差により、デジタル金融包摂がそれぞれの地域の経済成長の質に与える促進作用に差があるということも明らかにしている。それならば、全体的に経済が相対的に遅れている西部地域において、デジタル金融包摂はその経済の高品質な成長を推進することができるかどうか、各地域間に差異性はあるのか、以上のことは経済成長しているなかで、解決がまたれる研究課題のひとつである。

デジタル金融包摂、産業構造のアップグレード、経済の高品質な成長に関する研究はおおよそ以下のとおりである。まずデジタル金融包摂について。（1）デジタル金融包摂と産業構造アップグレードの研究は以下がある。杜金岷・韋施威（2020）[2]はデジタル金融包摂が産業構造の最適化を促し、合理化・高度化および産業内部の合理的な変化に貢献が大きいことを明らかにしている。孫倩・徐璋勇（2021）[3]は県レベルの先天的な優位性から出発し、デジタル金融包摂は非貧困県の産業構造のアップグレードを促進するが、相対的に貧困な県への効果は明確でないことを発見した。葛和平・張立（2021）[4]は動態パネルの閾値モデル（threshold model）を採用し、デジタル金融包摂と産業構造の間に非線形的な関係、閾値効果および地域差異があることを明らかにした。（2）デジタル金融包摂と経済の高品質な成長についての研究は以下がある。多くの学者はデジタル金融包摂が経済の高品質な成長への直接的な影響あるいはイノベーションの観点から研究しており、産業構造の媒介効果を考慮したものは少ない。蔣長流・成涛（2020）[5]はイノベーション駆動の観点から、258都市のデータを使って、デジタル金融包摂が経済の高品質な成長に対して勢いを与える内在的なメカニズムを探究した。楊艶芳・詹俊岩（2021）[6]らは30省の8年間のデータを使って、デジタル金融包摂が経済の高品質な成長を促進すると同時に、地域的な差異があることを明らかにした。賀健・張紅梅（2020）[7]はGMMと閾値効果の検定に基づいて、デジタル金融包摂が経済成長にプラスの効果をもたらすこと、地域的な差異および単一閾値効果があることを発見した。（3）デジタル金融包摂に関係する研究は以下がある。任海軍・王芸璇（2021）[8]はDEAモデルを用いて、西部のデジタル金融包摂の効率と影響する要素を研究している。汪克亮・趙斌（2021）[9]はデジタル金融包摂がエネルギー効率を上げていることを検討した。田霖・張園園（2021）[10]らはデジタル金融包摂と農村振興の関係を検討し、農村振興のレベルの向上にプラスの効果があることを明らかにした。

産業構造のアップグレードの研究は以下のとおりである。産業構造アップグレードの研究について、多くはある一つの影響要素から研究を進め、産業構造だけを研究することが少ない。胡艶・王芸源ら（2021）[11]はデジタル経済の産業構造アップグレードに対する影響について研究をしている。茶洪旺・左鵬飛（2017）[12]は情報化の産業構造への影響を検討している。また、産業構造アップグレードが経済成長と収入の格差に与える影響について研究している学者もいる。周国富・陳菡彬（2021）[13]は閾値効果分析によって、産業構造のアップグレードと都市と農村の収入格差のあいだに非線形の関係と二重閾値効果があることを発見した。何維達・付瑶ら（2020）[14]は合理化・高度化から産業構造アップグレードを計測し、産業構造のアップグレードは経済成長にプラスの影響があると明らかにした。

経済の高品質な成長についての研究は次のとおりで、おおよそ以下のいくつかの方向性がある。第一は測定指標の研究である。茶洪旺・左鵬飛（2017）[15]は新発展理念を基本的な次元とし、高品質の経済成長の指標を構築した。姜松・周鑫悦（2021）[16]は基本面と社会面の2つの方向からの6つの指標から、経済の高品質の成長の指標を構築した。第二は、定義の研究である。田秋生（2018）[17]は高品質の成長とはより多くの福利効果を生み出し、GDPの内容がより豊富で、さらなる低コストと高効率、よりハイレベルな形態、より協調的かつ着実で持続可能な成長であると認識している。金碚（2018）[18]は高品質な成長の本質的な特徴は、系統的に成長の優位性を創造し、実際と合致し特色のある道を歩み、各種有効で持続可

[1] 張慶君・黄玲「数字普恵金融、産業結構与経済高質量発展」『江漢論壇』2021（10）、41～51頁。
[2] 杜金岷・韋施威・呉文洋「数字普恵金融促進了産業結構優化嗎?」『経済社会体制比較』2020（06）、38～49頁。
[3] 孫倩・徐璋勇「数字普恵金融、県域稟賦与産業結構昇級」『統計与決策』2021、37（18）、140～144頁。
[4] 葛和平・張立「数字普恵金融発展対産業結構昇級的影響」『財会月刊』2021（9）、135～141頁。
[5] 蔣長流・江成涛「数字普恵金融能否促進地区経済高質量発展?—基於258城市的経験証拠」『湖南科技大学学報（社会科学版）』2020、23（03）、75～84頁。
[6] 楊艶芳・詹俊岩・胡艶君「数字普恵金融対経済高質量発展的地区差異影響研究」『科技促進発展』2021、17（05）、838～845頁。
[7] 賀健・張紅梅「数字普恵金融対経済高質量発展的地区差異影響研究—基於系統GMM及門檻効応的検験」『金融理論与実践』2020（07）、26～32頁。
[8] 任海軍・王芸璇「郷村振興戦略下的西部数字普恵金融効率測度及影響因素研究」『蘭州大学学報（社会科学版）』2021、49（05）、40～48頁。
[9] 汪克亮・趙斌「『双碳』目標背景下数字金融対能源効率的影響研究」『南方金融』1-13（2021年11月23日）
[10] 田霖・張園園・張仕傑「数字普恵金融対郷村振興的動態影響研究—基於系統GMM及門檻効応的検験」『重慶大学学報（社会科学版）』1-14（2021年11月23日）
[11] 胡艶・王芸源・唐睿「数字経済対産業結構昇級的影響」『統計与決策』2021（17）、15～19頁。
[12] 茶洪旺・左鵬飛「信息化対中国産業結構昇級影響分析—基於省級面板数據的空間計量研究」『経済評論』2017（01）、80～89頁。
[13] 周国富・陳菡彬「産業結構昇級対城郷収入差距的門檻効応分析」『統計研究』2021、38（02）、15～28頁。
[14] 何維達・付瑶・陳琴「産業結構変遷対経済増長質量的影響」『統計与決策』2020、36（19）、101～105頁。
[15] 注12と同じ。
[16] 姜松・周鑫悦「数字普恵金融対経済高質量発展的影響研究」『金融論壇』2021、26（08）、39～49頁。
[17] 田秋生「高質量発展的理論内涵和実践要求」『山東大学学報（哲学社会科学版）』2018、（06）、1～8頁。
[18] 金碚「関於『高質量発展』的経済学研究」『中国工業経済』2018、（04）、5～18頁。

能な方式で国民が絶えず成長する多方面の要求を満たすことであるとしている。第三は、ルート考察の研究である。張軍拡・侯永志ら（2019）[19]は高品質な成長への転換の鍵は、これに適応し、相互にマッチする体制メカニズムを速やかに形成することであるとしている。茹少峰・魏博陽ら（2018）[20]は経済の高品質な成長を促進するには、全要素生産性を引き上げなければならず、そこへ至る道は技術変革を核心として、生産要素の技術効率と規模の効率を上げることとする。

先行研究の整理を通じ、デジタル金融包摂と経済の高品質な成長が関係する研究が比較的豊富で、理論的にその定義をし、測定指標を選択するだけでなく、実証的な角度からも検証を進めている。ただし多くは全体的な研究であり、地域を絞った研究は少ない。本稿では先行研究を参考に、産業構造のアップグレードを媒介変数とし、西部の86カ所の地級市を選んで実証的にデジタル金融包摂、産業構造のアップグレード、経済の高品質な成長の関係について分析する。

2. 理論の分析と研究仮説

経済の高品質な成長のマクロ目標は国民経済の全体的な質の向上と、産業の共同発展と産業構造の「低レベル」から「高レベル」への転換促進を実現し、国民の豊かな生活への要求を満たすことである[21]。それは基本面と社会面をカバーする。基本面は、経済成長の強度・安定性・合理化と外向化がその主な内容である。社会面は、生態資本と人的資本がその重要な表現である[22]。ビッグデータ、クラウドコンピューティング、人工知能などの科学技術により活性化した金融包摂は、金融規模の総量を拡大し、経済の強度をあげ、高品質な成長の総量条件を確固としたものとしている。デジタル金融包摂はその技術に依拠して「金融排除」の問題を緩和し、金融供給サービスの効率をあげ、経済の安定的な成長を維持し、経済の高品質な成長のために動力を提供している。デジタル金融包摂はネットワーク技術に依拠して、時空・空間を超えた価値交換をなりたたせ、資源配置を最適化し、経済の合理的な発展を促進して、高品質な経済成長のために基礎的な条件をつくっている[23]。デジタル金融包摂はまた金融市場の開放と協力を加速し、国際貿易と投資を推進し、高品質な成長の外部条件をつき固めている。同時に、デジタル金融包摂は人的資本のレベルをあげ、生態環境を改善し、高品質な成長のために内的な条件や持続条件を提供している。以上の分析に基づき、次の仮説1を提起する。

H1:デジタル金融包摂は西部地域経済の高品質な成長を促進する

デジタル金融包摂は現代の情報技術に依拠しており、情報の透明度と伝達度の向上を通じて、産業資金の需要を調節し、資金の流れを新興産業・イノベーション産業に導き、資金使用の最適化をして、産業構造転換を担保している。技術発展にともない、デジタル金融包摂の包摂度はさらに明確となり、中小企業のイノベーションへの資金支援を増やし、技術革新を促進し、それによって伝統的なエネルギー消費が多い粗放型の産業から効率高く、省エネかつ環境に配慮した新興産業への転換を進めている。同時にデジタル金融包摂の効率の高さは取引コストを低減し、資源配置の効率をあげ、経済成長の協調性を向上させる。したがって、仮説2を次のように提起する。

H2:デジタル金融包摂は産業構造のアップグレードを推進し、さらに経済の高品質な成長を進めることができる。

3. モデル設定と変数の選定

3.1. モデル設定

（1）モデル設定

以上の分析に基づいて、デジタル金融包摂の発展レベル（LINDEX）の経済の高品質な成長に対する影響を検討するために、以下の基本モデルを設定して分析を進める。

$$DEVELOP_{it} = \beta_0 + \beta_1 LINDEX_{it} + \sum control + \mu_i + \varepsilon_{it} \quad (1)$$

このなかで、$DEVELOP_{it}$ は経済の高品質な成長をあらわし、具体的には基本面（base）と社会面（social）を含む。$LINDEX_{it}$ はデジタル金融包摂の発展レベルをあらわし、三つの次元を含む。すなわち、カバー度（coverage）、使用深度（usage）とデジタル化の度合い（digit）である。$\sum control$ はコントロール変数を表し、資本生産性（capital）、経済成長率（growth）と投資効率（invest）を含んでいる。μ_i は地域個体の固定効果をあらわし、ε_{it} は誤差項をあらわしている。

（2）媒介効果モデル

デジタル金融包摂は「下から上へ」影響をもたらす制度革新であり[24]、住民消費と関連するプロダクト体系とビジネスモデルの豊富さが有効に消費を刺激し、消費構造を最適化し、それによって産業構造のアップグレードを促進し、経済の高品質な成長を推進することができる。したがって、デジタル金融包摂の経済の高品質な成長への影響は産業構造アップグレードを媒介効果とする伝導メカニズムが存在する可能性がある。よって、本稿では、焦帥涛・孫秋碧（2021）[25]の方法を参考に、産業構造発展の状況（IND）をはかる高度化（Adv）と合理化（TL）をメカニズム変数として選定し、以下の媒介効果検定のモデルを構築する。

$$IND_{it} = \gamma_0 + \gamma_1 LINDEX_{it} + \sum control + \mu_i + \varepsilon_{it} \quad (2)$$

$$DEVELOP_{it} = \partial_0 + \partial_1 LINDEX_{it} + \partial_2 IND_{it} + \sum control + \mu_i + \varepsilon_{it} \quad (3)$$

[19] 張軍拡・侯永志・劉培林・何建武・卓賢「高質量発展的目標要求和戦略路径」『管理世界』2019、35（07）、1～7頁。
[20] 茹少峰・魏博陽・劉家旗「以効率変革為核心的我国経済高質量発展的実現路径」『陝西師範大学学報（哲学社会科学版）』2018、47（03）、114～125頁。
[21] 馬驥・湯小銀「産業集群網絡、結構演化与協同発展―以葉集木竹産業為例」『安徽師範大学学報（人文社会科学版）』2019、47（04）、111～121頁。
[22] 注16と同じ。
[23] 唐文進・李爽・陶雲清「数字普恵金融発展与産業結構昇級―来自283個城市的経験証據」『広東財経大学学報』2019、34（06）、35～49頁。
[24] 注16と同じ。
[25] 焦帥涛・孫秋碧「我国数字経済発展対産業結構昇級的影響研究」『工業技術経済』2021、40（05）、146～154頁。

このうち、IND_{it} は産業構造発展の状況を表し、産業の高度化（Adv）と合理化（TL）を含んでいる。（2）式はデジタル金融包摂の発展（LINDEX）の媒介変数・産業構造発展状況（IND）に対する回帰方程式で、（3）はデジタル金融包摂の発展（LINDEX）と産業構造発展状況（IND）の経済の高品質な成長（DEVELOP）に対する回帰方程式である。もし、γ_1、∂_1、∂_2がそれぞれ有意であれば、地域のイノベーションの媒介効果があるということになる。

3.2. 変数選定と元データ

（1）被説明変数。被説明変数は経済の高品質成長（DEVELOP）である。国内には多くの計測方法がある。主観評価法（専門家による評価）と階層分析法（主成分分析、エントロピーウエイト法、TOPSIS 法）である。データの取得可能性と操作可能性を考慮し、本稿では姜松・周鑫悦（2021）[26]の方法を参考にして、基本面と社会面の二つの次元から出発し、具体的に表1の示したような指標を選定し、算術平均法を用いて計算する。その計算方法は下記のとおりである。

経済の高品質成長（DEVELOP）＝
0.5×基本面 +0.5×社会面　（4）

基本面=0.25×強度+0.25×
安定性+0.25×合理化+0.25×外向化
（5）

社会面 =0.5×人的資本 +
0.5×生態資本　（6）

（2）核心説明変数。デジタル金融包摂発展レベル（LINDEX）。データは北京大学デジタル金融研究センターのものを使用する。デジタルのカバー度（coverage）、使用深度（usage）とデジタル化程度（digit）の三つの方面を含む。

（3）媒介変数。媒介変数は産業構造の発展状況（IND）。産業構造の高度化（Adv）と産業構造合理化（TL）を含み、高度化（Adv）は李治国・車帥ら（2021）[27]の方法を参照し、合理化（TL）はタイル指数（Theil index）を用いる。計算方法は下記のとおりである。

$$\mathrm{Adv} = \sum \left(\frac{Y_i}{Y}\right) \times i, i = 1,2,3 \qquad (7)$$

$$\mathrm{TL} = \sum_{i=1}^{n} \left(\frac{Y_i}{Y}\right) LN \left(\frac{Y_i}{L_i} / \frac{Y}{L}\right) \qquad (8)$$

このうち、Yi は各地域の三次産業がGDP に占める割合であり、i は1、2、3で、それぞれ第一次、第二次、第三次産業をあらわす。産業構造の高度化係数計算で得た値は［1, 3］の間であり、3に近ければ近いほど、産業構造の高度化の程度が進んでいるということである。Y_i は異なる産業の生産額を表しており、L_i は異なる産業の労働力人数をあらわしている。経済が均衡状態のとき、TL =0であり、経済が不均衡のとき、すなわち産業構造が不合理なときは、TL は0と等しくない。

（4）コントロール変数。デジタル金融包摂の発展レベルが西部地域経済の高品質な成長に与える影響をさらに検討するために、以下のコントロール変数を組み入れる。（1）経済成長率（growth）：経済の高品質な成長は一定の経済成長率を含んでいるので、一期のタイムラグを取った地域の経済成長率で計測する。（2）資本生産性（capital）：社会投資の増加は経済成長を促すため、全社会の固定資産投資総額に占める地域生産額で計測する。（3）投資効率（invest）：投資効率は資源の配置を最適化し、産業構造や経済の高品質な成長に影響を与えるため、金融組織の貸付余額に占める域内総生産で計測する。

表1　変数測定指標および具体的な数値化

変数	第一段階指標	第二段階指標	具体的な数値化
被説明変数（DEVELOP）	基本面（base）	強度（In） 安定性（St） 合理化（Ra） 外向化（Fo）	1人あたりの域内総生産 1人あたりの域内総生産移動平均標準偏差 第二・第三次産業付加価値の総和／第一次産業付加価値 外商投資実際使用額/域内総生産
	社会面（social）	人的資本（HC） 生態資本（EC）	高等教育機関在校生／総人口 工業二酸化硫黄／域内総生産
説明変数（LINDEX）	デジタル金融包摂発展指数（LINDEX）	カバー範囲（coverage） 使用深度（usage） デジタル化程度（digit）	北京大学デジタル金融包摂指数（2011-2019年）
媒介変数（IND）	産業構造発展（IND）	産業構造高度化（Adv）	$\mathrm{Adv} = \sum \left(\frac{Y_i}{Y}\right) \times i, i = 1,2,3$
		産業構造合理化（TL）	$\mathrm{TL} = \sum_{i=1}^{n} \left(\frac{Y_i}{Y}\right) LN \left(\frac{Y_i}{L_i} / \frac{Y}{L}\right)$
コントロール変数（control）	経済成長率（growth） 資本生産性（capital） 投資効率（invest）		一期のタイムラグを取った地域の経済成長率で計測 域内総生産／全社会固定資産投資総額 域内総生産／金融組織貸付金余額

[26] 注16と同じ。
[27] 李治国・車帥・王傑「数字経済発展与産業結構転型昇級―基於中国275個城市的異質性検験」『広東財経大学学報』2021（05）、27～40頁（2021年10月5日）。

（5）元データと説明：本稿では貴州・雲南・広西・四川・陝西・甘粛・寧夏・青海・チベット（ラサ）・新疆・内モンゴルなどの西部地域（省・自治区）地級市の2011～2019年のデータを使い、重慶市およびデータが欠如している地級市を除き、最終的に86カ所の地級市のパネルデータを使って実証分析をおこなった。データは国研網（国務院発展研究センター情報ネットワーク）、『中国城市（都市）統計年鑑』、『中国統計年鑑』による。ラサの外商投資使用額は社会固定投資表示を採用し、指標は対数での表示を採用し（成長率を除く）、GDP および産業生産額は実際値を採用し、デジタル金融包摂発展指数は北京大学デジタル包摂研究センターによる。次の表2に基本統計量をまとめた。

表2　基本統計量

変数	観測値	平均値	標準偏差	最小値	最大値	P50
social	774	0.01	0.012	0.0003	0.07	0.01
base	774	4.63	0.214	4.14	5.70	4.63
develop	774	2.32	0.109	2.07	2.86	2.32
lindex	774	4.94	0.542	2.83	5.64	5.09
lcover	774	4.84	0.656	0.62	5.65	5.02
luse	774	4.87	0.557	1.46	5.62	4.93
ldig	774	4.83	0.738	-3.91	5.74	5.07
tl	774	0.36	0.248	0.00	1.90	0.33
adv	774	2.24	0.141	1.95	2.72	2.21
growth	774	0.10	0.035	-0.02	0.23	0.09
capital	774	1.12	0.436	0.11	3.31	1.04
invst	774	1.07	0.539	0.10	5.63	1.04
fiscal	774	0.30	0.232	0.08	3.20	0.24

4. 実証結果分析

4.1. 回帰結果分析

デジタル金融包摂は技術的な能力に依拠して、伝統的な金融発展のボトルネックを突破し、大幅に金融サービスのハードルとコストを下げて、金融サービスの効率を向上させる。デジタル金融包摂の安全で便利で速く、広範囲にカバーし、プロダクトの多様性と持続可能性などの特徴は、西部地域の中小企業の成長駆動力の転換、技術革新や効率改善の過程における金融資本への需要を満足させ、伝統的な金融における「弱者集団」への資金調達や貸付制限などの問題を緩和することができ、経済の高品質な成長を推進する。表3の回帰結果からわかるように、回帰結果が1%水準で有意で、西部地域のデジタル金融包摂発展総指数やカバー範囲、使用深度やデジタル化程度の経済の高品質な成長に対する係数はそれぞれ0.0784、0.0531、0.0679、0.0418で、正の相関関係を示し、西部地域のデジタル金融包摂の発展は経済の高品質な成長を促進することができるということから、仮説1を検証することができた。

表3　総指数および指標別の回帰結果

変数	総指数	カバー度	使用深度	デジタル化程度
lindex	0.0784*** (20.8200)			
lcover		0.0531*** (16.8639)		
luse			0.0679*** (19.2684)	
ldig				0.0418*** (13.4973)
growth	-0.7596*** (-12.1719)	-0.9980*** (-16.0345)	-0.8913*** (-14.5968)	-1.0543*** (-15.4447)
capital	0.0203*** (3.8104)	0.0214*** (3.7318)	0.0204*** (3.7213)	0.0307*** (5.0584)
invst	-0.0154*** (-3.7615)	-0.0215*** (-4.9502)	-0.0209*** (-5.0363)	-0.0227*** (-4.9188)
fiscal	0.0142 (1.4977)	0.0073 (0.7218)	0.0099 (1.0132)	0.0091 (0.8452)
N	774	774	774	774
R^2	0.799	0.768	0.787	0.741
F	27.75	20.99	30.32	24.29

注：***p<0.01、**p<0.05、*p<0.1は有意を示す。括弧内はｔ値。

デジタル金融包摂は伝統的な金融発展の困難な状況を解決し、真の意味での包摂を実現し、生産要素がそれぞれの生産主体の間で秩序だって流動することをよりよく促進する。それによって市場の各種経営主体の活力が強くなり、地域経済の高品質な成長が進む。まず、総指数の回帰結果から、デジタル金融包摂の発展が1%増加するごとに、経済の高品質な成長のレベルが0.0784%増加することがわかる。次に、カバー範囲、使用深度やデジタル化程度の回帰結果から、3つの変数が1%増えるごとに、それぞれ経済の高品質な成長を推進するのに、0.0531%、0.0679%、0.0418%増加するだろう。

実証結果から、デジタル金融包摂の発展の、西部地域経済の高品質な成長に対する係数はすべて正の値で、結論は楊艶芳（2021）[28]、宇超逸（2020）[29]などの研究と一致しており、デジタル金融包摂は西部の未発展地域の経済成長に有意に正の効果がある。その原因は、西部地域の経済が相対的に遅れていて、デジタル化程度が低く、生産要素の利用が不十分で、企業の活力の生かす余地が大きいからである。また、西部地域のデジタル金融包摂は「乗数効果」が比較的高く、限界報酬は逓増する段階にあるので、デジ

[28] 注6と同じ。
[29] 宇超逸・王雪標・孫光林「数字金融与中国経済増長質量：内在機制与経験証據」『経済問題索』2020（07）、1～14頁。

タル技術によるデジタルボーナス、資本深化、知識のスピルオーバー効果など、西部地域経済の高品質な成長に対して大きな推進効果があったからである。デジタル金融包摂も西部地域のイノベーション起業を促進し、それによって家庭収入も上がり、都市と農村の収入格差も縮小し、経済の協調発展を改善する効果がさらに良くなっている。この方向からみると、西部地域のデジタル金融包摂の限界効果はより大きく、デジタル金融包摂の経済成長の質への効果はさらに明確である。

4.2. 異質性検定分析

西部の各地域間の産業構造基礎（Indus）の相違を考慮すると、デジタル金融包摂の高品質な経済成長に対する影響も差異が起こるはずである。本稿では張慶君・黄玲（2021）[30]の方法を参照して、対応する経済データに依拠して、86カ所の地級市をグループ分けして検定分析を行う。産業構造のアップグレードは主に全要素生産性を高めること、生産方式の転換という道のりを経て高品質な経済成長を実現するものであるが、地域経済成長の過程のなかで資源的に優位であること、かつ労働力と生産技術などの要素の制限などにより、地域間の産業構造に差異がうまれるだろう。

したがって、産業構造の基礎が比較的優れた地域では、経済構造のモデルチェンジやアップグレードがはやく、労働力と技術革新への需要も多い。デジタル金融包摂の高品質な経済成長への影響もおそらくさらに大きくなる。第三次産業生産額と第二次産業生産額の比率の平均値を利用して、産業構造の基礎を次のように区分する。平均値より大きいのが、高産業構造基礎グループ（H-Indus）で、平均値より小さいのが、低産業構造基礎グループ（L-Indus）である。回帰結果は表4のように示され、デジタル化程度を除いて、デジタル金融包摂の発展の高品質な経済成長への促進作用は、低産業値が高産業値よりも少し大きい。低産業値の地域の産業構造の基礎は弱く、アップグレードの余地が大きく、限界効果も高い。したがって、低産業値地域の促進作用は高産業値地域より高い。ただし、デジタル金融包摂の発展はデジタル技術に依存しているため、デジタル化の程度が高い地域の経済成長への促進作用は程度が低い地域よりも大きい。

表4　地域の回帰結果：産業構造基礎

変数	総指数		カバー範囲		使用深度		デジタル化程度	
	H-Indus	L-Indus	H-Indus	L-Indus	H-Indus	L-Indus	H-Indus	L-Indus
lindex	0.0754*** (11.4998)	0.0782*** (14.6458)						
lcover			0.0448*** (8.8926)	0.0554*** (11.9939)				
luse					0.0611*** (9.5090)	0.0677*** (13.9446)		
ldig							0.0629*** (10.3892)	0.0304*** (7.7993)
growth	-1.0141*** (-8.5114)	-0.6038*** (-7.2291)	-1.3402*** (-11.5076)	-0.8209*** (-9.9160)	-1.1819*** (-9.5953)	-0.7639*** (-9.7620)	-1.0435*** (-8.2928)	-1.0572*** (-12.1854)
capital	0.0246** (3.3142)	0.0045 (0.5487)	0.0270*** (3.3515)	0.0032 (0.3674)	0.0234** (2.9575)	0.0038 (0.4638)	0.0248** (3.2151)	0.0149 (1.5729)
fiscal	0.0179* (1.9649)	0.0603 (1.2266)	0.0100 (1.0164)	0.0557 (1.0673)	0.0138 (1.4243)	0.0162 (0.3250)	0.0204** (2.1409)	0.0365 (0.6441)
invst	-0.0008 (-0.0577)	-0.0200*** (-4.3192)	-0.0099 (-0.6862)	-0.0249*** (-5.1060)	-0.0083 (-0.5890)	-0.0250*** (-5.3702)	0.0165 (1.1436)	-0.0283*** (-5.3632)
_cons	2.0022*** (43.1440)	2.0003*** (52.7854)	2.1989*** (57.5534)	2.1467*** (62.6556)	2.1030*** (46.2874)	2.0891*** (61.6491)	2.0571*** (44.6776)	2.2854*** (68.2708)
N	294	480	294	480	294	480	294	480
R^2	0.813	0.773	0.779	0.744	0.787	0.766	0.799	0.699

注：***p<0.01、**p<0.05、*p<0.1は有意の水準で、括弧内はｔ値；Indus の平均値は0.9258078。

4.3. 媒介効果検定分析

まず、産業構造の合理化の媒介効果について。産業構造レベルが反映するのは、労働生産性レベルであり、表5ではその検定結果を示している。産業構造合理化Goodman-1とSobelのP値はそれぞれ0.3284と0.3294で、1%の水準のもとでは検定を通過していない。したがって、西部地域の高品質な経済成長には産業構造のレベルという媒介変数は存在していない。

次に、産業構造の高度化の媒介効果について。産業構造の高度化は産業構造が低レベルの形式からハイレベルの形式に転換していく過程、すなわち伝統産業が次第にサービス型に転換していくこと、第三次産業の生産額が絶えず増大していくことを指している。表5は産業構造の高度化の媒介効果検定で、検定結果によると、Goodman- 1とSobelのP値がそれぞれ1%の水準のもとで検定した結果、媒介効果がみられた。産業構造の高

[30] 注1と同じ。

表5　媒介効果検定結果

変数	産業構造合理化	産業構造高度化
Tl	-0.1414*** (-15.4115)	
Adv		0.3087*** (16.1591)
Lindex	0.0961*** (16.7319)	0.0667*** (11.3140)
Growth	-0.7879*** (-9.4332)	-0.9776*** (-11.7805)
Capital	0.0531*** (9.8421)	0.0452*** (8.3229)
Fiscal	-0.0266** (-2.5415)	-0.0699*** (-6.9433)
Invst	0.0081* (1.7595)	0.0324*** (6.4216)
_cons	1.9101*** (51.1358)	1.3275*** (26.1420)
Sobel	0.3284	0.0000
Goodman-1	0.3294	0.000
Goodman-2	0.3273	0.000
N	774	774
R^2	0.706	0.713

注：*、**、*** はそれぞれ10%、5%、1% の有意水準を表し，Sobe およびそれ以下は P 値。

度化の経済成長に対する係数は0.3087であり、プラスの効果が起こっている。つまり、デジタル金融包摂は西部地域の産業構造のサービス化のアップグレードを促進し、しかも産業構造の高度化が経済成長を有効に促進していることが説明できる。したがって、産業構造の高度化のもと、仮説2は検証された。

4.4. ロバスト検定分析

脱落変数がもたらす推定バイアスを避け、結果の信頼性保証のために、本稿では変数増減法とグループ別回帰法を使用し、表3の回帰結果への検定を行う。イノベーションは経済成長方式を改変するのに役にたち、生産活動への科学技術量によって産業構造が引き上げられるのに役に立ち、高品質な経済成長が進む。そこで経済の高品質な成長を計測する方法を変え、イノベーション起業指数を組み入れて、総合得点を計算した。表6で示すように、回帰結果と表3は基本的に一致しており、上述の結果には信頼性がある。

次にサンプルを2グループに分けて回帰を行った。第1グループは四川、貴州、新

表6　ロバスト検定：変数増減法

変数	総指数	カバー範囲	使用深度	デジタル化程度
lindex	0.0833*** (6.1076)			
lcover		0.0602*** (5.6558)		
luse			0.0685*** (5.4964)	
ldig				0.0450*** (4.5102)
control	Yes	Yes	Yes	Yes
_cons	2.0124*** (21.9431)	2.1585*** (29.1610)	2.1160*** (25.4641)	2.2323*** (29.7464)
N	774	774	774	774
R^2	0.166	0.160	0.158	0.146

注：*、**、*** はそれぞれ10%、5%、1% の有意水準を表す。

表7　ロバスト検定：グループ別検定

変数	第１グループ				第２グループ			
	総指数	カバー範囲	使用深度	デジタル化程度	総指数	カバー範囲	使用深度	デジタル化程度
lindex	0.0808*** (12.5059)				0.0779*** (17.0745)			
lcover		0.0457*** (9.3666)				0.0602*** (14.7635)		
luse			0.0713*** (11.3319)				0.0673*** (16.1750)	
ldig				0.0283*** (6.3952)				0.0634*** (14.8021)
control	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes
_cons	1.9615*** (44.8393)	2.1888*** (63.6785)	2.0316*** (48.2562)	2.2852*** (66.0376)	2.0098*** (59.3296)	2.1114*** (64.9407)	2.0935*** (67.1891)	2.0781*** (60.5990)
N	360	360	360	360	414	414	414	414
R^2	0.784	0.747	0.770	0.714	0.818	0.794	0.809	0.795

注：*、**、*** はそれぞれ10%、5%、1% の有意水準を表し、括弧内は t 値。

彊、チベット、青海と甘粛で、第2グループは、雲南、広西、陝西、寧夏と内モンゴルである。表7で回帰結果を示している。記号と基本回帰モデルも一致している。したがって結果は信頼性があり、西部地域のデジタル金融包摂は経済の高品質な成長を促進することができる。

4.5. 閾値効果分析

先に、産業構造に媒介効果の役割があること、およびデジタル金融包摂は経済の成長をさらに促進することを検証した。さらにこうした関係の向上は線形的な関係なのかどうかを検討する。肖遠飛ほか（2019）[31]の方法を参照し、閾値効果を通じて、デジタル金融包摂と経済の高品質な成長の関係を検定する。以下のパネルデータの閾値モデルを構築する。

$$
\begin{aligned}
DEVELOP_{it} &= \partial_0 + \partial_1 LINDEX_{it} \\
&\quad * \mathrm{I}(LINDEX_{it} \le \beta) + \partial_2 LINDEX_{it} \\
&\quad * \mathrm{I}(\beta < LINDEX_{it} \le \gamma) + \cdots\cdots \\
&\quad + \partial_3 LINDEX_{it} * \mathrm{I}(\delta \le LINDEX_{it}) \\
&\quad + \sum control + \mu_i + \varepsilon_{it} \qquad (9)
\end{aligned}
$$

このなかで、I（　）はダミー関数で、デジタル金融包摂を閾値変数として、閾値回帰分析を行い、異なる地域間のデジタル金融包摂の経済成長に対する役割を算出した。表8で検定結果を示している。1%の有意の水準のもと、二重閾値が存在し、三重閾値は存在しなかった。したがって、デジタル金融包摂には二重閾値の効果がある。閾値の推定値は表9のとおりで、第一閾値の推定値は4.9378、第二閾値の推定値は5.2791である。

閾値回帰は表10に示した通りである。デジタル金融包摂のレベルが高ければ高いほど、西部経済は高品質に成長することができる。そのレベルが4.9378より低いとき、経済の高品質成長に対する促進係数は0.048となる。一方、そのレベルが第二の閾値の5.2791より大きいとき、経済の成長を促進する係数は0.059となる。結果は前述した分析と合致し、西部地域のデジタル金融包摂の発展レベルは全体的に低レベルの状態にあり、限界報酬が逓増する余地が大きい。よって、デジタル金融包摂の発展レベルは上昇しつづけ、その規模収益効果はますます明確となり、経済の高品質な成長に対する促進効果もさらに明らかである。

デジタル技術の発展と関連政策の支援により、デジタル金融包摂がもたらす投資規模の拡大は、新しい生産要素―データと産業の深いレベルでの融合を促し、金融資本の誤配置の問題を解決している。したがって、西部地域のデジタル金融包摂レベルの向上は、資源配置効率をさらに高めるとともに、経済成長の効果もさらに高め、高品質の成長を推進する。

表8　閾値検定結果

	閾値	F値	P値	10%限界値	5%限界値	1%限界値
第一閾値	5.2791	156.96	0.0000	28.7039	33.9759	39.1610
第二閾値	4.9378	40.18	0.0000	19.3302	23.3461	29.8592
第三閾値	5.3718	17.80	0.6967	49.6234	52.7997	61.3510

注：P 値と限界値はブートストラップ反復法で300回のサンプル取得を繰り返した。

表9　閾値推定値および信頼区間

	閾値推定値	95%信頼区間
第一閾値	4.9378	[4.9280,4.9382]
第二閾値	5.2791	[5.2745,5.2803]

表10　閾値回帰結果

変数	数字化程度
growth	-0.620*** (-10.94)
capital	0.015*** (3.19)
invst	-0.012*** (-3.12)
fiscal	0.015* (1.81)
I(*LINDEX*_it ≤ 4.9378)	0.048*** (11.55)
I(4.9378<*LINDEX*_it ≤ 5.2791)	0.053*** (13.83)
I(5.2791 ≤ *LINDEX*_it)	0.059*** (15.90)
_cons	2.105*** (87.70)
N	774

注：*、**、*** はそれぞれ10%、5%、1% の有意水準を表し、括弧内は t 値。

5　結論と政策提言

本稿では西部の86の地級市パネルデータを使って、デジタル金融包摂と産業構造のアップグレードが経済の高品質な成長にもたらす影響を実証的に分析した。そこで得られた結論は以下のとおりである。第一に、西部地域のデジタル金融包摂は経済の高品質な成長に有意に正の効果があり、産業構造の高度化は媒介変数として、デジタル金融包摂の西部地域の経済成長に対する役割を強化した。第二に、西部地域は産業構造の基礎が異なり、デジタル金融包摂の経済成長への促進作用にも差異があった。第三に、本稿では閾値回帰モデルを用いて、デジタル金融包摂を閾値変数として、両者の

[31] 肖遠飛・周萍萍「数字経済、産業昇級与高質量発展―基於中介効応和面板門檻効応実証研究」『重慶履理工大学学報（社会科学）』2021、35（03）、68～80頁。

あいだの非線形的関係を検討した。その結果、デジタル金融包摂の発展レベルが高ければ高いほど、その西部地域の経済成長に対する促進作用が顕著となった。

以上の実証研究の結論にもとづき、本稿では以下の提言をすることができる。(1)伝統的な金融機関のデジタル化の歩みを推進し、デジタル金融包摂のシステムを整備すること。伝統的な金融組織は金融科学技術、デジタル技術の力を借りて、データ駆動やイノベーション駆動などの措置を通じて、デジタル化改革を進め、デジタル化の程度を向上させ、総合的なデジタル金融包摂システムを建設し、経済の高品質な成長を進める同時効果をだすべきである。同時に西部地域のデジタル金融包摂は経済の高品質な成長に明確な促進作用があり、限界報酬の逓増の余地が大きいことから、現在のデジタル金融包摂の科学技術イノベーションや科学技術の適用、シーンの発掘が不足していることがわかる。したがって、西部地域はビッグデータ、クラウドコンピューティングの適用を強化し、金融科学技術とデジタル金融包摂の深い部分での融合を実現していくべきである。(2)デジタル金融包摂の産業構造のアップグレードのなかでの役割を強化すること。デジタル金融包摂は実体経済に奉仕するという大きな方向性を堅持しながら、重点的に新興産業、小型・零細企業、国家が重点的に支援する産業を支援して、市場主体の生産経営、市場研究開発方面での資金需要を満足させ、産業構造調整を助け、経済の高品質な成長を後押しすべきである。(3)資源の合理的な流動と最適な配置を促進し、産業構造の高度化を促進する。西部地域間の産業は構造的に均衡を欠いており、金融資本は各地域の経済、産業発展の実際計画に基づいて、都市と農村、地域の間で着力点を探し、人材・データ・技術などの要素の効率よい流動を促進し、多くのレベルでの投資を行い、資金配置を最適化して、産業構造の高度化を促進して、産業構造の基礎レベルを向上させて、経済成長の高品質な成長を推進すべきである。

［中国語原稿をERINAにて翻訳］

Study on Digital Financial Inclusion, Upgrading Industrial Structure and High Quality Growth of Economy in the Western Region of China (Summary)

LI Shenghua
Associate Professor, School of Economic Management, Yanbian University
Collaborative Researcher, ERINA

ZHANG Rong
Master Course Student, School of Economic Management, Yanbian University

The Chinese economy has entered a new normal and is shifting from an era that emphasizes the speed of economic growth to one that emphasizes its quality. The Sixth Plenary Session of the 19th Central Committee of the Communist Party of China (CPC) pointed out that China is facing a complex situation with "three overlapping periods": (1) a shift in the rate of growth of the Chinese economy, (2) a difficult period for structural adjustment, and (3) a period when initial stimulus policies have been ineffective. The meeting then noted the need to promote high-quality growth in the economy, accelerate the development of modern industrial systems, boost the real economy, and develop the digital economy amid the difficulty of continuing the traditional growth model.

Digital financial inclusion, which combines modern information technology and traditional financial inclusion, plays an important role in raising the level of efficiency and fairness of financial services, promoting scientific and technological innovation, and promoting consumption by residents, due to its wide range of services and rich transaction formats. Previous studies have shown that digital financial inclusion can accelerate industrial structure upgrading and economic growth through technological innovation and raise total factor productivity. However, the study also reveals that differences in industrial structure, public infrastructure, and resource endowment in different regions have dissimilar effects on the quality of economic growth in each region.

This study aims to determine whether digital financial inclusion can promote high quality growth of its economy in the western region, where the overall economy is relatively lagging, and whether there are differentiations among the various regions. Referring to previous studies, this study empirically analyzes the relationship between digital financial inclusion, industrial structure upgrading, and high quality growth of the economy in 86 selected district-level cities in the western region, using industrial structure upgrading as a mediating variable.

The conclusions obtained are, first, digital financial inclusion in the western region has a significantly positive effect on the high quality growth of the economy, and digital financial inclusion plays a role in enhancing economic growth in the western region, with the sophistication of the industrial structure as a mediating variable. Second, the western region exhibited different industrial structure fundamentals than the other regions, and there were differences in the facilitating effect of digital financial inclusion on economic growth. Third, this paper uses a panel threshold regression model with digital financial inclusion as the threshold variable to examine the nonlinear relationship between the two. The results show that the higher the level of development of digital financial inclusion, the more pronounced the effect of digital financial inclusion in promoting economic growth in the western region.

Based on the conclusions of the above empirical study, this paper makes the following recommendations.

(1) There is a need to promote the digitalization of traditional financial institutions and develop a system of digital financial inclusion. (2) To enable digital financial inclusion to play a greater role in upgrading the industrial structure, emphasis should be placed on supporting emerging industries, small and micro enterprises, and state-supported industries. (3) Since the industries among the western regions are structurally unbalanced, the rational flow and optimal allocation of resources should be promoted, and the upgrading of the industrial structure should be facilitated.

Keywords: digital finance inclusion, industrial structure, regional economy, the Western region of China
JEL Classification Codes: G20, O18, P25

イベント

国際人材フェア・にいがた2023開催報告

ERINA 企画・広報部長
新保史恵

ERINA は2022年5月15日（日）に朱鷺メッセ（新潟市中央区）で、新潟県内企業と外国人留学生と日本人の留学経験者等を対象とした就職相談会「国際人材フェア・にいがた2023」を開催した。「国際人材フェア」は新潟で学んだ留学生が新潟で就職し定住できるようにと2005年に初めて開催し、今回の開催で18回目となった。これまでの開催実績は下表の通りである。今回は県内企業17社と、県内在学中の留学生52名が参加した。

■開催概要

月　日　2022年5月15日（日）
場　所　朱鷺メッセ2階　スノーホール（新潟市中央区万代島6-1）
主　催　ERINA
共　催　新潟労働局
後　援　新潟県、新潟地域留学生等交流推進会議、公益財団法人にいがた産業創造機構（NICO）、一般社団法人新潟県商工会議所連合会、新潟経済同友会、一般社団法人新潟県経営者協会、新潟県中小企業団体中央会、公益財団法人新潟県国際交流協会、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）新潟貿易情報センター、株式会社第四北越銀行、株式会社大光銀行
相談ブース　新潟労働局（外国人雇用管理アドバイザー・新潟新卒応援ハローワーク）
新潟県国際交流協会（外国人相談センター）
出 展 企 業　県内企業17社
参加留学生　52名

表　国際人材フェア開催履歴

年度	開催日	会場	参加企業	参加留学生	内定者
2005年	10月28日（金）	長岡商工会議所	9社	60名	5名
2006年	10月27日（金）	新潟市民プラザ	9社	53名	2名
2007年	9月21日（金）	新潟市民プラザ	14社	47名	3名
2008年	5月21日（水）	新潟市民プラザ	18社	69名	6名
2009年	5月22日（金）	新潟市民プラザ	8社	47名	1名
2010年	5月21日（金）	新潟市民プラザ	22社	59名	1名
2011年	6月23日（木）	新潟市民プラザ	19社	85名	4名
2012年	6月29日（金）	新潟市民プラザ	18社	86名	6名
2013年	5月30日（木）	新潟市民プラザ	16社	94名	4名
	6月 8日（土）	アオーレ長岡	9社	22名	
2014年	6月18日（水）	新潟市民プラザ	20社	85名	3名
2015年	6月18日（木）	新潟市民プラザ	27社	80名	12名
2016年	6月17日（金）	新潟市民プラザ	24社	100名	6名
2017年	6月 9日（金）	新潟市民プラザ	27社	81名	7名
2018年	6月 2日（土）	朱鷺メッセ	35社	96名	10名
2019年	6月 8日（土）	朱鷺メッセ	28社	119名	12名
2020年	9月18日（金）	朱鷺メッセ	12社	98名	0名
2021年	7月10日（土）	朱鷺メッセ	17社	74名	7名
2022年	5月15日（日）	朱鷺メッセ	17社	52名	-
計（延べ）	-	-	349社	1407名	89名

※内定者は参加企業へのアンケート調査による結果。

■就職相談会の様子

ERINA から参加留学生に注意事項等の説明の後、就職相談会を開始した。就職相談会では留学生が事前に用意したエントリーシート（参加申込書）を持参し、関心のある企業ブースを訪問し、担当者から企業概要や採用方針などについて説明を聞いた。併せて外国人の雇用に関する相談や就職に関する相談、生活に関する相談を新潟労働局と新潟県国際交流協会が実施した。

就職相談会の様子

相談ブース

■開催結果

（1）企業について

出展企業は新潟県内企業17社、地域については新潟市に本拠地を置く企業が6社で最も多く、次に佐渡市の企業が3社で、南魚沼市の企業が2社、加茂市、三条市、胎内市、燕市、長岡市、出雲崎町の企業が1社ずつ出展した。

業種については製造業が8社、非製造業が9社だった。製造業では、機械、食料、その他製造業が各2社、金属製品、プラスチック製品製造業がそれぞれ1社だった。製造業以外では、技術サービス、宿泊業、卸・小売業がそれぞれ2社、情報通信業、医療福祉業、その他サービス業が各1社だった。

募集する職種については技術開発が6社で最も多く、次に通訳・翻訳が5社、海外取引業務が4社、接客が3社、企画業務、管理業務がそれぞれ2社、情報処理、法人営業、介護職が1社ずつだった。

採用形態に「正社員」を募集する企業は13社（76%）、「正社員あるいは契約社員」、「契約社員」の採用を予定する企業はそれぞれ2社だった。希望要件の語学能力については、英語が10社（59%）で最も多く、次に中国語が6社、ベトナム語が3社だった。そのほか、韓国語、ロシア語、タイ語などを希望する企業もあった。

（2）留学生について

参加留学生は52名、国・地域別では、ベトナム、インド、モンゴルが各9名、中国8名、カンボジア3名、インドネシア、ミャンマーが各2名、パキスタン、香港、ネパール、フィリピン、バングラデシュ、カメルーン、エチオピア、セネガル、ジョージア、ロシアの留学生が参加した。

学校別では、国際大学20名（38%）、新潟産業大学8名、事業創造大学院大学7名、新潟大学と新潟食料農業大学が各3名、上越教育大学、敬和学園大学、長岡技術科学大学が各2名と長岡大学1名、専門学校では、国際外語・観光・エアライン専門学校と新潟ビジネス専門学校が各2名だった。文系45名、理系は7名の留学生が参加した。

■アンケート結果

（1）企業アンケート

出展企業に対するアンケートは17社全社から回答していただいた。感謝申し上げる。「本日のフェアは有意義でしたか」という質問に対して、15社（88%）が「有意義」と回答し、「本日のフェアで採用したい留学生はいましたか」という質問に4社（23.5%）は「すぐにでも採用したい留学生がいた」、11社（84.7%）は「今後試験や面接を重ねて検討したい留学生がいた」と答えた。

企業の留学生採用の理由（図1）は、「優秀な人材を確保するため」が70.6%で最も多く、次に「国際取引など語学力が必要な業務を行うため」が52.9%、「外国人としての感性・国際感覚等の強みを発揮してもらうため」が47.1%と続いた。優秀な人材を確保するために留学生の採用を考える企業が多いことがわかる。

留学生の資質や能力で最も重視するもの（図2）は、「日本語能力」が88.2%で最も多く、「コミュニケーション能力」が64.7%、「仕事に対する熱意」、「チャレンジ精神」と続く。コミュニケーションが取れること、仕事に対して真摯に向き合うことを重視していることがわかる。

図１　留学生の採用理由について教えてください（複数回答）

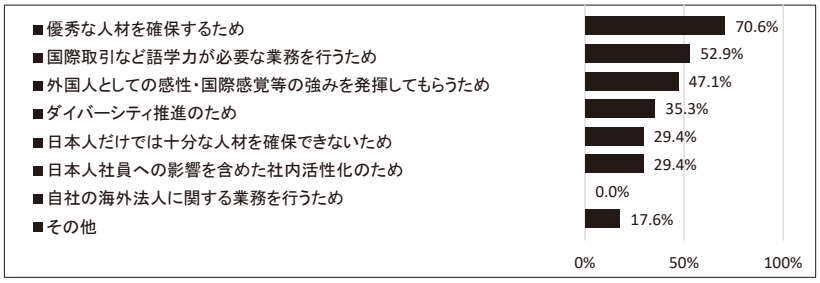


図２　留学生の資質や能力で最も重視するものを教えてください
（複数回答、３個まで）

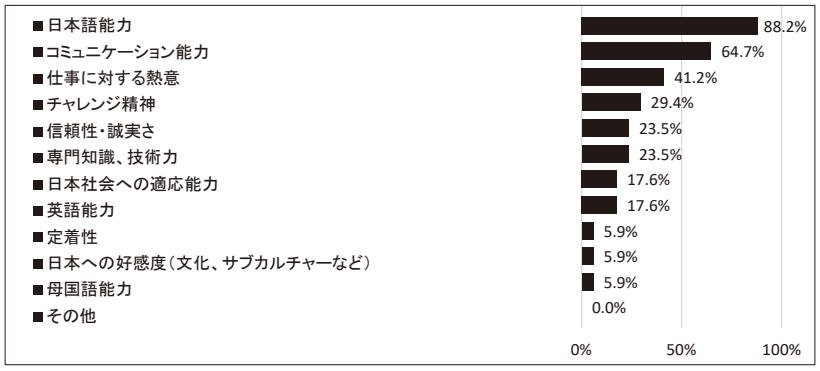
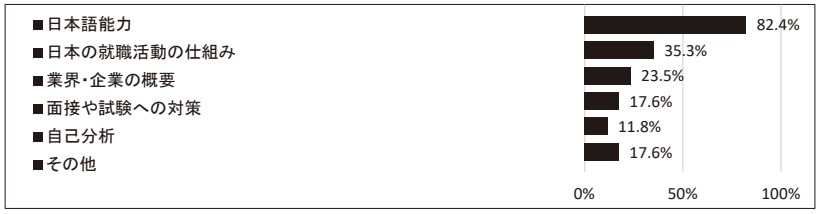


図３　留学生の就職活動において、大学等で指導して欲しいと思うものは何ですか？（複数回答）



留学生の就職活動において大学等で指導してほしいこと（図3）は、「日本語能力」が82.4%と最も回答が多かった。留学生の能力で重視することと同様に、企業が日本語能力を重視していることがわかる。

出展企業17社のうち、過去に留学生を採用したことがある企業14社に、採用後の状況について質問をした。

留学生を採用して良かったこと（図4）は、71.4%の企業が「優秀な人材が確保できた」と回答し、企業は希望通り優秀な人材を採用できているのではないかと思う。「会社全体のグローバル化が進展」が57.1%、「日本人社員の異文化・多様性への理解が向上し、社内活性化に繋がった」、「新しいアイデアが生まれた」、「国際業務の拡大や円滑化」の順だった。

留学生を採用して苦労したこと（図5）はという質問に対して、「在留資格の変更手続きが煩雑」が57.1%と多く在留資格変更の手続きが企業の課題であることがわかる。「生活面のフォロー」、「意思疎通が困難」などが続く。

そのほかの感想として、「多くの人材と知り合えた」、「様々な学生に会うことができた」、「優秀な学生が多い、バイタリティが高い学生が多い様に感じた」などの感想や運営についてご意見を頂いた。留学生の採用についてはビザの取得についての疑問や文化の違い、生活面のサポートなどの不安を持つ企業があることもわかった。

図４　留学生を採用して良かったことを教えてください（複数回答）

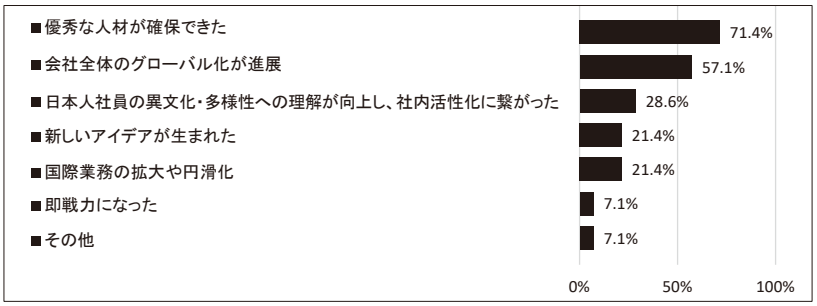
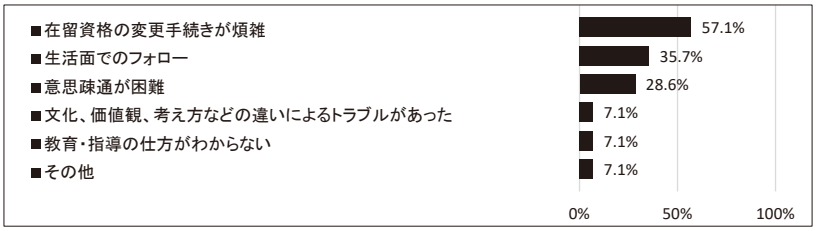


図５　留学生を採用して苦労したことを教えてください（複数回答）



（2）留学生アンケート

留学生は参加留学生52人のうち16人（30.8%）が回答してくれた。感染症対策もあり、回答方法をインターネットによる回答としている。今後は、回答数を増やす工夫が必要だと思う。回答した留学生全員が「本日のフェアは有意義であった」と回答し、「就職したい会社があった」、「今後、会社情報を収集するなど、就職を検討したい会社があった」と回答している。

日本で働きたい理由（図6）については、「日本語を使って仕事をしたいから」が

図６　日本で働きたい理由は何ですか（複数回答、3個まで）

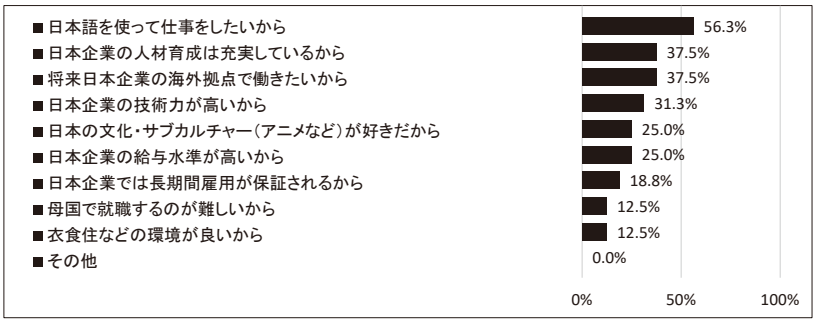
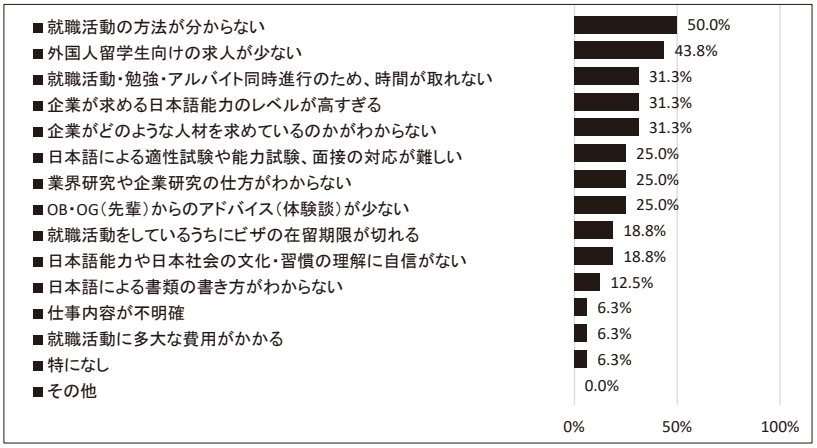


図７　入りたい企業の業種は何ですか（複数回答、3個まで）



56.3%で最も多かった。次に「日本企業の人材育成は充実しているから」、「将来日本企業の海外拠点で働きたいから」、「日本企業の技術が高いから」が続く。留学生は在学中に得た日本語能力を活かした就職を希望し、日本企業の人材育成が充実していること、技術が高いなどの情報を得ていることがわかる。

就職活動で不安に感じたこと（図7）は、「就職活動の方法が分からない」、「留学生向けの求人が少ない」などの回答が多かったが、「就職活動・勉強・アルバイトが同時進行であるため時間がない」という回答もあった。生活面の改善が必要なのかもしれない。

そのほか感想として、「企業について詳細を知ることができた」、「自分のような人材が求められていることがわかり、就職活動が有意義になる」などが寄せられた。フェアについては「このフェアで正式な申し込み手続きができるとよい」、「もっと多くの企業に出展してもらいたい」という要望もあった。

■終わりに

出展企業は、昨年と同じ17社だった。留学生採用の理由は優秀な人材を求める企業が多く、日本人学生採用と同様に考えていると推察できる。留学生の語学能力は日本語、英語を求め、コミュニケーション能力の高い学生を希望していることからもわかる。今回初めて出展した企業や、2度目の企業からは来年度以降の国際人材フェア開催への期待が聞かれた。今後の採用の参考にするために見学に来た企業もあった。

一方で、留学生の参加者は52名で、昨年より22名減少した。大学によっては新型コロナウイルス感染の影響で留学生数が学年によりばらつきがあることも聞いた。参加留学生の国籍について以前は中国の留学生が圧倒的に多かったが、今回はベトナム、インド、モンゴルの留学生で半数を占めた。優秀な人材を求める企業の期待に応えるためにも国籍を問わず参加留学生を増やすことは必要だと考える。

運営の課題や改善すべき点もあるが、企業からの期待や新潟で学んだ留学生の定住のためにこの「国際人材フェア」が継承されることを願う。

活 動 報 告

第7回北東アジアの安全保障に関するウランバートル対話

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘

2022年6月23日～24日、モンゴル・ウランバートル市の外務省庁舎で、第7回北東アジアの安全保障に関するウランバートル対話が開かれた。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で過去2年間は延期され、3年ぶりに開かれた今回のウランバートル対話は、第1セッション「地域の安全保障上の問題と機会」、第2セッション「北東アジアにおける多国間協力」、第3セッション「北東アジアの平和の実現のために」、第4セッション「ポストコロナの地域経済協力」、第5セッション「北東アジアのエネルギー連携のための電力網接続」および各国政府代表団によるクローズドセッションで構成されていた。

写真1　バトツェツェグ外務大臣の挨拶風景

（出所）筆者撮影

写真2　モンゴル国大統領とのフォトセッション

（出所）モンゴル国大統領府より参加者に配られたもの

筆者は開会式に続いて開かれた第1セッションで発言したが、このセッションにはモンゴルの他、カナダ、中国（オンライン参加）、オーストリア（オンライン参加）、韓国、ロシアからの代表が参加した。北朝鮮や米国からの参加はなかった。

会場は外務省で一番大きな国際会議場だった。ほぼ定員一杯の超満員で、マスクを着けた参加者は全体の10分の1にも満たなかった。モンゴル国内の参加者もそうだが、欧米からの参加者も「マスクは遠慮願いたい」という雰囲気であった。

会議終了後には、チンギスハン広場にある政府宮殿で、会議参加者とモンゴル国大統領とのフォトセッションがあった。モンゴルが北東アジアの一員として、地域の問題解決に貢献したいという気持ちが伝わってくる行事であった。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が落ち着き、地域の人流が回復するにはもう少し時間がかかるかもしれないが、北東アジアで唯一の非核地帯を宣言し、核兵器にも核の傘にも依存しないモンゴルが、地域の平和と繁栄のために力を尽くすこの会議が、米国や北朝鮮も含めた幅広い参加者を得て、さらに発展することを願わずにはいられなかった。

北東アジア動向分析

●中国

新型コロナの感染封じ込めにより経済活動に打撃

中国国家統計局の発表によると、2022年第1四半期の中国の実質国内総生産（GDP）成長率は、前年同期比4.8%であり、名目GDPは27兆178億元であった。三次産業別では、第1次産業の付加価値額は1兆954億元で前年同期比6.0%増、第2次産業の付加価値額は10兆6187億元で同5.8%増、第3次産業の付加価値額は15兆3037億元で同4.0%増となった。第1四半期の経済指標は伸びているが、3月中下旬から上海や吉林省などの直轄市・省でコロナ感染が再流行して都市封鎖が行われたため、4−5月の経済活動は落ち込んだ。

工業生産は、同年1−5月の一定規模以上工業企業（本業の年間売り上げ2000万元以上）の付加価値額が前年同期比3.3%増であった。工業生産も都市封鎖で大きな影響を受け、4月の一定規模以上工業企業の付加価値額が前年同月比2.9%減となった。5月に回復の兆しが見え始め、前年同月比は0.7%増になった。5月の付加価値額を企業形態別にみると、国有及び国有資本支配企業は前年同月比0.7%増、株式企業は同2.3%増、外資系企業（香港・マカオ・台湾投資企業を含む）は同5.4%減、私営企業は同1.1%増であった。産業別に見ると、5月の鉱業の付加価値額の成長率は同7.0%増、製造業は同0.1%増、電力・熱・ガス・水の生産・供給業は同0.2%増であった。

固定資産投資は、同年1−5月の名目固定資産投資総額（農家除く）が20兆5964億元で前年同期比6.2%増となった。三次産業別にみると、同期間の第1次産業は前年同期比5.8%増の5250億元で、第2次産業は同11.0%増の6兆3917億元で、第3次産業は同4.1%増の13兆6796億元であった。特に、ハイテク製造業とハイテクサービス業の固定資産投資はそれぞれ同24.9%増と10.8%増となり、産業平均よりも高い。地域別に見ると、東部地域は同5.0%増、中部地域は同10.9%増、西部地域は同7.9%増、東北部地域は同4.4%減で、東部と東北部地域で都市封鎖の影響が大きかった。

消費は、同年1−5月の社会消費品小売総額が17兆1689億元で、前年同期比1.5%減となり、これも都市封鎖の影響がみられた。月別にみると、1−2月は同6.7%増であったが、3月に前年同月比3.5%減になり、4月はさらに同11.1%減まで悪化した。5月には同6.7%減で4月より若干回復している。消費形態で見ると、1−5月の商品の小売総額は15兆5415億元で同0.7%減少し、飲食業は1兆6274億元で同8.5%減少した。外出制限で飲食業は大きな打撃を受けた。消費地別に見ると、同年1−5月に都市部は同1.6%減、農村部は同1.0%減であった。一方で、インターネットを通じて取引された小売額は4兆9604億元で同2.9%増加した。そのうち、実物商品のオンライン小売額は4兆2718億元で同5.6%増となり、社会消費品小売総額の24.9%を占めている。

物価は、同年1−5月の消費者物価指数（CPI）が前年同期比1.5%の上昇を示しており、5月だけをみると、前年同月比2.1%の上昇となったが、4月と比べると0.2%低下した。品目別にみると、5月に食品・酒・たばこの価格は前年同月比2.1%の上昇、衣服は0.5%の上昇、住居関連は1.0%の上昇、生活用品およびサービスは1.4%の上昇、交通通信は同6.2%の上昇、教育文化娯楽は同1.8%の上昇、医療保健は同0.7%の上昇、その他の用品とサービスは1.8%の上昇であった。食品のうち、新鮮野菜は同11.6%の上昇、新鮮果物は同19.0% の上昇となり、CPIを押し上げたが、豚肉は同21.1%の下落でCPIの

表1　中国のマクロ経済指標

	単位	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022年1-5月
実質GDP成長率	%	7.9	7.8	7.4	7.0	6.8	6.9	6.7	6.0	2.3	8.1	※4.8
工業総生産伸び率（付加価値額）	%	10.0	9.7	8.3	5.9	6.0	6.6	6.2	5.7	2.4	9.6	3.3
固定資産投資伸び率	%	20.3	19.6	15.7	10.0	8.1	7.2	5.9	5.4	2.9	4.9	6.2
社会消費品小売総額伸び率	%	14.3	13.1	12.0	10.7	10.4	10.2	9.0	8.0	▲ 3.9	12.5	▲ 1.5
消費価格上昇率	%	2.6	2.6	2.0	1.4	2.0	1.6	2.1	2.9	2.5	0.9	1.5
輸出入収支	億ドル	2,311	2,592	3,825	5,945	5,100	4,225	3,518	4,215	5,350	6,764	2,905
輸出伸び率	%	7.9	7.9	6.1	▲ 2.8	▲ 7.7	7.9	9.9	0.5	3.6	29.9	13.5
輸入伸び率	%	4.3	7.3	0.4	▲ 14.1	▲ 5.5	15.9	15.8	▲ 2.8	▲ 1.1	30.1	6.6
対内直接投資伸び率（実行ベース）	%	▲ 3.7	5.3	1.7	6.4	4.1	4.0	3.0	2.3	4.5	20.2	22.6
対外直接投資（フロー）	億ドル	878	1078	1231	1457	1961	1583	1430	1369	1329	1452	573
外貨準備高	億ドル	33,116	38,213	38,430	33,304	30,105	31,399	30,727	31,079	32,165	32,502	31,278

（注）前年比。
工業製品伸び率は年間売上高2,000万元以上の企業の合計である。
2011年から、固定資産投資額の統計対象は計画投資額が50万元以上から500万元以上に引き上げた。また、都市部と農村部を統合し、「固定資産投資（農家除く）」として統計している。農家の固定資産投資については別途集計している。
外貨準備高は各年末の数値。
対内直接投資には、銀行・証券業を除く。
対外直接投資には、金融業を含む。
2021年の実質GDP成長率は、中国国家統計局が2022年1月18日に発表した数値。
※は2022年第1四半期の値である。
（出所）中国国家統計局、中国商務部、中国税関総署、国家外貨管理局の資料より作成

上昇を抑えた。非食品のうち、ガソリン、ディーゼル、液化石油ガスはそれぞれ27.6%、30.1%、26.9%上昇した。

貿易に関しては、中国税関総署の公表データによると、2022年1−5月の貿易総額は前年同期比10.3%増の2兆5146.8億ドルである。うち輸出は1兆4025.7億ドルで同13.5%増、輸入は1兆1121.1億ドルで同6.6%増、貿易収支は2904.6億ドルの黒字であった。中国商務部の統計によれば、2022年1−5月の対内（対中）直接投資額（実行ベース、銀行・証券除く）は5642億元で前年同期比17.3%増加した。同年1−5月に、中国からの対外直接投資（全産業）は3684.8億元で、前年同期比2%減（米ドルに換算すると、572.5億ドル、同1.3%減）であり、金融業向けの対外直接投資を除くと2870.6億元で、同2.3%増（米ドルに換算すると、446億ドル、同3.6%増）であった。うち「一帯一路」沿線国への対外直接投資（金融業を除く）は527.1億元（81.9億ドル）で前年同期比9.4%増である。

新型コロナ感染症の影響による失業率の上昇

2020年からの新型コロナ感染拡大の影響で企業の生産活動は打撃を受け、中国の失業率は上昇した。中国統計局によれば、新型コロナ感染症発生前の2019年では、都市部の調査失業率は5.0%〜5.3%で、うち25〜59歳の主要労働年齢人口の失業率は毎月5.0%以下であった。2020年に都市部の調査失業率は年平均5.6%まで上昇したが、2021年に年平均5.1%まで改善し、2021年下半期、25〜59歳の主要労働年齢人口の失業率は4.5%以下まで抑えられた。2022年3月中下旬から、一部の地域では新型コロナ感染症が再発した影響で求人が減り、失業率が上昇した。3月に都市部の調査失業率は5.8%になり、4月に6.1%まで悪化した。5月には5.9%で4月より若干改善したが、特に若年層の失業率が高く、16〜24歳人口の失業率は18.4%となった。

中国は1999年より大学入学定員数を拡大したため大学新卒人数は毎年増え続け、2002年に133.7万人であったが、2021年に909万人まで増加し、大卒の就職難がすでに大きな問題になっていた。2022年の大学新卒人数はさらに1076万人になると報道されている。中国の大学は6、7月に卒業するので、新型コロナ感染症再発の影響で今年の大卒就職難は一層厳しくなると見られている。中国国務院は5月13日に、大学卒業生の就職対策として、「大学卒業生等青年の就業創業任務をさらに適切に実施することに関する国務院弁公庁の通知」（国弁発［2022］13号）を発表し、大学新卒者を雇用する中小・零細企業に対して社会保険料の補助や助成金を支給するほか、起業する大学卒業生に対して助成金やオフィスの提供などの補助を実施している。若年層の就職問題は社会安定と密接に関わっており、今後も注目される。

ERINA 調査研究部研究主任
李　春霞

●ロシア

2022年1～5月のロシア経済

世界の多くの国々と同様、ロシアにおいても2021年は前年のコロナ禍からの経済回復の年となった。続く2022年には、世界経済の拡大が期待される中、ロシアにおいても経済成長が続くものと期待された。しかし、2月24日にロシアがウクライナへの侵攻を開始したことで、状況は大きく変化した。日米欧など各国は2月26日以降、ロシア（およびベラルーシ）に対する様々な経済制裁を科してきており、またロシア自体も対抗措置を講じることで経済活動に制約が生じている。こうした状況は、当然のことながら、ロシアのマクロ経済に大きな影を落とす。

6月末時点までに公表されている各種の公式統計にも変調が表れている。ロシア連邦統計庁が発表する総合指標である経済基礎部門商品・サービス生産高を見ると、2022年1月は8.1%増（対前年同月比、以下同）、2月は5.4%増と、前年から続く比較的高い増加率を維持していたが、3月は1.9%に減速し、4月は2.6%の減少に転じた。

GDP統計は計算に一定の時間を要するため、最新の数値は6月24日に発表された第1四半期の速報値である。それによれば、実質GDP増加率は対前年同期比3.5%で、やや減速しているものの、プラス成長を続けている。ただし、経済発展省による独自の簡易GDP推計では、3月は対前年同月比で1.3%増だったものの、4月には減少に転じて2.8%減、5月は減少幅を広げて4.3%減となった。9月に公表される第2四半期のGDP成長率がマイナスとなることは確実である。

経済活動の低下が顕著なのは商業部門であり、小売売上高は4月が9.8%減（対前年同月比、以下同）、5月は10.1%減であった。鉱工業生産や貨物輸送量も、減少幅は小さいものの2か月連続でマイナスを記録している。

他方、経済制裁発動直後に大きくルーブル安に振れた対ドルレートは、その後ルーブル高に転じた。足元では、2010年代半ばころの1ドル50ルーブル台の水準となっている。3月のルーブル急落時に導入された、輸出事業者に対する外貨の強制売却措置などが奏功した面もある。ただ、同時期に行われた中央銀行による政策金利の大幅引き上げ（2月28日にそれまでの9.5%から20%）は、その後順次引き下げられて6月10日には9.5%に戻ったほか、外貨売却も条件が緩和されてきており、足元のルーブル高はロシア政府が人為的にもたらしたものとはいいがたい。西側の経済制裁によって、ロシアから海外への送金が大きく制約されたり、対ロシア禁輸リストが拡大されたりして、輸入が減少していることがルーブル高の要因の一つとなっているものと推測される。

ロシアの経済関連の公式統計入手の制約

対ロシア経済制裁の発動以降、ロシア政府は「手の内を明かさない」よう統計データをはじめ様々な情報を秘匿するようになった。

例えば、税関統計の月次データは2022年2月分までしか公表されていない。統計庁の資料の注には、アントン・シルアノフ副首相の指示により一時的に外国貿易データの公表が停止されている旨が記載されている。

このほか、連邦議会では外貨準備高を国家機密情報に含めるとの法律改正が議論されている。

制度や方針を変更することについての特段の発表もなく、単にウェブサイトにアクセスできなくなっている省庁もある。接続環境にもよって異なる可能性もあるが、筆者の環境では、最近、財務省、経済発展省、エネルギー省などにアクセスすることができていない。サイトが閉鎖になっているわけではなく、ロシア国内からはアクセス可能となっている模様だ。また、アクセス可否の状況も流動的で、しばらくアクセスできない時期が続いていた税関庁のサイトは、7月4日現在、再びアクセスできるようになっている。

今後ますます、統計データや公的な報告書などを参照する機会が減ることにより、ロシア経済の動向把握は困難になっていくことが危惧される。

ERINA 調査研究部長・主任研究員
新井洋史

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
GDP・実質成長率（%）(1)	4.0	1.8	0.7	▲ 2.0	0.2	1.8	2.8	2.2	▲ 2.7	4.7
固定資本投資・実質増減率（%）(1)	6.8	0.8	▲ 1.5	▲ 10.1	▲ 0.2	4.8	5.4	2.1	▲ 0.5	7.7
鉱工業生産高・実質増減率（%）(2)	3.4	0.4	2.0	0.2	1.8	3.7	3.5	3.4	▲ 2.1	5.3
輸送貨物量・実質増減率（%）(1)	2.9	0.6	▲ 0.1	0.6	1.8	5.6	2.7	0.8	▲ 4.9	5.3
小売売上高・実質増減率（%）(1)	6.3	3.9	2.7	▲ 10.0	▲ 4.8	1.3	2.8	1.9	▲ 3.2	7.8
有料サービス売上高・実質増減率（%）(1)	3.7	2.1	1.3	▲ 2.0	▲ 0.3	0.2	3.2	1.7	▲ 14.6	16.7
実質貨幣可処分所得・増減率（%）(1)	4.6	4.0	▲ 1.2	▲ 2.4	▲ 4.5	▲ 0.5	0.7	1.2	▲ 2.0	3.0
消費者物価（%）(3)	6.6	6.5	11.4	12.9	5.4	2.5	4.3	3.0	4.9	8.4
輸出額（10 億ドル、通関データ）(4)	524.7	527.3	497.8	343.5	285.8	357.8	449.6	424.5	337.1	491.6
輸入額（10 億ドル、通関データ）(4)	317.2	315.0	286.7	182.7	182.3	227.5	238.5	244.3	231.7	293.4
為替相場（ドル／ルーブル）(5)	30.4	32.7	56.3	72.9	60.7	57.6	69.5	61.9	73.9	74.3
原油価格（ブレント、ドル／バレル）(6)	111.6	108.6	99.0	52.3	43.6	54.1	71.3	64.3	42.0	70.9

	2020				2021				2022			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
GDP・実質成長率（%）(1)	1.5	▲ 7.4	▲ 3.3	▲ 1.3	▲ 0.3	10.5	4.0	5.0	3.5	-		
固定資本投資・実質増減率（%）(1)	4.2	▲ 4.6	▲ 5.1	3.0	3.3	11.0	7.9	7.6	12.8	-		
鉱工業生産高・実質増減率（%）(2)	3.2	▲ 6.2	▲ 4.3	▲ 0.8	▲ 1.4	9.6	6.0	7.1	5.9	-		
輸送貨物量・実質増減率（%）(1)	▲ 3.9	▲ 8.2	▲ 5.2	▲ 2.3	0.5	10.1	6.8	4.1	4.2	-		
小売売上高・実質増減率（%）(1)	4.9	▲ 15.1	▲ 0.8	▲ 1.7	▲ 1.4	24.3	5.9	4.7	3.5	-		
有料サービス売上高・実質増減率（%）(1)	0.5	▲ 34.9	▲ 13.9	▲ 9.8	▲ 3.2	53.2	16.4	12.6	7.8	-		
実質貨幣可処分所得・増減率（%）(1)	2.6	▲ 6.1	▲ 3.9	▲ 0.5	▲ 4.0	7.0	8.9	0.0	1.2	-		
消費者物価（%）(3)	2.4	3.1	3.5	4.4	5.6	6.0	6.8	8.3	11.5	-		
輸出額（10 億ドル、通関データ）(4)	90.7	71.5	79.8	95.1	93.7	115.6	133.4	148.9	-	-		
輸入額（10 億ドル、通関データ）(4)	53.5	52.4	58.0	67.7	62.4	74.2	75.1	81.7	-	-		
為替相場（ドル／ルーブル）(5)	69.3	71.5	75.9	76.4	75.5	73.4	73.2	73.3	81.8			
原油価格（ブレント、ドル／バレル）(6)	50.4	29.3	43.0	44.3	60.8	68.8	73.5	79.6	100.3	-		

	2021											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
経済基礎部門商品・サービス生産高 (7)	▲ 1.5	▲ 2.1	3.4	13.7	14.3	11.3	6.2	4.0	4.1	6.0	7.0	5.6
鉱工業生産高・実質増減率（%） (2)	▲ 2.3	▲ 3.7	1.6	7.1	11.7	10.0	6.8	4.5	6.8	7.6	7.6	6.1
輸送貨物量・実質増減率（%） (1)	▲ 2.2	▲ 0.6	4.1	6.3	11.3	13.1	9.3	6.0	5.2	5.7	5.6	2.8
小売売上高・実質増減率（%） (1)	1.1	▲ 0.7	▲ 2.5	36.3	28.0	11.5	5.7	5.8	6.2	4.6	3.6	5.6
有料サービス売上高・実質増減率（%） (1)	▲ 8.9	▲ 5.3	4.7	59.8	60.2	41.2	21.9	15.2	12.7	13.0	14.0	10.9
消費者物価（%） (3)	0.7	0.8	0.7	0.6	0.7	0.7	0.3	0.2	0.6	1.1	1.0	0.8
輸出額（10億ドル、通関データ） (4)	27.0	30.3	36.5	36.9	35.3	43.4	45.5	42.8	45.1	-	-	56.8
輸入額（10億ドル、通関データ） (4)	16.8	20.6	25.0	25.3	24.1	24.8	25.4	25.1	24.6	-	26.8	29.4
為替相場（ドル／ルーブル） (5)	76.3	74.4	75.7	74.4	73.6	72.4	73.1	73.6	72.8	70.5	75.0	74.3
原油価格（ブレント、ドル／バレル） (6)	54.8	62.3	65.4	64.8	68.5	73.2	75.2	70.8	74.5	83.5	81.1	74.2

	2022											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
経済基礎部門商品・サービス生産高 (7)	8.1	5.4	1.9	▲ 2.6	-	-						
鉱工業生産高・実質増減率（%） (2)	8.6	6.3	3.0	▲ 1.6	▲ 1.7	-						
輸送貨物量・実質増減率（%） (1)	7.8	1.1	3.6	▲ 1.5	▲ 1.8	-						
小売売上高・実質増減率（%） (1)	3.1	5.5	2.0	▲ 9.8	▲ 10.1	-						
有料サービス売上高・実質増減率（%） (1)	11.6	8.2	4.0	0.9	0.8	-						
消費者物価（%） (3)	1.0	1.2	7.6	1.6	0.1	-						
輸出額（10億ドル、通関データ） (4)	-	-	-	-	-	-						
輸入額（10億ドル、通関データ） (4)	-	-	-	-	-	-						
為替相場（ドル／ルーブル） (5)	77.8	83.6	84.1	71.0	63.1	-						
原油価格（ブレント、ドル／バレル） (6)	86.5	97.1	117.3	104.6	113.3	-						

出所・注：
(1)『ロシア短期経済指標（2022年5月）』（2022年6月30日）の数値。
(2) OKVED・第2版の産業部門分類（2018年価格）に基づく。『ロシア短期経済指標（2022年5月）』（2022年6月30日）の数値。
(3) ロススタットウェブサイト掲載値（2022年6月8日更新値）。年次データは前年12月比、四半期データは対前年同期比、月次データは前月末比の増減率である。
(4) UISISデータ（2022年6月25日更新値）。
(5) 年次・月次データは、期末の数値。四半期は月次データの平均値。『ロシア短期経済指標（2022年5月）』（2022年6月30日）の数値。
(6) スポット価格。四半期データは月次データの平均値。アメリカ合衆国エネルギー省（2022年6月29日更新値）。
(7) 前年同月比増減率（%）。省庁間統一情報統計システム（UISISデータベース）の2022年6月6日更新値。

●モンゴル

消費者信頼感指数（CCI）

モンゴルの消費者の経済に対する信頼は、2022年の第2四半期においても安定している。消費者信頼感指数（CCI）は、前四半期より0.3ポイント高く、87.5である。

消費者の現在のビジネスおよび労働市場の状況の評価から計算された現況指数は、73から110に劇的に上昇した。一方、消費者の短期的な見通しを示す予想指数は、92から80まで大幅に低下した。

第2四半期には、現況に対する消費者の評価はより楽観的になったが、今後6か月の経済の見通しは、第1四半期よりも楽観的ではなくなった。高インフレと金融引き締め政策が、消費者の楽観主義を弱めた可能性がある。

景気が「悪い」とする消費者の比率は20.4%ポイント下がった。労働市場に対する消費者の評価は高まっている。消費者の23.8%が、就職機会が豊富であると回答し、前四半期より1.4%ポイント高くなっている。消費者の30.6%が職を手に入れるのが難しいと答えており、これは前四半期より12.5%ポイント低くなっている。

今後6カ月の予想

近い将来の消費者の期待はまちまちである。消費者の17.3%は近い将来の景気が良いと考えており、前四半期より0.3%ポイント高い。23.6%が近い将来の景気が悪いと考えているが、これは前四半期と同水準である。消費者の12.3%は、仕事を得る可能性が高まると考えており、前四半期から4.8%ポイント低下している。22.7%は雇用が悪化すると考えており、前四半期から6.5%ポイント上昇している。消費者の18.0%は収入が増加すると考えており、前四半期から0.8%ポイント上昇している。12.7%は収入が増加すると考えており、前四半期から2.5%ポイント上昇している。

2022年の第2四半期には、耐久消費財の需要が前年同期と比較して増加した。この増加は主に観光業の増加によるもので、3倍に増加し、パンデミック前の2019年のレベルに達した。次の6カ月で、消費者の13.7%が車の購入を計画し、8.9%が不動産の購入を計画し、16.6%が大型家電製品の購入を計画し、ほぼ30%が旅行を計画している。

2022年の第2四半期の時点で、今後6カ月の予想インフレ率は9.5%と推定され、前期の同じレベルと同じである。2023年の第2四半期のインフレ率は11.4%になると予想されている。これも前年同期と同じ水準を維持している。

今後6カ月の予想インフレ率は場所によって異なるが、来年の予想インフレ率はウランバートルと農村地域で同じである。ウランバートルの消費者は、今後6カ月のインフレ率が約9.3%になると予想しており、地方の消費者は9.8%になると予想している。翌年の予想インフレ率は、両方で11.4パーセントとなっている。

調査参加者の57.1%は、米ドルの為替レートが前四半期より7.7%ポイント上昇すると予想している。消費者は、今後6カ月間で1USD =3234トゥグルグの為替レートを予想している。2022年第2四半期の実際の為替レート1USD =3124トゥグルグと比較すると、予想為替レートは約110トゥグルグ減価している。

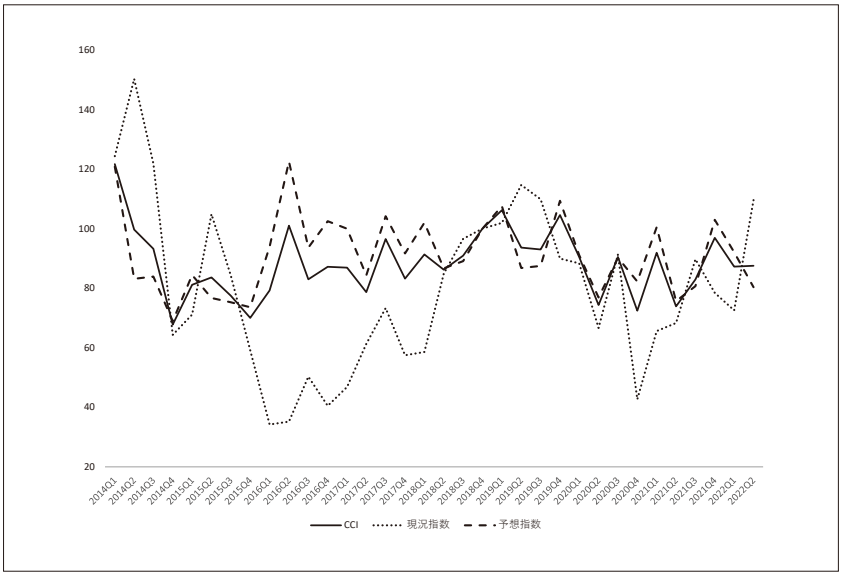
住宅価格予想指数は、来年の住宅価格の変動に対する消費者の認識に基づいて算出されている。消費者が、住宅価格が安定すると予想する場合、この指数は100を取る。消費者が住宅価格の上昇を期待している場合、指数は100を超え、消費者が価格の低下を予想する場合、指数は100未満となる。2022年の第2四半期には、回答者の73.4%が住宅価格の上昇を予想しており、指数は前四半期の185よりもわずかに高くなっている。

国立調査コンサルティングセンター（NRCC）所長
モンゴル国立大学経済学部准教授
バトチュルン・アルタンツェツェゲ

モンゴル日本人材開発センター所長
ツェンドダワー・ダワードルジ

NRCC研究員・モンゴル国立大学経済学部准教授
バトベヘ・ソヨルマー

図　消費者信頼感指数（CCI）



●韓　国

マクロ経済動向

韓国銀行（中央銀行）が6月8日に公表した2022年第1四半期の成長率（改定値）は、季節調整値で前期比0.6%となり、前期の同1.3%を下回った。需要項目別に見ると内需では、最終消費支出は同▲0.4%で前期の同1.5%からマイナスに転じた。固定資本形成は同▲2.6%で、やはり前期の同1.1%からマイナスに転じた。その内訳では建設投資は同▲3.9%で、前期の同2.0%からマイナスに転じた。設備投資は同▲3.9%となり、前期の同▲0.2%からマイナス幅が拡大した。外需である財・サービスの輸出は半導体、化学製品が伸びて同3.6%となり前期の同3.2%から上昇した。一方で財・サービスの輸入は機械類の減少により同▲0.6%となっている。

2022年第1四半期の鉱工業生産指数伸び率は季節調整値で前期比3.8%となり、前期の同1.1%から上昇した。月次では季節調整値で、2022年4月に前月比▲3.3%、5月に同0.1%と大きく低下している。

2022年第1四半期の失業率は季節調整値で3.2%であった。月次では2022年4月に2.7%、5月は2.8%となっている。

2022年第1四半期の貿易収支（IMF方式）は107億ドルの黒字で前期の167億ドルから減少している。また4月の貿易収支は29億ドルの黒字であった。

2022年第1四半期の対ドル為替レートは1ドル=1205ウォン、月次では2022年4月に同1235ウォン、5月に同1268ウォン、6月に同1281ウォンと推移している。

2022年第1四半期の消費者物価上昇率は前年同期比3.8%であった。月次では2022年4月に前年同月比4.8%、5月に同5.4%、6月に同6.0%と推移している。2022年第1四半期の生産者物価上昇率は前年同期比8.7%であった。月次では2022年4月に前年同月比9.7%、5月に同9.7%であった。

2022年及び2023年の経済展望

韓国銀行は5月26日に経済見通しを発表した。2022年の成長率は2.7%と予測した。これはコロナ禍からの回復で成長率が高まった2021年の4.0%から低下したものとなっている。また2023年の成長率は2.4%としている。2022年の成長率については、年前半が前年同期比2.8%、年後半が同2.5%と予測している。

2022年の成長率を需要項目別に見ると、内需はまず民間消費が3.7%で、2021年実績の3.6%から若干高まる。一方、設備投資は半導体需要などIT部門では伸びるが、非IT部門では低調となる。全体では▲1.5%となり、2021年実績の8.3%からは大きく低下する。建設投資は全般に低調と見込まれる。住宅建設投資は年後半にある程度の回復が予測される。また非住宅建設投資もサービス産業の業況回復により段階的な回復が予測される。一方で、公共投資の低下により土木投資の伸びは期待できない。これらを合わせて建設投資全体では▲0.5%となり、2021年実績の▲1.5%からはやや改善する見込みである。外需である輸出は、コロナ禍からの回復で急増した2021年の10.0%からは低下するが、経済のデジタル化の進展による半導体需要の持続、また半導体等の自動車部品の供給の回復による輸出の増加により3.3%となるとしている。

2022年の失業率については3.1%で2021年の3.7%から低下するとしている。雇用者数の増加は58万人で2021年の37万人から増加すると見込んでいる。2023年については、失業率は3.5%、雇用者数の増加は12万人としている。

一方、2022年の消費者物価上昇率は4.5%で、2021年の2.5%から上昇すると予測している。2023年については2.9%としている。

ERINA 調査研究部主任研究員
中島朋義

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月	5月	6月
実質国内総生産（%）	3.2	2.9	2.2	▲ 0.9	4.0	0.8	0.2	1.3	0.6	-	-	-
最終消費支出（%）	3.1	3.7	3.2	▲ 2.4	4.1	3.4	0.4	1.5	▲ 0.4	-	-	-
固定資本形成（%）	9.8	▲ 2.2	▲ 2.1	2.6	2.5	▲ 0.1	▲ 1.7	1.1	▲ 2.6	-	-	-
鉱工業生産指数（%）	2.5	1.5	▲ 0.1	▲ 0.3	7.4	▲ 1.2	1.0	1.1	3.8	▲ 3.3	0.1	-
失業率（%）	3.7	3.8	3.8	4.0	3.7	3.7	3.1	3.4	3.2	2.7	2.8	-
貿易収支（百万USドル）	113,593	110,087	79,812	80,605	76,207	19,149	21,124	16,652	10,731	2,948	-	-
輸出（百万USドル）	580,310	626,267	556,668	517,909	650,015	158,781	165,957	178,019	174,970	58,927	-	-
輸入（百万USドル）	466,717	516,180	476,856	437,305	573,807	139,632	144,833	161,368	164,239	55,979	-	-
為替レート（ウォン/USドル）	1,130	1,101	1,166	1,180	1,145	1,121	1,158	1,183	1,205	1,235	1,268	1,281
生産者物価（%）	3.5	1.9	0.0	▲ 0.5	6.4	6.2	7.4	9.3	8.7	9.7	9.7	-
消費者物価（%）	1.9	1.5	0.4	0.5	2.5	2.5	2.5	3.5	3.8	4.8	5.4	6.0
株価指数（1980.1.4:100）	2,467	2,041	2,198	2,873	2,978	3,297	3,069	2,978	2,758	2,695	2,686	2,333

（注）国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数は前期比伸び率、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、株価指数は期末値
国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数、失業率は季節調整値
国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、生産者物価は2015年基準、消費者物価は2020年基準
貿易収支、輸出入はIMF方式、輸出入はｆｏｂ価格
（出所）韓国銀行、統計庁他

●朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

平安北道と咸鏡南道で人民消費品展示会が開かれる

2022年3月29日発『朝鮮中央通信』によれば、平安北道と咸鏡南道で人民消費品展示会が開かれた。平安北道では展示会に1,000余種の34,500余点の消費品が展示された。咸鏡南道人民消費品展示会には40万余点の製品が出品された。

4月の春親善芸術祝典

2022年4月1日付『朝鮮新報』によれば、第32回「4月の春親善芸術祝典」が国際通信により送られてきた各国の芸術団、芸術人の公演録画物の出品により同年4月10日～20日に行われるとのことである。同祝典の内容は http://www.korart.sca.kp/index.php/april?order=32&language=englishで確認することができる。

金正恩総書記が平壌市普通江畔の護岸段々式住宅地区を視察

2022年4月3日発『朝鮮中央通信』によれば、金正恩総書記が、平壌市中区域瓊楼洞に建設された普通門川岸段々式住宅地区を視察した。趙甬元朝鮮労働党中央委員会組織書記、李熙用朝鮮労働党中央委員会第1副部長、金与正同副部長、玄松月同副部長、キム・ヨンス同副部長が同行した。

金徳訓内閣総理、チョン・サンハク書記、李日煥書記、呉秀容書記、崔相建書記、金才龍部長と金栄煥平壌市党委員会責任書記が同行した。

昨年、金正恩総書記は800世帯におよぶ同住宅は、平壌市1万世帯住宅建設とは別途に、党中央委員会が直接、責任をもって建設を推し進め、今年中に完工して党と国家のために献身的に奉仕している各部門の労働革新者、功労者と科学者、教育者、文筆家をはじめとする勤労者へのプレゼントにするつもりであると述べた。

平壌麺屋創立30周年祝賀式典

2022年4月4日発『朝鮮中央通信』によれば、同月3日、創立30周年を迎える平壌市の平壌麺屋の祝賀式典が開かれ、朝鮮労働党中央委員会の呉秀容書記が祝賀文を伝達した。

平壌農業大学創立40周年

2022年4月11日付『労働新聞』によれば、平壌農業大学が創立40周年を迎えた。同大学は1981年3月28日に創立され、教育と研究において多くの成果を上げたそうである。

「金正恩同志がわが党と国家の最高首位に推戴された10周年慶祝中央報告大会」開催

2022年4月11日付『労働新聞』によれば、同月10日、平壌市の4.25文化会館で「金正恩同志がわが党と国家の最高首位に推戴された10周年慶祝中央報告大会」が行われた。崔竜海国務委員会第1副委員長、最高人民会議常任委員会委員長が報告「金正恩同志の思想と指導を体してチュチェ革命偉業を最後まで完成しよう」を行った。

この報告の中で崔竜海氏は「総書記同志は、偉大な金日成・金正日主義を党の永遠なる指導思想と、全社会の金日成・金正日主義化を党の最高綱領と宣布して朝鮮労働党の建設と活動の不変の指針を確立し、朝鮮労働党の血脈を千秋万代つなぎました」とし、金正恩総書記が金日成・金正日主義を継承したものとしている。また、「朝鮮労働党は人民のためにきつい仕事と楽な仕事をより好みせずに献身する真の人民の党、奉仕者の党にならねばならないということは、総書記同志が新しく示した党建設の思想であり理念です」「総書記同志が偉大な金日成・金正日主義の本質を人民大衆第一主義と規定し、人民に奉仕する気風が全党に満ち溢れさせることによって朝鮮労働党は、人民大衆の心の中に深く根をおろし人民大衆と渾然一体を成した党へとより強化・発展されました」と、金正恩時代になって指導方針に変化があったことを示している。今後、この変化がどこまで大きく取り上げられるようになるのかに注目が集まっている。

金正恩総書記の党と国家の最高首位推戴10周年記念切手発行

2022年4月11日発『朝鮮中央通信』によれば、金正恩総書記が党と国家の最高首位に推戴された10周年を記念した小型シート1枚の記念切手が、国家切手発行局から発行された。

松花通りの竣工式開催

2022年4月12日付『労働新聞』によれば、同月11日松花通りの竣工式が行われ、金正恩総書記が竣工式に出席した。竣工式には、趙甬元朝鮮労働党中央委員会組織書記、金徳訓内閣総理が出席し、李日煥党中央委員会書記と金英煥平壌市党委員会責任書記、平壌市5万世帯分の住宅建設指揮部のメンバー、首都の党、政権機関の活動家、軍民建設者、平壌市民が参加した。

金徳訓総理が、竣工の辞を述べた。その後、金正恩総書記が、松花通り竣工のテープを切った。竣工式が終わった後、党と政府の幹部は松花通りを見て回った。

金徳訓総理は竣工の辞で、「松花通り建設の主力を成した軍人建設者は、総書記同志が与えた平壌市5万世帯住宅建設指揮部の旗を勝利の標柱、偉勲の軍旗としてはためかせて、新しい建設神話、建設奇跡創造の先頭にて嵐をまき起こして疾走することで、党と人民に対する忠誠を命綱として刻んだ革命強兵の威力をあまねく轟かしました」と軍人建設者をねぎらい、「すべての建設者が一体となって繰り広げた忠誠の突撃戦、激しい徹夜戦、首都住民と青年たち夜間支援突撃隊活動、全国勤労者の増産闘争に支えられて今日のこの場が用意されました」と突貫工事を支えた関係者をたたえた。

普通江川岸段々式住宅区の竣工式開催

2022年4月14日付『朝鮮新報』によれば、同月13日、普通江川岸段々式住宅区の竣工式が金正恩総書記の出席のもと行われた。趙甬元朝鮮労働党中央委員会組織書記、金徳訓内閣総理が竣工式に参加した。李日煥党中央委員会書記と金英煥平壌市党委員会責任書記、李熙用党中央委員会第1副部長、党中央委員会の活動家、省、中央機関と首都の党、政権機関、施工単位の活動家、建設者、瓊楼（キョンル）洞に入居する功労者と家族、平壌市民が参加した。

趙甬元組織書記が竣工の辞を述べた。その中で「瓊楼洞の主人たちが今日の感激を永遠に刻み付け、国の宝、集団の先駆者としての誉れ高い生を引き続きつないでいかなければならない」と述べ、この住宅が党中央委員会が功績のある党員に対して与えられるものであることを印象づけた。

その後、金正恩総書記がテープカットを行った。テープカットの後、朝鮮中央放送委員会のリ・チュンヒ、チェ・ソンウォン責任アナウンサーと労働新聞社のトン・テグァン論説委員をはじめとする功労者に会い、温かく祝った。金正恩総書記はリ・チュンヒアナウンサーの手を親しく取り、彼女が暮らすことになる瓊楼洞7号棟に向かい、彼女の家を訪れて、家族部屋をはじめとする部屋をいちいち見て回りながら、家族の感想を肉親の気持ちで情深く聞き、高齢の彼女が家の中の階段を上り下りしながら不便な点がないかを細かく気遣い温情に富む措置も講じた。金正恩総書記は、続いてチェ・ソンウォンアナウンサーとトン・テグァン論説委員の家を訪ね、彼らの家族を温かく祝った。

竣工式に続き、瓊楼洞で暮らすことになる功労者と家族、市内の勤労者は、住宅を見て回った。

最高人民会議常任委員会政令「和盛地区の行政区域名称を定めることについて」

2022年4月15日付『労働新聞』によれば、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会政令第950号、チュチェ111（2022）年4月14日「和盛地区の行政区域名称を定めることについて」が出された。政令の内容は次の通り。

金正恩同志の雄大な首都建設構想に従って、わが国社会主義文明の中心として転変される錦繡山太陽宮殿の周辺一帯の和盛地区に、人民の理想都市が立派に建てられている。

人民の尊厳と幸福が全面的に花咲く富興強国の新世界を早めるためにすべてを服従し志向させる、偉大な党中央の人民大衆第一主義理念と頑強な実践力があるので、和盛地区は大変革を遂げ、首都建設の大繁栄期はさらに輝くであろう。

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会は、和盛地区に偉大な金正恩時代を代表する近代的区画が建設されることに関連して、次のように決定する。

1. 和盛地区を平壌市和盛区域にする。
2. 朝鮮民主主義人民共和国内閣と当該機関は、この政令を執行するための実務的対策を講じるであろう。

金正恩総書記が金日成主席の誕生日に際して錦繡山太陽宮殿を訪れた

2021年4月16日付『労働新聞』によれば、金正恩総書記が李雪主女史と共に太陽節（金日成主席の誕生日）に際して4月15日、錦繡山太陽宮殿を訪れた。崔竜海国務委員会第1副委員長、最高人民会議常任委員会委員長、趙甬元朝鮮労働党中央委員会組織書記、金徳訓内閣総理の同志をはじめ、党と政府の幹部と党中央委員会の活動家、内閣メンバー、勤労者団体の責任活動家がこれに参加した。武力機関の責任活動家が、共に参加した。

金日成主席と金正日総書記の立像に金正恩総書記がささげる花籠が献じられた。

朝鮮労働党中央委員会、朝鮮民主主義人民共和国国務委員会、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会、朝鮮民主主義人民共和国内閣の名義による花籠が献じられた。

金正恩総書記と李雪主女史は参加者と共に、金日成主席と金正日総書記の立像を仰ぎ崇高な敬意を表した。

内閣全員会議拡大会議開催

2022年4月21日付『労働新聞』によれば、同月20日、内閣全員会議拡大会議がビデオ会議で行われた。金徳訓総理が会議を指導し、パク・ジョングン、チョン・ヒョンチョル副総理をはじめとする内閣のメンバーが参加した。内閣直属機関、省機関の活動家、道、市、郡人民委員会委員長、農業指導機関、主要工場、企業所の活動家が傍聴した。

会議では、党中央委員会第8期第4回総会決定を貫徹するための第1四半期人民経済計画実行情況が総括され、上半期人民経済計画実行のための対策が討議された。

パク・ジョングン内閣副総理兼国家計画委員会委員長が報告を行った。報告の中で彼は、人民経済の各部門、単位で、党中央が提示した朝鮮式社会主義建設の偉大な実践綱領を高く奉じ、人民経済計画実行に対する観点をよりしっかりと立てて徹底的に遂行するところに注力したし、人材の力、科学技術の力に依拠して計画実行で成果を収めたと述べた。また、第1四半期計画実行において露になった一部の単位の欠陥と偏向を資料をあげて分析総括しながら彼は、経済政策執行であらわれる形式主義、保身主義をはじめとする誤った現象との闘いをより強い調子で繰り広げることについて指摘した。

会議では討論が行われた。会議は、すべての活動家が、人民経済計画は即ち党の指令であり国家の法であるという自覚を抱き、上半期人民経済計画を無条件で執行するための堅忍不抜の闘争を果敢に展開していくことについて強調した。

それとともに、経済発展を妨げる否定的現象を克服し、国の経済が円滑に運営されるように朝鮮式経済管理方法を絶え間なく改善完成していく取り組みに引き続き大きな力を入れていくことについての問題も討議された。

全員会議拡大会議では、整備補強事業を計画通りに、実質的に推し進め、科学技術発展に優先的な力を入れる問題、省・中央機関と道、市、郡人民委員会、農業指導機関で、田植えと草取りをはじめとする営農活動にすべての人員と手段を総動員する問題などが重要に言及され、そのためのしかるべき対策が講究された。

南北首脳が親書交換

2022年4月22日発『朝鮮中央通信』によれば、金正恩総書記は同月20日に韓国の文在寅大統領が送ってきた親書を受け取り、翌21日、回答親書を送った。報道は「文在寅大統領は親書でこれまで難しい状況でも北南首脳が手を取り、朝鮮半島の平和と北南間の協力のために努力してきたことに言及し、退任後にも北南共同宣言が統一の基礎となるように心を共にする意思を披瀝した。金正恩総書記は北南の首脳が歴史的な共同宣言を発表し、民族

に今後の希望を与えてきたことを回顧し、任期の最後まで民族の大義のために心を砕いてきた文在寅大統領の苦悩と労苦について高く評価した。北南両首脳は、お互いが希望を抱いてまがうかたなき努力を続けていけば、北南関係が民族の念願と期待に合わせて改善され発展することになるという見方を共にしながら、北と南の同胞たちそれぞれに温かい挨拶を伝えた。北南首脳の親書交換は深い信頼心の表示となる。」と伝えている。

朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式開催

2022年4月26日付『労働新聞』によれば、同月25日、平壌市の金日成広場で朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝閲兵式が開かれた。金正恩総書記と李雪主女史が参加した。

朴正天朝鮮労働党中央委員会書記、李炳哲書記と李永吉、クォン・ヨンジン、リム・グァンイルの各氏をはじめ武力機関の責任活動家、大連合部隊長、政治委員、連合部隊長が幹部壇に登壇した。

崔竜海国務委員会第1副委員長、最高人民会議常任委員会委員長、趙甬元党中央委員会組織書記、金徳訓国務委員会副委員長が貴賓席についた。

李日煥、チョン・サンハク、呉秀容、太亨徹、金才竜、金英哲、鄭京擇、パク・チョングン、呉日晶、ホ・チョルマン、朴太徳、キム・ヒョンシク、劉進、朴明順、李哲萬、金成男、チョン・ヒョンチョル、チュ・チョルギュ、李善権、李太燮、ウ・サンチョル、金英煥の各氏をはじめ、党と政府の幹部が幹部壇についた。

党と政府、軍部で長い間活動してきた李明秀、太宗秀、崔永林、金京玉の各氏をはじめ、老兵幹部が招待された。

朝鮮人民革命軍創建90周年慶祝行事の参加者が、招待席についた。

金正恩総書記が祝賀演説をした。祝賀演説の内容は、https://kcna.kp/jp/article/q/e30da1bef4848c57353068fea9c7860f.kcmsf で読むことができる。

黄海南北道と開城市で干ばつ防止対策が繰り広げられる

2022年5月1日発『朝鮮中央通信』は、干ばつの被害を防ぐためにさまざまな対策が取られていることを紹介している。記事によれば、「各級農業指導機関の活動家たちは、干ばつによる農作物被害防止事業にすべての力量と手段を総動員し、農業技術的対策を綿密に立てていくように組織と指揮を組んでいる。」「農業委員会では、雨がほとんど降らないと予見される黄海南道と黄海北道、開城市などに活動家たちを派遣し、地域別、単位別に干ばつ発生状況を具体的に調査掌握し、実務的な措置をとっている。」「各道、市、郡の活動家たちは、農場に出向いて当面の営農工程を日程通りに展開して、干ばつ被害を最小化するのにすべての力を集中するようにしている。」「干ばつ現象が現れる圃田から水車や小型揚水機、降雨機をはじめとする水運搬手段と揚水設備を総動員している」とのことである。

金正恩総書記がロシアの対独戦勝記念日に祝電

2022年5月10日付『労働新聞』によれば、金正恩総書記がロシアのプーチン大統領に祝電を送った。祝電の内容は次の通り。

モスクワ
ロシア連邦大統領
ウラジーミル・V・プーチン閣下

私はロシアでの偉大な祖国戦争勝利記念日に際して朝鮮民主主義人民共和国政府と人民の名で、あなたと友好的なロシア政府と人民に最も熱烈な祝賀と温かい挨拶を送ります。

ロシア人民は無比の英雄主義と犠牲的精神を発揮して、人類の運命を脅かしていたファシズムを撃滅する正義の大戦で偉大な勝利を収めました。

ロシア人民の偉勲と功績は正義と平和を愛する世界人民の記憶の中に歴々と刻まれており、永遠に伝わるでしょう。

私は不滅の勝利の伝統を継承して敵対勢力の政治的・軍事的脅威と恐喝を根源的に取り除き、国の尊厳と平和と安全を守り抜くためのロシア人民の偉業に固い連帯を送ります。

戦略的かつ伝統的な朝露親善関係が、時代の要求と両国人民の根本的利益に即して絶えず強化され、発展するであろうと確信します。

朝鮮民主主義人民共和国国務委員長
金正恩
チュチェ111（2022）年5月9日平壌

朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議開催

2021年5月12日付『労働新聞』によれば、朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議が同日、党中央委員会本部庁舎で招集された。

金正恩総書記が会議に参席した。会議には朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員と党中央委員会政治局委員、委員候補が参加した。国家非常防疫部門の活動家と一部の国防省指揮メンバーが傍聴した。

金正恩総書記が会議を司会した。政治局はまず、党中央委員会総会を招集することに関する問題を討議した。会議では、2022年度党・国家政策執行中の状況に関する中間総括を行い、一連の重要問題を討議、決定するために、6月上旬に党中央委員会第8期第5回総会を招集することに関する朝鮮労働党中央委員会政治局決定書が全会一致で採択された。

政治局は次に、国家の前に引き起こされた防疫危機状況に対処するための問題を討議した。政治局は次のように認めた。

2020年2月から今日に至る2年3カ月にわたってしっかり守ってきたわれわれの非常防疫戦線に破孔が生じる国家最重大非常事件が発生した。国家非常防疫指揮部と当該単位では、去る5月8日、首都のある団体の複数の有熱者から採集した検体に対する厳格な遺伝子配列分析の結果を審議し、最近、世界的に急速に拡散しているオミクロン変異株「BA.2」と一致すると結論した。

会議では、全国的な拡散状況が通報され、今後防疫戦において戦略的主導権を握るための緊急対策が上程、審議された。政治局は、わが国の周辺地域をはじめ、世界的に各種の変異株感染者が増え

る保健状況に敏感に対応しなかった、防疫部門の無警戒と油断、無責任と無能を批判した。

政治局は、引き起こされた現状況に対処して国家防疫体系を最大非常防疫体系へと移行することが必要であるということについて認めた。各級党、行政、経済機関、安全、保衛、国防部門をはじめ、国のすべての機関、すべての部門で最大非常防疫体系が稼動されることに応じて、事業体系をしっかりと立てて、国家事業が円滑に行われるようにするための諸般の措置が講究された。

会議では、造成された防疫危機状況に即して、国家防疫活動を最大非常防疫体系へと移行することに関する朝鮮労働党中央委員会政治局決定書が採択された。

金正恩総書記は会議を締めくくりながら、非常防疫活動において徹底的に堅持すべき原則と課題を提起した。金正恩総書記は、現在わが国で起こっている防疫危機状況について概括分析し、今回の最大非常防疫体系の主たる目的は、わが国の境内に浸透した新型コロナウイルスの拡散状況を安定的に抑制、管理し、感染者をはやく治癒して拡散根源を最短期間内になくそうとするところにあると述べた。金正恩総書記は、今われわれにとって悪性ウイルスより更に危険な敵は、非科学的な恐怖と信念不足、意志薄弱であるとしながら、われわれには党と政府、人民が一致団結した強い組織力があり、長期化した非常防疫闘争過程で培われ打ち固められた人々の高い政治意識と高度の自覚性があるので、ぶつかる突発事態に必ず打ち勝ち、非常防疫活動で勝利することになるであろうと確言した。

金正恩総書記は、全国のすべての市、郡で、自分の地域を徹底的に封鎖し、事業単位、生産単位、生活単位別に隔離した状態で事業と生産活動を組織して、悪性ウイルスの拡散空間を隙間なく完璧に遮断することについて述べた。

科学的で集中的な検査と治療戦闘を早急に組織展開する必要性について強調しながら、党と政府が現在のような非常時を予見して備蓄しておいた医療品の予備を動員するための措置を稼動することにしたと述べた。

保健医療部門と非常防疫部門においては、全住民集中検病検診を厳格に行ない、医学的監視と積極的な治療対策を講じるとともに、活動空間、作業空間、生活空間の隅々に至るまで消毒活動を強化して、悪性伝染病の拡散根源を遮断、掃滅させることについて指摘した。

金正恩総書記は、現在の防疫形勢が厳しいとしても社会主義建設の全面的発展に向けたわれわれの前進を止めることはできず、計画された経済活動で絶対に逃すことがあってはならないと述べながら、内閣をはじめとする国家経済指導機関と当該単位が国家防疫体系を最大非常防疫体系へと移行することに応じて、経済活動に対する手配と指導、指揮をさらに抜かりなく行うことで、当面の営農活動、重要工業部門と工場、企業所での生産を最大限促し、和盛地区1万世帯住宅建設と連浦温室農場建設のような人民のためのわが党の宿願事業を、期日内に遜色なく完成しなければならないと強調した。

党および政権機関が、強力な封鎖環境の下で人民が被ることになる不便と苦衷を最小化し、生活を安定させ、小さな否定的現象も現れないように徹底的な対策を講じなければならないと述べた。国家防衛の前哨線をいっそうしっかりと固め、防疫大戦の勝利を武力で裏付けることについて強調しながら、前線と国境、海上、空中で警戒勤務をさらに強化し、国防において安全空白が生じないように万全を期すことについて特別に強調した。

金正恩総書記は、歴史のあらゆる曲径に打ち勝ち、偉大な生命力を発揮してきたわが党と国家の人民大衆第一主義政治と一心団結したわが人民の力は、今回の防疫大戦で勝利することのできる最も威力ある保証としながら、すべての党組織と政権機関が、人民の生命・安全を死守するための今日の防疫大戦で、党と革命に対する忠実性、人民に対する献身性、自らの任務に対する責任性を実践で検証されなければならないと述べた。

金正恩総書記は、全人民と人民軍の将兵が信念を固くし、偉大な力を倍加して防疫大戦を勝利のうちに締めくくることで、われわれの信念、われわれの意志、われわれの団結によってわれわれ自身の貴重な生命と生活と未来を、最後まで守りぬこうと熱烈に訴えた。

朝鮮労働党中央委員会政治局は、党中央軍事委員会非常指示文と内閣非常指示文を審議・承認し、下達することとした。

金正恩総書記が国家非常防疫司令部を訪問し、全国的な非常防疫状況を検討

2022年5月13日付『労働新聞』によれば、同月12日、金正恩総書記が国家非常防疫司令部を訪問した。朝鮮労働党中央委員会書記である、趙甬元、朴正天両氏が同行した。

金正恩総書記は、国家非常防疫司令部内の指揮室を見て回りながら、発生した防疫危機状況に対処して国家防疫活動を最大非常防疫体系へと移行した後の1日間の防疫実態について点検し、全国的な伝播状況を検討した。

金正恩総書記は、熱病が首都圏を中心にして同時多発的に伝播・拡散したということは、われわれがすでに確立しておいた防疫体系にも盲点があるということを示していると深刻に指摘した。

金正恩総書記は、悪性ウイルスの伝播を抑制するうえで、全国のすべての道、市、郡で自分の地域を封鎖し、住民の便宜を最大に図りながら事業単位、生産単位、住居単位別に、封鎖措置をとることが持つ重要性について改めて強調した。

金正恩総書記は、国家的な非常防疫指針を厳格に遵守して、悪性伝染病の伝播を抑制して安定させ、人民が国家の非常措置を正確に理解し、その実行において高度な自覚性を発揮するように政治宣伝を攻勢的に展開することについて述べた。

朝鮮労働党中央委員会政治局協議会開催

2022年5月14日付『労働新聞』によれば、朝鮮労働党中央委員会政治局は最大非常防疫体系の稼動実態を点検し、政治実務的対策を補強するために、同日、党中央委員会本部庁舎で協議会を招集した。

金正恩総書記が協議会を指導した。協

議会には、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員と党中央委員会政治局委員、委員候補が参加した。国家非常防疫部門活動家と保健省の責任活動家が傍聴した。

政治局はまず、5月13日現在、伝染病拡散状況に対する国家非常防疫司令部の報告を聴取した。政治局は、全国的規模で拡散拡大している伝染病状況を迅速に抑制、管理し、戦略的主導権を確固と握るための政治的実務的対策を討議した。

協議会では、最大非常防疫体系の要求に即して、緊急解除する予備医薬品を迅速に普及させるための問題が集中討議された。必要とされる薬品の輸送と供給に国家的な手段と人員を総動員して、医薬品が患者に適時に、適実に伝達・利用されるようにするための実務的手順が改めて確定した。

協議会ではまた、保健医療部門の物質的・技術的基盤を迅速に強化するための、実務的対策を取ることに関する問題、非常防疫活動を妨げるあらゆる否定的現象を強く打撃するための法律的対策を講じることに関する問題などが討議された。

朝鮮労働党中央委員会政治局協議会再び開催

2022年5月16日付『労働新聞』によれば、朝鮮労働党中央委員会政治局は最大非常防疫体系の稼動実態を点検し、政治実務的対策を補強するために、同月15日、協議会を再び招集した。

金正恩総書記が、協議会を指導した。協議会には、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員と党中央委員会政治局委員、委員候補が参加した。国家非常防疫部門の活動家たちと保健省の責任活動家が傍聴した。

政治局は、5月15日現在の伝染病拡散状況に対する国家非常防疫司令部の報告を聴取した。協議会では、国家防疫システムが最大非常防疫システムに移行した後の全般的な防疫実態を再点検し、医薬品供給で現れた偏向を早急に正すための問題を集中討議した。

金正恩総書記は、全国的な医薬品供給状況に言及し、党中央委員会政治局が伝染病拡散状況を迅速に抑止、管理するために国家予備医薬品を緊急解除して早急に普及することに関する非常指示まで下達し、全ての薬局が24時間運営システムに移行することについて指示したが、いまだに動員性を整えられず、実行が正しくなっておらず、医薬品が薬局に適時に供給されていない現在の実態を分析した。

金正恩総書記は、国家が調達する医薬品が薬局を通じて住民に適時に、正確に行き届いていないのは、その直接的実行者である内閣と保健医療部門の活動家が現在の危機状況に対する認識を正しく持てず、人民への献身的奉仕精神を口で唱えるだけで積極的に乗り出していないことに起因すると述べ、内閣と保健医療部門の無責任な活動態度と組織・実行力について強く批判した。

金正恩総書記は、党政策の実行を法的に強力に保証すべき司法、検察部門が医薬品保障に関連する行政命令が迅速かつ正確に施行されるように法的監視と統制をまともに行えずにおり、全国的に医薬品取扱および販売で現れているいろいろな否定的傾向を正すことができずにいることについて指摘し、厳しい時局にさえ何の責任も、呵責も感じず、何の役割も果たせない中央検察所所長の職務怠業、職務怠慢行為を辛辣に叱責した。

金正恩総書記は、防疫活動全般で現れている一連の偏向を指摘し、それを早急に直すための実務的対策を取った。金正恩総書記は、人民軍の軍医部門の強力な力量を投入して平壌市内の医薬品供給活動を即時安定させることに関する朝鮮労働党中央軍事委員会の特別命令を下達した。

金正恩総書記は、全ての幹部が最大の奮発力と闘志、非常に高い能力と知恵を発揮しなくてはこんにちの防疫戦争で戦略的主導権を確固と握ることができないと述べた。

金正恩総書記は、先鋭な防疫戦争で高度の緊張性と警戒心を堅持し、全ての事業を科学的に細密に作戦、指揮していささかの手落ちと盲点も許してはならないと強調し、活動家が実質的な活動、実質的な結果によって防疫闘争を主導していくべきであると述べた。

金正恩総書記は、国の現在の防疫形勢に対する詳細な分析に基づいて防疫政策をより効率的に実施するための方途的問題を討議し、当面の闘争方向と目標を提示した。

協議会ではまた、非常防疫活動に対する国家の行政統制力をいっそう強化する問題、薬局で医薬品取扱の衛生安全性を徹底的に保障する問題、防疫活動に対する法的統制の度合いをいっそう強める問題、国家的な危機対応能力を向上させる問題などが討議された。

金正恩総書記は、党中央委員会政治局協議会を終えてすぐ平壌市内の複数の薬局を訪れて医薬品供給実態を直接調べた。

趙甬元朝鮮労働党中央委員会組織書記、金徳訓総理とチェ・ギョンチョル保健相、党中央委員会の当該の部署の幹部らが同行した。金正恩総書記の指示に従って党中央委員会政治局委員、委員候補も平壌市内の複数の薬局を現場で調べた。

金正恩総書記は、大同江区域に位置している複数の薬局に立ち寄って医薬品供給および販売状況について具体的に調べた。金正恩総書記は、最大非常防疫システムが稼動された以降、何の薬が供給されたのか、薬品を規定通りに保管しているのか、薬局が24時間サービスシステムに転換したのか、患者が訪ねてきた時に相談はするのか、解熱剤と抗生剤はどんなものがあるのか、住民がいまいちばん多く購入する薬はどんな薬であり、値段はいくらであるのかを細心に調べた。

金正恩総書記は、医薬品供給システムの盲点を正し、医薬品輸送に関連する強力な実行対策を立てることについて重ねて強調した。金正恩総書記は、いま全般的な薬局がその機能を円滑に遂行できるように整えておらず、陳列場以外に薬品保管場所も別にない立ち遅れた状況であると述べ、販売員が衛生服装もまともに整えていない状態でサービスをしている実態と基準に到達していない衛生環境問題についても指摘した。

新型コロナウイルス感染症治療マニュアルを作成、示達

2022年5月18日付『労働新聞』によれ

ば、新型コロナウイルス感染症治療マニュアルが作成され、中央と地方の各級治療・予防機関と当該単位に示達されたとのことだ。

保健医療、防疫部門では、人々の中で科学的な治療法をよく知らなかったことから薬物過多服用をはじめとする過失により人命被害が招かれたことに合わせて、専門性のあるマニュアルを早急に作成するための事業を積極的に展開して、科学的で合理的な治療マニュアルを作成した。

新型コロナウイルス感染症治療マニュアルは、大人用、子供用、妊産婦用に区分されている。マニュアルには、新型コロナウイルスに対する定義と共に、感染症患者確診指標には、疫学関係、臨床症状、RT-PCR 検査、抗体検査があり、ここで、1つの指標が陽性になった場合、確診になるということが明らかになっている。

また新型コロナウイルス感染症の重症度判定規準が細部にわたって明らかになっており、薬物治療は病気経過と重症度に従って個別化し、年齢と体質、体重に従い薬物を選択し、容量を確定するなど、一般的治療原則が反映されている。

また、それぞれ異なった症状と随伴症、特異体質患者に応じたさまざまな治療戦術と治療効果判定規準が言及されているとのことだ。

朝鮮労働党中央委員会政治局協議会開催

2022年5月21日付『労働新聞』によれば、朝鮮労働党中央委員会政治局は5月21日、党中央委員会本部庁舎で協議会を招集し、現在の国家防疫能力の整備補強と党中央委員会第8期第5回総会の準備事業に関する問題を討議した。

金正恩総書記が、協議会を指導した。協議会には、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員と党中央委員会政治局委員、委員候補が参加した。国家非常防疫部門の活動家と保健省の責任活動家が傍聴した。

政治局は同年5月20日現在の伝染病拡散状況に関する国家非常防疫司令部の報告を聴取した。

協議会ではまず、国の全般的な伝染病拡散状況が安定的に抑制、管理されていることに即して、党と国家の防疫政策をより効率的に制御実施するための問題を討議した。

政治局は、国家防疫体系を最大非常防疫体系へと移行することに関する党中央の決定と指示に従い、悪性伝染病との戦争で英雄朝鮮の力、英雄朝鮮の精神を満天下に誇示するための全人民的な防疫闘争が展開されたことで、全国的な拡散状況が次第に抑制され、全快者数が日を追うごとに増え、死者数が著しく減るなど、全般的地域で安定の形勢を維持していることについて評価した。

金正恩総書記は悪性ウイルスとの防疫戦戦争が始まった去る9日間の防疫活動実態を概括・分析した。金正恩総書記は、国家非常防疫活動が肯定的な推移を見せていることについて述べながら、今日の防疫戦で成し遂げた成果は、わが党の正確な指導と朝鮮式社会主義制度の政治的・思想的優勢、特有の組織力と団結力がもたらした成果であると述べた。

金正恩総書記は、防疫政策を形勢に即して絶えず機動的に調整して最適化し、それに伴う国家戦略と戦術を取ったことで、全般的防疫戦線で引き続き勝勢を握りしめていくとともに、経済全般を活性化できるように、各方面の対策を講じることについて強調した。

金正恩総書記は、世界的な悪性伝染病発生事態以降、2年以上もわが党が維持してきた防疫措置と現在の国家防疫指針と規定、実行過程で体得した経験と教訓について全党的にもう一度想起、武装させて、現在の危機状況を克服するうえで提起される党組織の任務と役割、党員の使命を再認識させ、全人民の自覚性を向上させるべきであると述べた。

金正恩総書記は、伝染病の拡散を最大限抑制し、発熱者、確診者に対する医療的対策を改善していく活動と、わが党が提示した諸般の防疫原則と措置を一貫して握りしめていくことで、われわれの保健防衛線をしっかり守ることに関する重要課題と方途について強調した。

金正恩総書記は鋭敏な考察で国家的な事業での非効率性を捕らえ、国家危機対応能力の画期的発展を成し遂げる機会を用意すべきであると述べ、すべての部門、すべての単位で近視眼的で臨時的な対策ではなく、戦略的な眼識で整備・補強を強く推し進め、非常行動計画、非常事業体系を研究樹立すべきであると言及した。

金正恩総書記は、医療活動家の健康保護と生活を保障することに大きな力を注ぎ、共産主義美徳、美風をわが社会の立派な作風として培養し、愛国主義、集団主義、社会主義精神を強化して、悪性ウイルスとの全民抗争で必ず偉大な勝利を獲得すべきであると述べた。

金正恩総書記は、国に迫ってきた防疫危機の前での党の任務、党の役割、党活動家の責務について再三強調しながら、人民が恐れ、心配し、悩む場所にわが党組織と党活動家が立っていなければならない、人民に対する限りない献身と変わらぬ衷心を抱き、人民防衛、人民死守戦の防弾壁にならなければならないと述べた。

金正恩総書記は司法、検察、安全部門の役割と当面の任務に対して重要な問題を指摘した。

協議会では、伝染病に対処するための医療事業を作戦し指揮する地区別治療センターを設け、全国的な医療人員の均衡的配置を実施する問題、平壌市と各道、区域、郡に医薬品普及センターと医薬品普及拠点を設置して、医薬品供給事業の効果性、迅速性、安全性を高める問題、効能の高い高麗薬（漢方薬）を治療に積極的に利用する問題、製薬工場の生産能力を高め、必須薬品、常備薬品の品種を増やす問題、保健医療部門の物質的・技術的土台をいっそう強化するための根本的な対策を強く講じる問題が討議され、当該の政策的措置が講究された。

協議会では次に、党中央委員会第8期第5回総会準備事業の一環として、2022年上半期の党・国家政策執行情況を全面的に検討するための実務指導グループを各道に派遣する問題を討議した。

金正恩総書記は、国家非常防疫戦を引き続き強い調子で展開すると同時に、社会主義の全面的発展のための党の路線貫徹闘争を中断することなく頑強に推し進めなければならないと述べながら、党中央委員会第8期第4回総会が手配した、

党及び国家政策執行情況を地方別、部門別に調査・掌握するための実務指導グループを党中央委員会政治局員で組織することについて述べた。

金正恩総書記は、指導幹部が現地で住民に対する医薬品の供給と治療、生活保障すること、防疫措置実行など、非常防疫体系の稼動情況と共に、主要政策的課題を執行するための工業部門の生産と農業部門の営農工程別実態を正確に調査・掌握し、適時の対策を講じなければならないと強調した。

金正恩総書記は実務指導グループが、革命発展の要求と変遷する情勢の推移と環境に即して、当該地域の党政策貫徹を先導すべき地方党、政権機関、勤労者団体の機能と役割をより強化するための事業を発展的見地から積極的に指導・支援しなければならないと述べた。

金正恩総書記は、各道に派遣される指導幹部が、党と人民が与えた重任を重く受け止め、現地で実態を正確に把握し、それに基づいて、革新的な対策案を見いだして党中央委員会総会に報告し、それに関する決定に反映することができるようにすべきであると述べながら、その方途的問題を明らかにした。

政治局協議会では、政治局常務委員会委員たちと党中央委員会書記を基本にして、党中央委員会当該部署の活動家と内閣、司法検察部門の必要な人員を含む実務指導グループを組織することを決定し、当該グループが活動することになる地域と任務に関する分担と具体的な手配を行なった。

朝鮮労働党中央委員会政治局協議会開催

2022年5月29日付『労働新聞』によれば、朝鮮労働党中央委員会政治局は同日、党中央委員会本部庁舎で協議会を招集した。

金正恩総書記が協議会を指導した。協議会には、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会の委員と党中央委員会政治局の委員、委員候補が参加し、国家非常防疫司令部の活動家が傍聴した。

政治局はまず、同年5月28日現在の伝染病拡散状況に関する国家非常防疫司令部の報告を聴取した。

5月27日から28日まで全国的に8万9500人余りの発熱患者が新たに発生し、10万6390人余りが全快した。4月末から5月28日現在まで発生した全国的な発熱患者は累計344万8880人余りであり、94.602%に当たる326万2700人余りが全快したし、5.396%に当たる18万6110人余りが治療を受けている。

地域別伝染病の拡散状況と病気の経過特性、各種の分析資料と医薬品供給活動および治療経験が政治局に報告された。政治局は、初期発病地と拡散ルートに関する国家的な研究解明の結果を聴取し、当該の問題を討議した。

政治局は、全国的範囲で伝染病の拡散状況が統制、改善されていることについて肯定的に評価し、防疫の初期に積んだ経験をより強固にし、防疫戦況を引き続き安定、向上させていくための問題を討議した。政治局は、伝染病の拡散状況が安定する形勢に即して防疫の規定と指針を効率的に、迅速に操縦、実施するための問題を審議した。

協議会では、党中央委員会第8期第4回総会が手配した党および国家政策実行状況を中間総括するための実務指導グループの活動状況が通報され、党中央委員会第8期第5回総会の準備に関連する重要問題が討議された。

協議会ではまた、その他の国家事業方向に関する研究、討議が行われた。

朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会第14期第20回全員会議開催

2022年6月1日付『労働新聞』によれば、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議常任委員会第14期第20回全員会議が同年5月31日、平壌の万寿台議事堂で行われた。

崔竜海国務委員会第1副委員長、最高人民会議常任委員会委員長が同会議の司会を行った。全員会議には、最高人民会議常任委員会副委員長の姜潤石、パク・ヨンイル両氏、高吉先書記長をはじめとする最高人民会議常任委員会委員が参加した。最高人民会議常任委員会と内閣事務局、国家非常防疫司令部、省・中央機関の当該活動家が傍聴した。

全員会議では、新たに作成した朝鮮民主主義人民共和国原産地名および地理的表示法、医療鑑定法などと修正・補充した非常防疫法、道路法の採択、朝鮮民主主義人民共和国中央裁判所判事、人民参審員の召還および選挙に関する問題が議案として上程された。

全員会議では、最高人民会議法制委員会で審議された当該法と修正・補充案の基本内容に関する報告があった。

原産地名および地理的表示法は、原産地名および地理的表示の登録申請と審議、保護のための制度と秩序を確立し、特産品を生産する機関、企業所、団体の利益を保護し、人民経済を発展させることに寄与することを使命としている。

医療鑑定法は、医療鑑定において提起される原則的問題と医療鑑定機関の活動準則、医療鑑定の手順と方法、指導・統制に関する内容を規定している。

非常防疫法、道路法には、最大非常防疫体系の樹立と消毒、非常防疫秩序違反行為に対する法律的責任を規定した部分の内容がより具体化され、国の経済発展と人民の生活上の便宜に寄与し、国土の面ぼうを一新するための事項が補充された。

該当法と修正・補充案は、全国家的、全社会的に党と国家の政策を正確に執行し、人民の利益を保護するための法的闘争を強い調子で繰り広げていくことができるようにしている。

全員会議は、上程された議案を研究・審議し、最高人民会議常任委員会政令「朝鮮民主主義人民共和国原産地名および地理的表示法を採択することについて」、「朝鮮民主主義人民共和国医療鑑定法を採択することについて」、「朝鮮民主主義人民共和国非常防疫法を修正・補充することについて」、「朝鮮民主主義人民共和国道路法を修正・補充することについて」などを採択した。

全員会議では朝鮮民主主義人民共和国中央裁判所判事、人民参審員を召還および選挙した。

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘

研　究　所　だ　よ　り

役員の異動

＜辞任＞

令和4年3月31日付

理　事　藤倉勝明

（東北電力株式会社上席執行役員新潟支店長）

（役職は辞任時点）

＜退任＞

令和4年6月21日付

理　事　菊池洋紀（株式会社日本政策投資銀行新潟支店長）

（役職は退任時点）

＜就任＞

令和4年6月21日付

理　事　榎本隆克（東北電力株式会社執行役員新潟支店長）

理　事　和田雅彦（株式会社日本政策投資銀行新潟支店長）

（役職は令和4年7月1日時点）

※再任された方は割愛いたしました。

ERINA 日誌

6月1～13日　国際協力機構（JICA）草の根技術協力実施「東ゴビ砂漠における深穴方式による乾燥寒冷地緑化推進技術協力（地域活性化特別枠）」コーディネーター（モンゴル（ウランバートル、サインシャンド）、エンクバヤル主任研究員）

6月4日　日本国際経済学会第11回春季大会参加・報告（弘前市、中島主任研究員）

6月9日　新潟市国際交流協会理事会出席（クロスパルにいがた、新保企画・広報部長）

6月9日　ERINA 招聘外国人研究員着任（スペッツァ・ジャンルカ、～9月8日）

6月11～12日　比較経済体制学会2022年度全国大会参加・報告（函館市、新井調査研究部長）

6月14日　国際大学インターン生受け入れ（国際関係学研究科1年　橋本卓明　～8月31日）

6月15日　環日本海懇談会幹事会例会講師（オンライン、エンクバヤル主任研究員）

6月17日　出前授業（新潟市立葛塚中学校、李研究主任）

6月20日　ERINA REPORT（PLUS）No. 166発行

6月21日　ERINA 評議員会

6月23～24日　モンゴル国外務省・モンゴル戦略研究所主催「ウランバートル対話」参加、セッション4「ポストコロナ時代の北東アジア経済協力」発表（ウランバートル、エンクバヤル主任研究員、三村主任研究員）

7月1日　北陸地方整備局「北陸圏広域地方計画有識者懇談会」委員（新井調査研究部長　～2025年3月31日）

7月1日　国際情勢研究所「ロシア研究会」出席（東京、新井調査研究部長）

7月4日　国際大学インターン生受け入れ（国際関係学研究科1年　PUNAM KRISTHOMBUGE ERASHA HANSINI　～9月30日）

7月11日　新潟経済同友会2022年度第1回エネルギー委員会出席（新潟市、新井調査研究部長）

7月11日　研究費不正使用防止計画推進室（代表理事室）

7月14日　立命館大学日本・アジア研究所主催国際ワークショップ発表「Toward Sustainable Agriculture of Rice in Asia: Economic Challenges and Policy Aspects」（オンライン、董研究員）

7月15日　新潟経済同友会国際戦略委員会出席（新潟市、新井調査研究部長）

7月22日　広島県議連盟講演会講師（ANA クラウンプラザホテル新潟、三村主任研究員）

7月28日　ERINA セミナー「国際危機と中国経済－米中対立、コロナ禍、ウクライナ侵攻のなかで－」（朱鷺メッセ中会議室201、専修大学経済学部　大橋英夫教授）

編　集　後　記

今号は昨今の北朝鮮がどのような経済政策をとっているのかを紹介する論文を2本集めて特集とした。北朝鮮では、5月に新型コロナウイルス感染症患者が大量に発生し、世界の関心を呼んだ。幸い公式発表によると「第一波」は収束してきているように見える。これから「第二波」「第三波」があるかもしれないが、隣国の中国がウィズコロナに移行すれば（ロシアは既に出入国規制を全廃し、アフターコロナの段階）、北朝鮮もこれに倣うことになるだろう。自力更生を旨としているとは言え、2017年の国連決議による国際的制裁が実施されるまで、全世界的な国際分業の一端を担っていた北朝鮮は、石油をはじめとし、さまざまな原材料を輸入に依存している。閉鎖的なようで、世界とつながっている（ゆえに COVID-19も拡がる）北朝鮮の姿を是非記事を通じてご覧いただきたい。　（M）

発 行 人　河合正弘

編集委員長　新井洋史

編集委員　新保史恵　高井弘明　三村光弘　土田知美

発　　行　公益財団法人環日本海経済研究所 ©
The Economic Research Institute for Northeast Asia（ERINA）

〒950-0078　新潟市中央区万代島5番1号
万代島ビル13階
13th Floor, Bandaijima Building,
Bandaijima 5-1, Chuo-ku, Niigata City
950-0078 JAPAN

Tel：025-290-5545（代表）
Fax：025-249-7550
E-mail：webmaster@erina.or.jp
URL：https://www.erina.or.jp/

発 行 日　2022年8月22日

禁無断転載

お願い

ERINA REPORT（PLUS）の送付先が変更になりましたら、お知らせください。

ERINA（公益財団法人環日本海経済研究所）

〒950-0078 新潟市中央区万代島5番1号 万代島ビル13階
Tel:025-290-5545　Fax:025-249-7550　E-mail:webmaster@erina.or.jp

https://www.erina.or.jp